「岩手の幸福に関する指標」研究会（第６回）

日時：平成 29 年６月 23 日（金）
10：00～12：00
場所：岩手県立大学アイーナキャンパス
７階学習室１

次　　第

１　開　会

２　挨拶

３　協議事項
（１）主観的幸福感等に関する県民意識調査の分析結果について
（２）第５回研究会で示された主な御意見について
（３）その他

４　閉　会

「岩手の幸福に関する指標」研究会　委員及びアドバイサー　名簿

（研究会委員）

氏名	役職名
竹村　祥子	岩手大学人文社会科学部　教授
谷藤　邦基	株式会社イーアールアイ　監査役
山田　佳奈	岩手県立大学総合政策学部　准教授
吉野　英岐	岩手県立大学総合政策学部　教授
若菜　千穂	特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター 常務理事

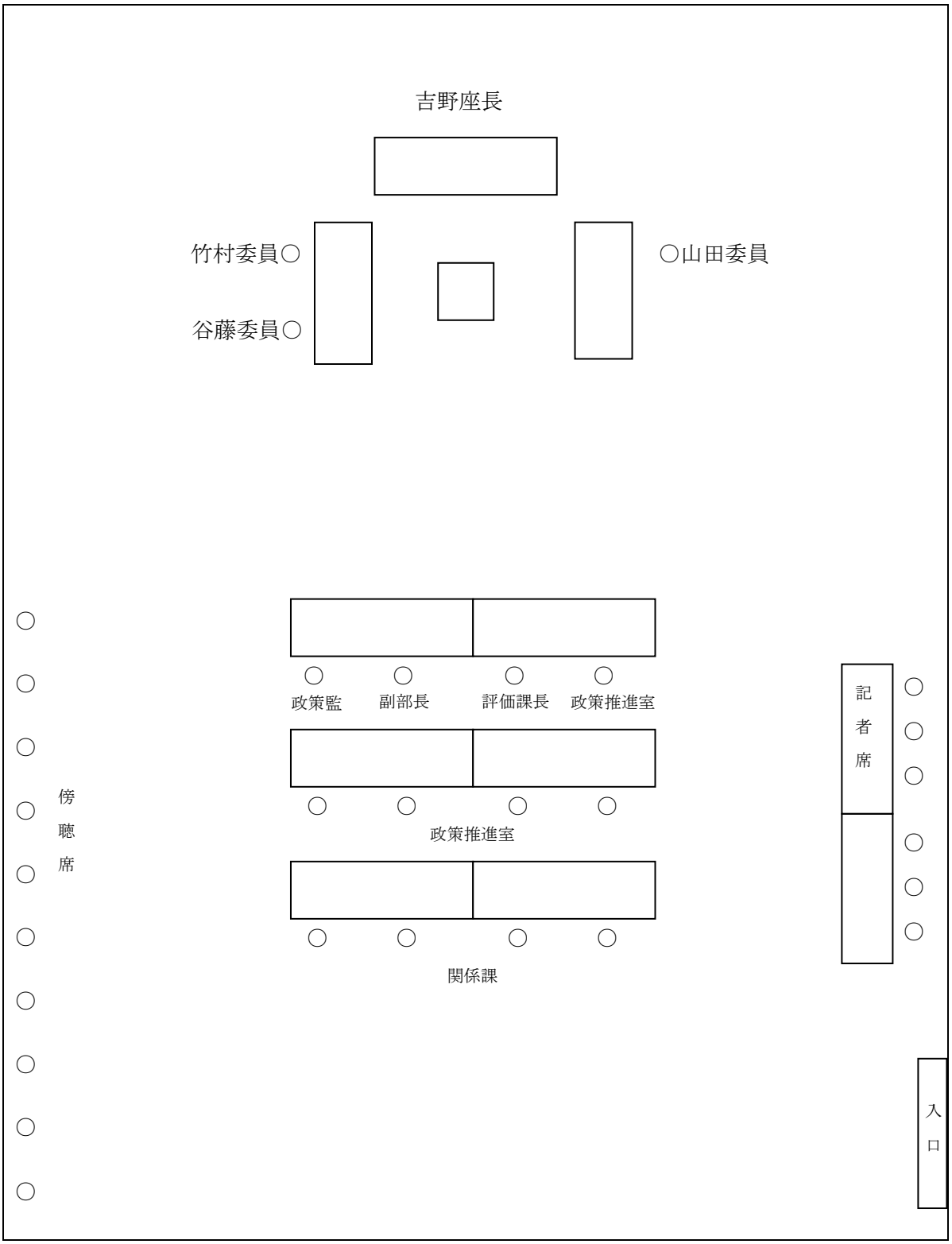
（アドバイザー）

氏名	役職名
広井　良典	京都大学こころの未来研究センター　教授

（敬称略　50 音順）

「岩手の幸福に関する指標」研究会（第６回）座席表

日時：平成 29 年６月 23 日（金）10：00～12：00
場所：岩手県立大学アイーナキャンパス７階学習室１



資料一覧

資料　　第６回「岩手の幸福に関する指標」研究会資料・・・・・　・・・・・・３

参考１　主観的幸福感等に関する県民意識調査の分析結果について・・・・・31

参考２　第５回研究会で示された主な御意見について・・・・・・・・・・・・65

参考３　客観的指標の具体例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67

資料

「岩手の幸福に関する指標」研究会（第6回）
検討資料

3

本日の説明の流れ

１　主観的幸福感等に関する県民意識調査の分析結果

(1)　主観的幸福感
(2)　領域別実感
(3)　協調的幸福感
(4)　ソーシャル・キャピタル

※本分析においては、広域振興圏別の母集団拡大集計は実施していないため、数値が「県の施策に関する県民意識調査結果報告書」に示された値と異なる部分がある。

２　第5回研究会で示された主な御意見への対応

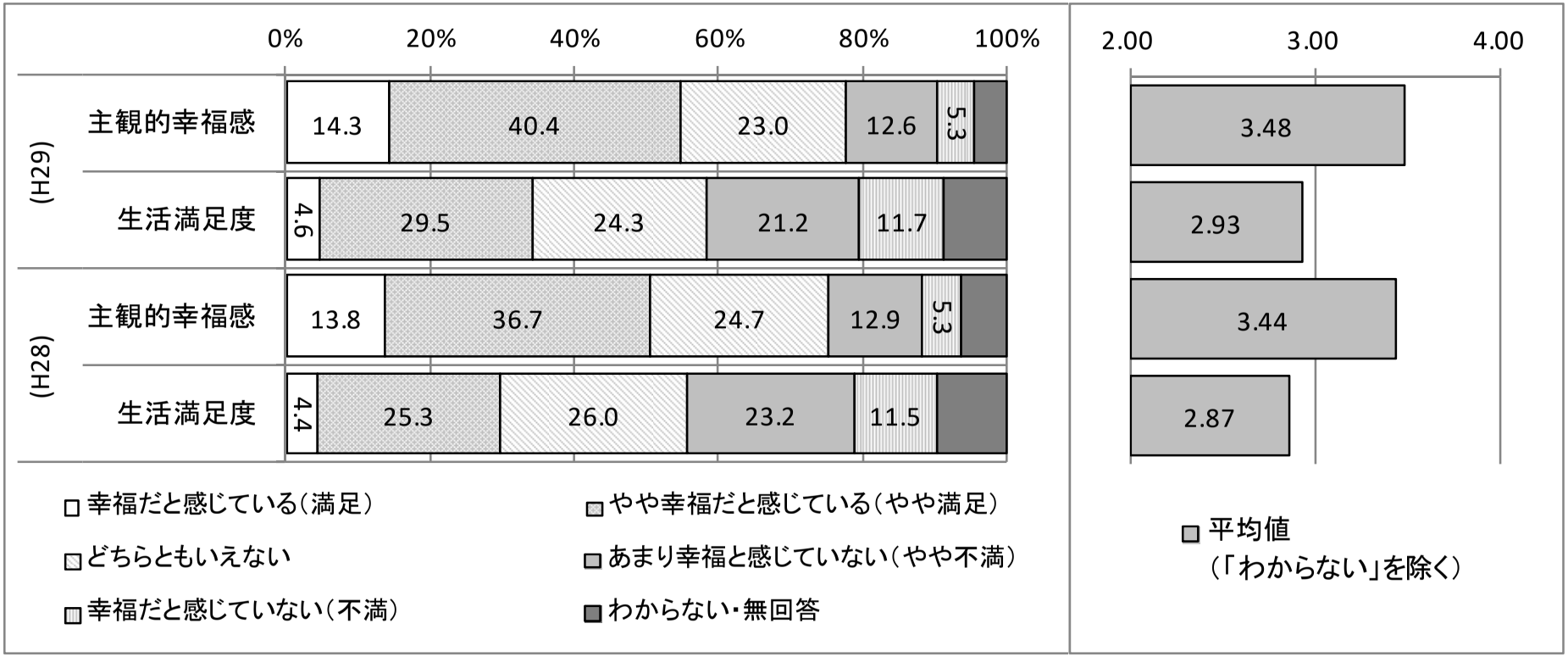
(1)　課題への対応方針
(2)　客観的指標の加除等
(3)　客観的指標の見方

３　指標体系案

主観的幸福感①（生活満足度との比較）

主観的幸福感は、前年調査と同様に、生活満足度と異なる傾向（高い傾向）がみられ、新たに主観的幸福感を測定する意義があるものと考えられた。（参考1　図1参照）

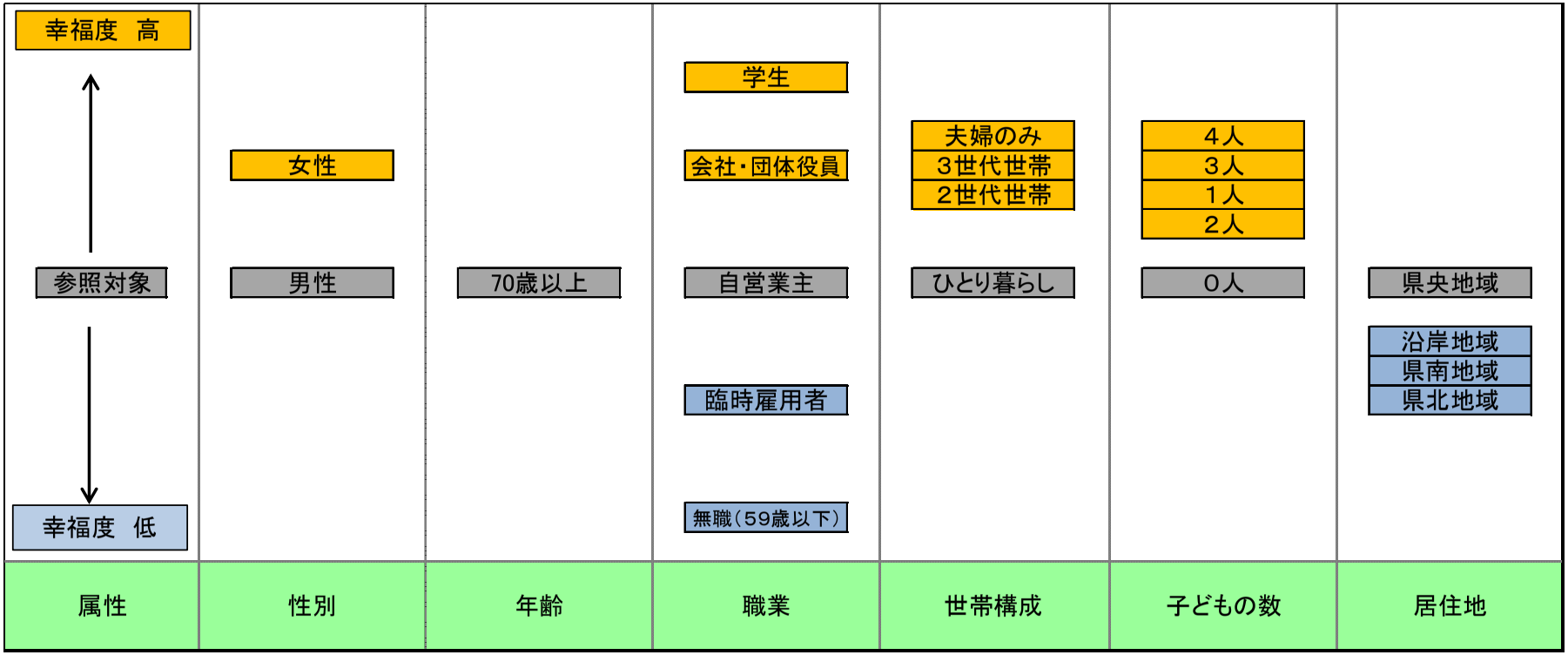
図1　H29とH28の主観的幸福感と生活満足度の結果（県全体）



主観的幸福感②（属性別）

●主観的幸福感は、女性が男性より高いなど、属性によって違いがみられた。
●年齢別では、30～50歳を底とするU字型が観測されたが、統計的に有意な違いはみられなかった。

図2　属性別の主観的幸福感



※参照対象より統計的に5%水準で有意な属性を取り上げた。

主観的幸福感③（属性別参考値）

主観的幸福感に対する回答者の属性の影響を統計的に確認したところ、次の結果となった。

表1　主観的幸福感に対する属性の影響（順序ロジット・モデル）

説明変数＼目的変数	主観的幸福感 平成29年 推定値	判定	t値	参考（平成28年） 推定値	判定	t値
性別						
男性●	－		－	－		－
女性	0.424	***	5.670	0.392	***	5.396
年齢						
18～19歳	−0.178		−0.447	（なし）		
20～29歳	0.040		0.208	0.393	**	2.128
30～39歳	−0.029		−0.191	−0.004		−0.029
40～49歳	0.031		0.232	0.078		0.582
50～59歳	−0.039		−0.316	−0.136		−1.125
60～69歳	0.023		0.233	−0.075		−0.764
70歳以上●	－		－	－		－
職業						
自営業主●	－		－	－		－
家族従業者	0.063		0.321	−0.029		−0.158
会社・団体役員	0.378	**	2.078	0.180		1.017
常用雇用者	−0.021		−0.150	−0.033		−0.256
臨時雇用者	−0.352	**	−2.285	−0.417	***	−2.827
学生	1.118	***	3.205	1.290	***	2.758
専業主婦（主夫）	−0.212		−1.382	−0.141		−0.963
無職（59歳以下）	−1.355	***	−4.827	−0.704	***	−2.911
その他（60歳以上無職含む）	−0.225		−1.641	−0.162		−1.282

説明変数＼目的変数 分析	主観的幸福感 平成29年 推定値	判定	t値	参考（平成28年） 推定値	判定	t値
世帯構成						
ひとり暮らし●	－		－	－		－
夫婦のみ	0.599	***	4.685	0.656	***	5.631
2世代世帯	0.418	***	3.434	0.327	***	2.894
3世代世帯	0.547	***	3.908	0.589	***	4.619
その他	0.143		1.048	−0.103		−0.800
子の数						
0人●	－		－	－		－
1人	0.400	***	3.288	0.262	**	2.227
2人	0.357	***	3.403	0.429	***	4.395
3人	0.465	***	3.977	0.351	***	3.116
4人	0.532	***	2.993	0.544	***	2.897
5人以上	0.295		0.831	−0.438		−1.565
居住地						
県央地域●	－		－	－		－
県南地域	−0.225	***	−2.641	−0.176	**	−2.061
沿岸地域	−0.222	**	−2.438	−0.103		−1.162
県北地域	−0.340	***	−3.412	−0.279	***	−2.773

※表中の「推定値」は、基準となる属性（●印）との相対的な差を示す。例えば、推定値が正であれば、基準となる属性に比べて幸福度が高く、負であれば低いことを示す。
また、「判定」は、「推定値」のt検定結果を示し、"***"は1%水準で、"**"は5%水準で、"*"は10%水準で有意であることを示す。

主観的幸福感④（重視した項目ｉ）

幸福を判断する際に重視した項目に、前年調査から大きく傾向が変化したものはなかった。（参考1　表1参照）

表２－１　幸福かどうか判断する際に重視する項目の順位①

	全体		男性		女性	
	H29	H28	H29	H28	H29	H28
1位	健康状況	健康状況	健康状況	健康状況	健康状況	健康状況
2位	家族関係	家族関係	家計の状況	家計の状況	家族関係	家族関係
3位	家計の状況	家計の状況	家族関係	家族関係	家計の状況	家計の状況
4位	自由な時間・充実した余暇	居住環境	居住環境	居住環境	自由な時間・充実した余暇	居住環境
5位	居住環境	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇	居住環境	自由な時間・充実した余暇
6位	友人関係	友人関係	友人関係	仕事のやりがい	友人関係	友人関係
7位	就業状況	就業状況	仕事のやりがい	就業状況	就業状況	就業状況
8位	自然環境	仕事のやりがい	就業状況	友人関係	自然環境	仕事のやりがい
9位	仕事のやりがい	自然環境	自然環境	自然環境	仕事のやりがい	自然環境
10位	職場の人間関係	職場の人間関係	職場の人間関係	職場の人間関係	職場の人間関係	職場の人間関係
11位	治安防災体制	治安防災体制	治安防災体制	治安防災体制	治安防災体制	治安防災体制
12位	地域コミュニティーとの関係	地域コミュニティーとの関係	地域コミュニティーとの関係	地域コミュニティーとの関係	地域コミュニティーとの関係	子育て関係
13位	子育て関係	子育て関係	子育て関係	子育て関係	子育て関係	地域コミュニティーとの関係
14位	社会貢献	教育環境	社会貢献	社会貢献	教育環境	教育環境
15位	教育環境	社会貢献	教育環境	教育環境	社会貢献	社会貢献
16位	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化
17位	その他	その他	その他	その他	その他	その他

1(1)主観的幸福感等に関する県民意識調査の分析結果

主観的幸福感⑤（重視した項目ⅱ）

表２－２　幸福かどうか判断する際に重視する項目の順位②

	18～19歳		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上	
	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28
1位	友人関係		自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇	家計の状況	家計の状況	家族関係	家計の状況	健康状況	健康状況	健康状況	健康状況	健康状況	健康状況
2位	自由な時間・充実した余暇		健康状況	家族関係	家族関係	家族関係	家計の状況	健康状況	家族関係	家計の状況	家族関係	家族関係	家族関係	家族関係
3位	健康状況		家族関係	健康状況	健康状況	健康状況	健康状況	家族関係	家計の状況	家族関係	家計の状況	家計の状況	家計の状況	家計の状況
4位	家族関係		友人関係	家計の状況	自由な時間・充実した余暇	就業状況	就業状況	就業状況	居住環境	居住環境	居住環境	居住環境	居住環境	居住環境
5位	家計の状況		家計の状況	友人関係	就業状況	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇	就業状況	就業状況	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇
6位	居住環境		就業状況	就業状況	居住環境	仕事のやりがい	居住環境	仕事のやりがい	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇	自然環境	友人関係	友人関係	友人関係
7位	就業状況		仕事のやりがい	仕事のやりがい	友人関係	居住環境	仕事のやりがい	居住環境	仕事のやりがい	仕事のやりがい	友人関係	自然環境	自然環境	自然環境
8位	教育環境		職場の人間関係	職場の人間関係	仕事のやりがい	職場の人間関係	職場の人間関係	職場の人間関係	友人関係	友人関係	仕事のやりがい	仕事のやりがい	治安防災体制	治安防災体制
9位	自然環境		居住環境	居住環境	職場の人間関係	友人関係	友人関係	友人関係	職場の人間関係	自然環境	就業状況	就業状況	地域コミュニティーとの関係	地域コミュニティーとの関係
10位	仕事のやりがい		自然環境	子育て関係	子育て関係	子育て関係	子育て関係	子育て関係	自然環境	職場の人間関係	治安防災体制	治安防災体制	仕事のやりがい	仕事のやりがい
11位	職場の人間関係		子育て関係	自然環境	自然環境	治安防災体制	自然環境	自然環境	治安防災体制	治安防災体制	地域コミュニティーとの関係	地域コミュニティーとの関係	就業状況	社会貢献
12位	治安防災体制		治安防災体制	治安防災体制	治安防災体制	自然環境	治安防災体制	治安防災体制	地域コミュニティーとの関係	地域コミュニティーとの関係	職場の人間関係	職場の人間関係	社会貢献	教育環境
13位	地域の歴史・文化		地域コミュニティーとの関係	社会貢献	教育環境	教育環境	教育環境	教育環境	子育て関係	子育て関係	社会貢献	社会貢献	地域の歴史・文化	就業状況
14位	その他		社会貢献	教育環境	地域コミュニティーとの関係	地域コミュニティーとの関係	地域コミュニティーとの関係	地域コミュニティーとの関係	社会貢献	教育環境	子育て関係	子育て関係	教育環境	地域の歴史・文化
15位	社会貢献		教育環境	地域コミュニティーとの関係	社会貢献	社会貢献	社会貢献	社会貢献	教育環境	社会貢献	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	子育て関係	子育て関係
16位	子育て関係		その他	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	その他	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	教育環境	教育環境	職場の人間関係	職場の人間関係
17位	地域コミュニティーとの関係		地域の歴史・文化	その他	その他	その他	その他	地域の歴史・文化	その他	その他	その他	その他	その他	その他

主観的幸福感⑥（重視した項目 iii）

幸福感が高い層※1は関係性を重視し、幸福感が低い層※2は家計の状況を重視する傾向がみられた。

（参考1　図14及び15参照）

※1：幸福感が高い層：主観的幸福感の設問で、「幸福」「やや幸福」を選択した回答者

※2：幸福感が低い層：主観的幸福感の設問で、「あまり幸福でない」「幸福でない」を選択した回答者

図3　主観的幸福感が高い層が重視する項目の例

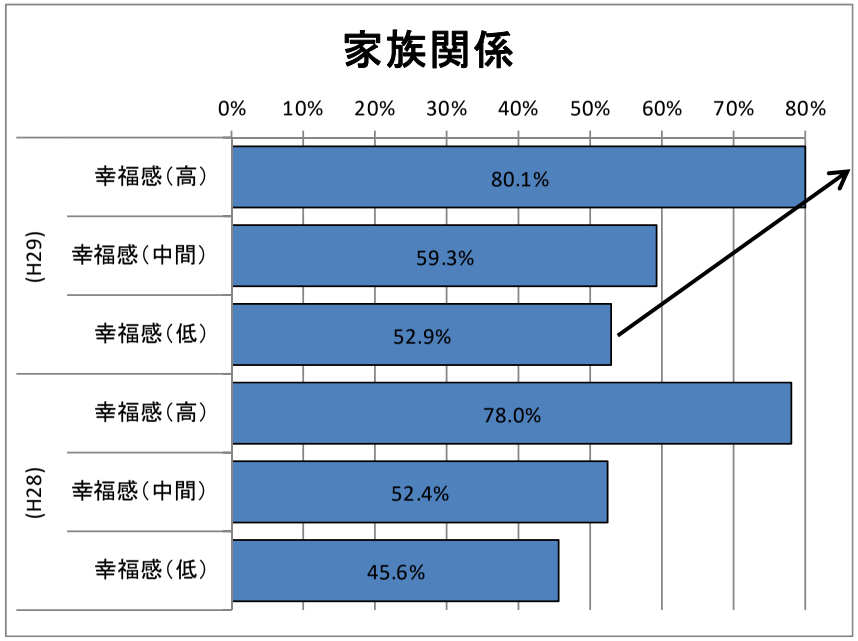
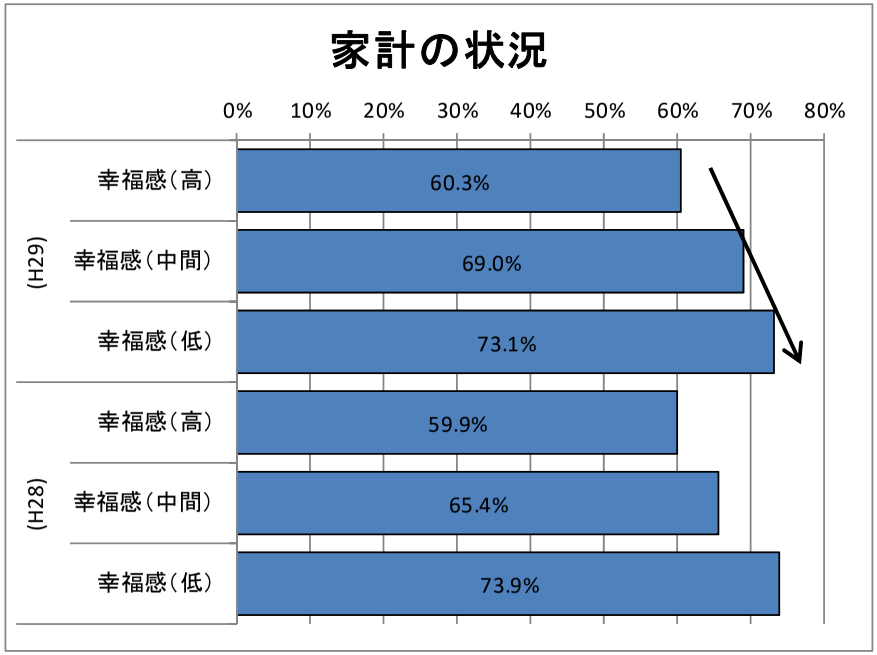


図4　主観的幸福感が低い層が重視する項目の例



領域別実感①（属性別）

領域別の実感は、女性及び70歳以上において県平均よりも高い傾向がみられた。（参考1　表2参照）

表3　属性別の領域別実感の平均値

設問項目	県平均	男性	女性	18～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
①自然のゆたかさ	4.26	4.23	4.29	4.35	4.37	4.28	4.30	4.30	4.24	4.20
②家族関係	3.84	3.82	3.86	3.80	4.06	3.85	3.79	3.76	3.81	3.93
③地域の安全	3.83	3.86	3.82	3.91	3.80	3.75	3.79	3.81	3.83	3.94
④自然環境の保護	3.56	3.51	3.60	3.83	3.61	3.43	3.61	3.53	3.52	3.63
⑤仕事のやりがい	3.56	3.57	3.55	3.27	3.35	3.47	3.54	3.53	3.64	3.63
⑥住まいの快適さ	3.37	3.32	3.40	3.41	3.33	3.28	3.33	3.18	3.40	3.55
⑦地域社会とのつながり	3.34	3.32	3.35	3.27	3.05	2.96	3.27	3.25	3.39	3.62
⑧歴史・文化への誇り	3.32	3.27	3.36	3.40	3.29	3.16	3.28	3.23	3.30	3.52
⑨子どもの教育	3.12	3.08	3.14	3.27	2.91	3.04	3.08	3.02	3.10	3.34
⑩子育て	3.09	3.02	3.14	3.00	2.84	2.94	3.07	3.04	3.13	3.25
⑪余暇の充実	3.03	2.96	3.08	3.44	2.99	2.88	2.82	2.85	3.09	3.30
⑫心身の健康	3.03	3.03	3.04	3.15	3.06	2.88	2.88	2.96	3.11	3.15
⑬自身の学習	2.87	2.87	2.86	3.64	2.84	2.64	2.73	2.77	2.91	3.10
⑭必要な収入や所得	2.58	2.60	2.56	2.81	2.52	2.47	2.56	2.52	2.57	2.70

※5段階評価の平均値。「わからない」を除いて計算している（以下、平均値の計算は同様）。全体平均よりも高い属性に網掛けをしている。18～19歳も網掛け部分が多いがサンプル数が少ないので本文では言及していない。

領域別実感②（主観的幸福感及び生活満足度との相関）

領域別実感と主観的幸福感及び生活満足度の相関に、前年調査から大きな変化はみられなかった。（参考1　表3参照）

表4　領域別実感と主観的幸福感の相関

項　目	H29	H28
①家族関係	0.51	0.52
②余暇の充実	0.49	0.53
③心身の健康	0.47	0.50
④住まいの快適さ	0.47	0.50
⑤子育て	0.42	0.40
⑥必要な収入や所得	0.40	0.41
⑦仕事のやりがい	0.38	0.42
⑧自身の学習	0.33	－
⑨地域社会とのつながり	0.33	0.33
⑩歴史・文化への誇り	0.30	0.24
⑪地域の安全	0.29	0.34
⑫子どもの教育	0.26	0.28
⑬自然のゆたかさ	0.20	－
⑭自然環境の保護	0.18	0.24

表5　領域別実感と生活満足度の相関

項　目	H29	H28
⑥必要な収入や所得	0.50	0.46
②余暇の充実	0.45	0.44
④住まいの快適さ	0.44	0.44
③心身の健康	0.39	0.40
⑤子育て	0.36	0.34
①家族関係	0.33	0.31
⑧自身の学習	0.32	－
⑦仕事のやりがい	0.30	0.30
⑨地域社会とのつながり	0.28	0.28
⑪地域の安全	0.28	0.30
⑩歴史・文化への誇り	0.27	0.18
⑫子どもの教育	0.27	0.23
⑭自然環境の保護	0.19	0.23
⑬自然のゆたかさ	0.14	－

※H29相関係数で降順した結果。相関係数0.4以上に赤で、0.2から0.4未満までを橙で網掛けしている。

協調的幸福感①（定義）

■協調的幸福感とは

北米に比べて日本では、幸福かどうか考える際に、人との関係性を重視し、他者との協調性や他者の幸福、平穏な感情状態に焦点を置く傾向があり、これらを踏まえた幸福感の考え方として協調的幸福感という概念が示されている。

表6　文化と幸福の関係性

	日本	北米
幸福感情	低覚醒感情「おだやかさ」 関与的感情「親しみ」	高覚醒感情「うきうき」 脱関与的感情「誇り」
幸福の捉え方	バランス志向的幸福像	増大的幸福像
幸福の予測因	関係志向 協調的幸福、人並み感 関係性調和 ソーシャルサポート	個人達成志向 自己価値・自尊心

（参考）内田由紀子（2013）「日本人の幸福感と幸福度指標」、『心理学ワールド60号』：5-8、日本心理学会。

表7　設問項目（問4-4）※H29県民意識調査

①身近な周りの人が幸福であると感じますか。［身近な人の幸福］
②周りの人に認められていると感じますか。　［周囲からの承認］
③大切な人を幸福にしていると感じますか。　［大切な人の幸福への寄与］
④安定した日々を過ごしていると感じますか。［安定した日々］
⑤人に迷惑をかけずに自分のやりたいことができていると感じますか。［他者に迷惑をかけない自己実現］
⑥周りの人たちと同じくらい幸福だと感じますか。［人並み感］

協調的幸福感②（男女別）

協調的幸福感の調査項目の全てにおいて、女性の値が高かった。（参考1　図18参照）

表8　協調的幸福感の平均値（男女別）

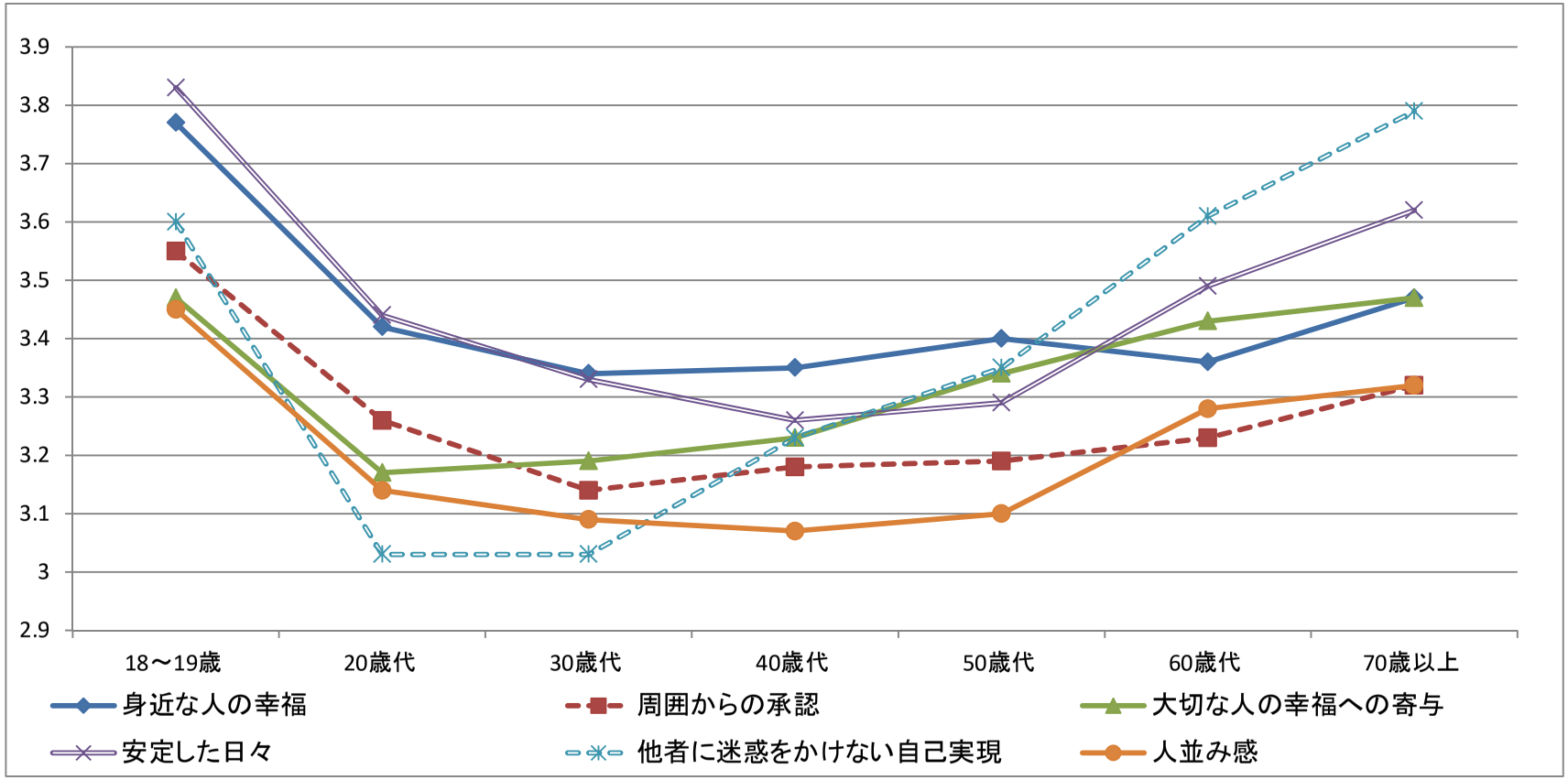
設問項目	全　体	男　性	女　性
①身近な人の幸福	3.40	3.29	3.48
②周囲からの承認	3.23	3.18	3.28
③大切な人の幸福への寄与	3.35	3.25	3.43
④安定した日々	3.43	3.32	3.52
⑤他者に迷惑をかけない自己実現	3.45	3.39	3.50
⑥人並み感	3.19	3.09	3.28

※5段階評価の平均値。

協調的幸福感③（年代別）

年代別の協調的幸福感は、U字カーブを描く傾向がみられた。（参考1　図19参照）。

図5　協調的幸福感の平均値（世代別）



※5段階評価の平均値。

協調的幸福感④（主観的幸福感等との相関）

協調的幸福感は、主観的幸福感との間にかなりの相関がみられた。 また、領域別実感には、一定の相関がみられた 。（参考1　表4参照）

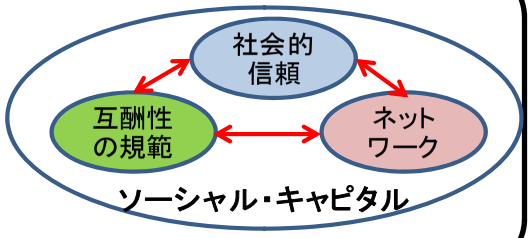
表9　協調的幸福感と主観的幸福感等の相関

設問項目	主観的幸福感	仕事のやりがい	必要な収入や所得	心身の健康	家族関係	子育て	地域の安全	地域社会とのつながり	自身の学習	子どもの教育	歴史・文化への誇り	自然のゆたかさ	自然環境の保護	住まいの快適さ	余暇の充実
①身近な人の幸福	0.32	0.19	0.20	0.24	0.23	0.27	0.23	0.23	0.23	0.28	0.24	0.18	0.21	0.24	0.29
②周囲からの承認	0.42	0.36	0.30	0.39	0.34	0.32	0.25	0.35	0.30	0.26	0.32	0.23	0.25	0.32	0.33
③大切な人の幸福への寄与	0.51	0.26	0.27	0.40	0.46	0.37	0.23	0.26	0.29	0.28	0.25	0.15	0.20	0.34	0.37
④安定した日々	0.60	0.34	0.41	0.48	0.45	0.41	0.31	0.31	0.31	0.28	0.28	0.18	0.21	0.43	0.47
⑤他者に迷惑をかけない自己実現	0.49	0.29	0.34	0.43	0.36	0.33	0.28	0.30	0.33	0.25	0.20	0.16	0.20	0.35	0.45
⑥人並み感	0.67	0.32	0.40	0.48	0.45	0.41	0.31	0.35	0.35	0.27	0.30	0.20	0.20	0.44	0.46

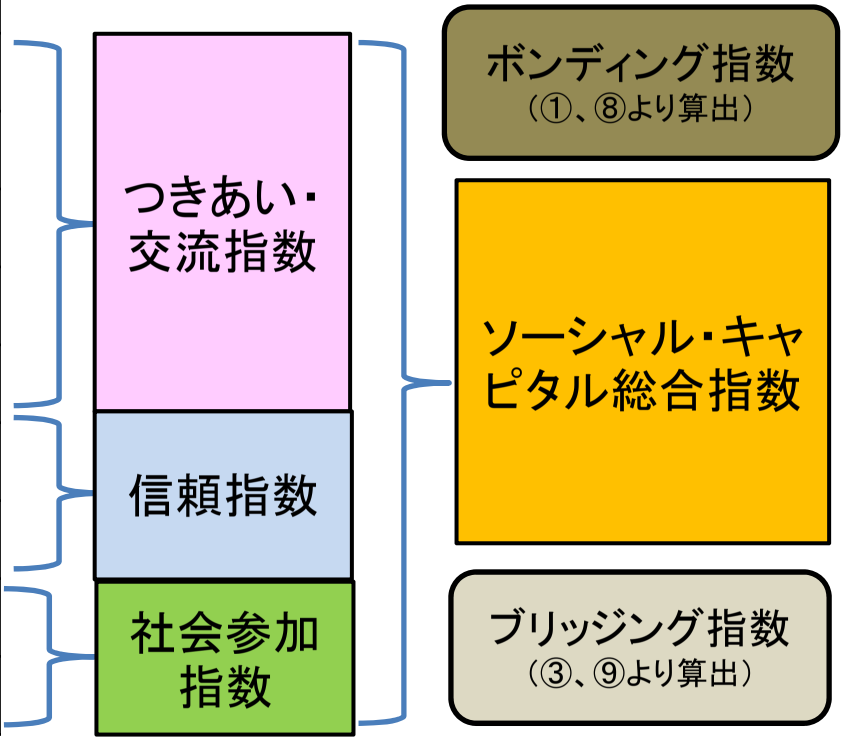
ソーシャル・キャピタル①（定義）

■ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）とは

人々の協調行動が活発化することで社会の効率性を高めることができる、社会の「信頼関係」、「規範」、「ネットワーク」（つきあい、交流）といった社会組織のこと。



構成要素	設問項目（問5-1～5-7）
つきあい・交流（ネットワーク）	①隣近所とのつきあいの程度
	②隣近所とつきあっている人の数
	③友人・知人とのつきあいの頻度
	④親戚とのつきあいの頻度
	⑤スポーツ・趣味・娯楽活動への参加状況
社会的信頼	⑥一般的な人への信頼
	⑦見知らぬ土地での人への信頼
社会参加（互酬性の規範）	⑧地縁的な活動への参加状況
	⑨ボランティア・NPO・市民活動への参加状況

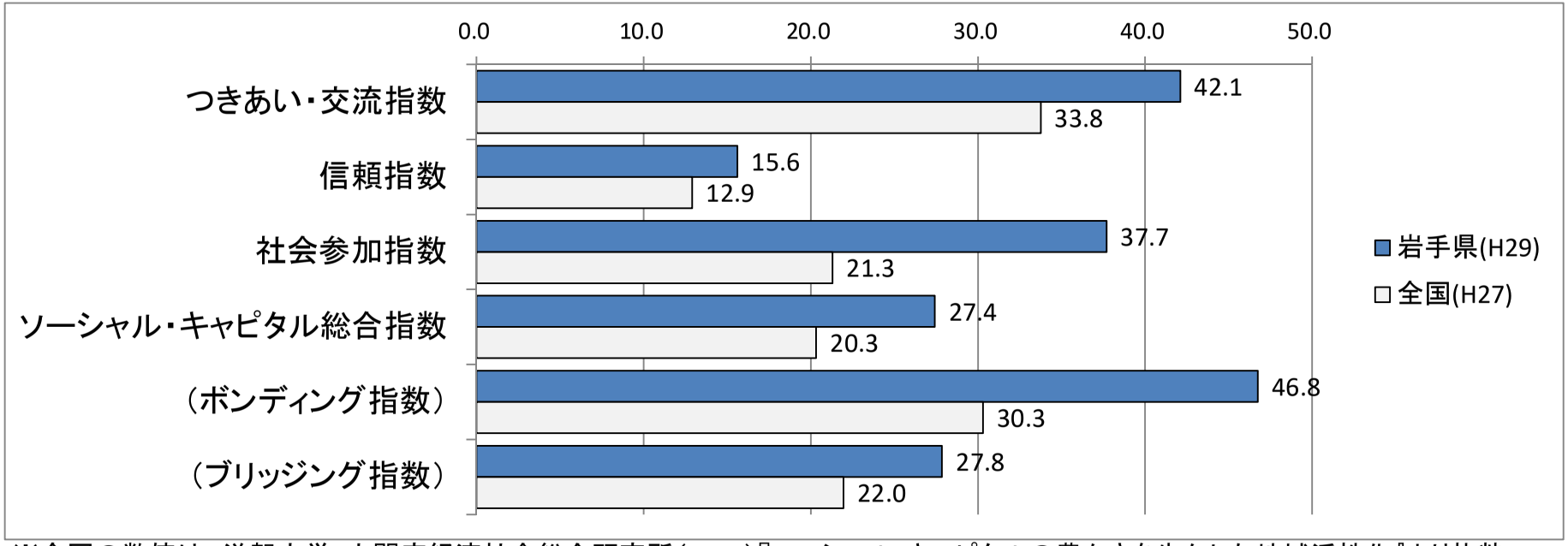


滋賀大学・内閣府経済社会総合研究所（2016）『ソーシャル・キャピタルの豊かさを生かした地域活性化』の手法をもとに算出した。

ソーシャル・キャピタル②（ソーシャル・キャピタル指数）

本県は、全国と比較してソーシャル・キャピタルが高いと考えられる。（参考1　図20参照）

図6　ソーシャル・キャピタル指数（全国との比較）



※全国の数値は、滋賀大学・内閣府経済社会総合研究所（2016）『ソーシャル・キャピタルの豊かさを生かした地域活性化』より抜粋

■ボンディング指数とは
結合型（bonding）ソーシャル・キャピタルを指数化したもの。組織の内部における人と人との同質的な結びつきで、家族やグループメンバー間の関係を指す。
信頼や協力、結束を生むものとされているが 、この性格が強すぎると、「排他性」につながる場合もあり得るとされている。

■ブリッジング指数とは
橋渡し型（bridging）ソーシャル・キャピタルを指数化したもの。異なる組織を結び付けるネットワークとされ、グループを越えた関係、友人の友人などとのつながりを指す。
より横断的なつながりとして特徴付けられ、社会の潤滑油とも言うべき役割を果たすとみられている。

ソーシャル・キャピタル③（属性別）

本県のソーシャル・キャピタルは、多くの項目で、全国より高い傾向がみられた。また、60歳代、70歳以上で高い。

（参考1　表5参照）

表10　ソーシャル・キャピタルの属性別の平均値

	項　目	県平均値	国平均値	男性	女性	18～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	備　考
つきあい・交流	①隣近所とのつきあいの程度	2.73	2.36	2.67	2.78	2.30	2.14	2.30	2.43	2.67	2.92	3.13	生活面で協力（4点） 立ち話程度（3点） あいさつ程度（2点） 全くしていない（1点）
	②隣近所とつきあっている人の数	2.70	2.36	2.74	2.67	2.49	2.28	2.38	2.50	2.72	2.87	2.89	20人以上（4点） 5～19人（3点） 4人以下（2点） 隣の人が誰か知らない（1点）
	③友人・知人とのつきあいの頻度	3.24	3.03	3.19	3.28	3.81	3.46	3.03	2.89	3.00	3.31	3.57	毎日～週数回（5点） 週に1回～月数回（4点） 月1回～年数回（3点） 年1回～数年に1回（2点） 全くない（1点）
	④親戚とのつきあいの頻度	3.17	2.82	3.10	3.22	3.15	3.03	3.05	2.97	3.04	3.25	3.39	
	⑤スポーツ・趣味・娯楽活動への参加状況	1.30	1.32	1.34	1.27	1.28	1.34	1.26	1.22	1.30	1.30	1.37	活動している（2点） 活動していない（1点）
信頼	⑥一般的な人への信頼	1.86	1.72	1.87	1.85	1.84	1.74	1.73	1.83	1.89	1.90	1.89	ほとんどの人は信頼できる（3点） 両者の中間（2点） 注意するにこしたことはない（1点）
	⑦見知らぬ土地での人への信頼	1.62	1.58	1.68	1.57	1.70	1.49	1.53	1.66	1.70	1.65	1.55	
社会参加	⑧地縁的な活動への参加状況	1.39	1.21	1.40	1.38	1.13	1.10	1.32	1.40	1.42	1.45	1.42	活動している（2点）、活動していない（1点）
	⑨ボランティア・NPO・市民活動への参加状況	1.19	1.10	1.23	1.16	1.15	1.10	1.13	1.14	1.18	1.23	1.25	

ソーシャル・キャピタル④（主観的幸福感との関係）

主観的幸福感の高い層は、ソーシャル・キャピタルも高い傾向がみられた。（参考1　図30～38参照）

つきあい・交流

図7　隣近所とのつきあいの程度

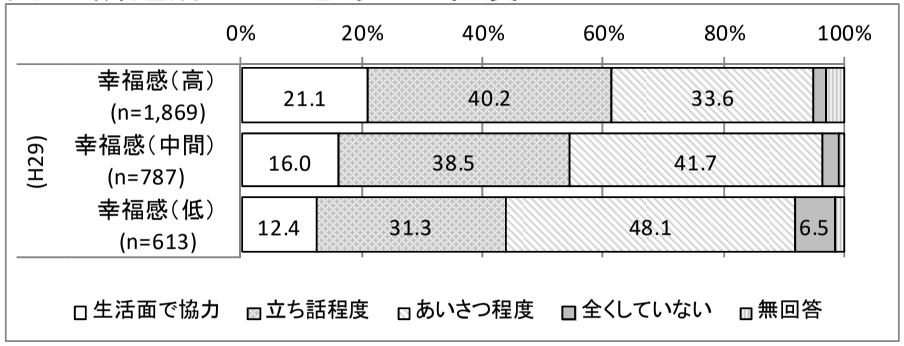
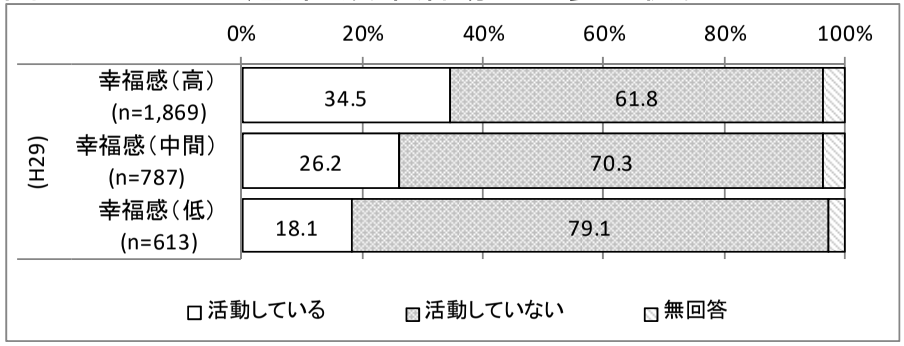
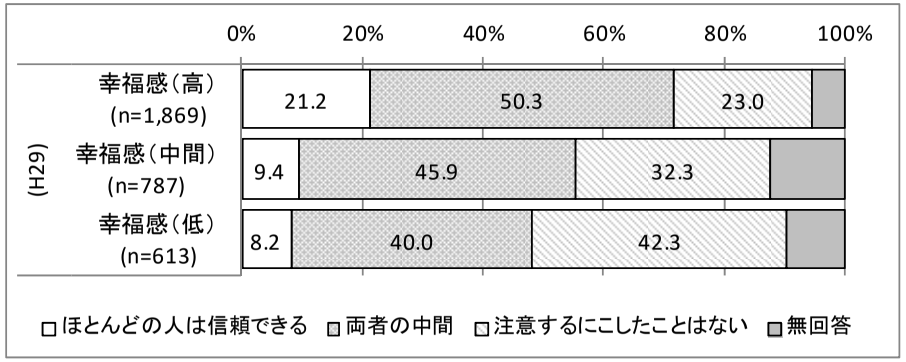


図8　スポーツ・趣味・娯楽活動への参加状況



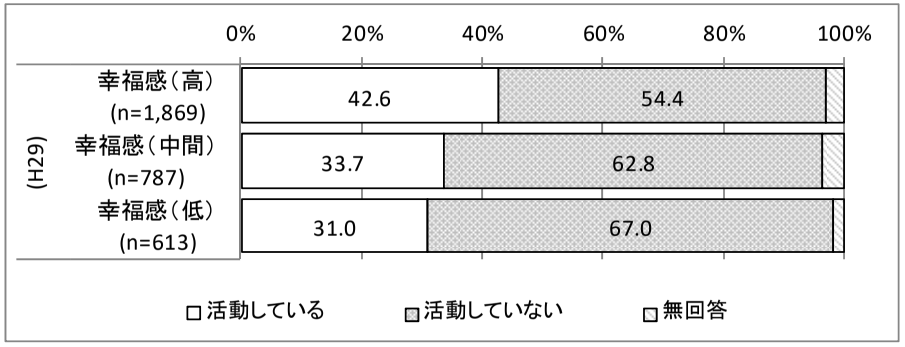
信頼

図9　一般的な人への信頼



社会参加

図10　地縁的な活動への参加状況



ソーシャル・キャピタル⑤（属性別の実感）

ソーシャル・キャピタル構成要素の実感は、60歳、70歳以上で高い傾向がみられた。（参考1　表6参照）

表11　ソーシャル・キャピタル構成要素の実感（属性別）

項　目	県平均値	男性	女性	18～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
①地域への愛着	3.62	3.66	3.59	3.70	3.50	3.41	3.44	3.49	3.69	3.88
②ご近所つきあいのよさ	3.47	3.44	3.49	3.34	3.12	3.12	3.17	3.36	3.59	3.86
③信頼できる人の有無	3.54	3.49	3.58	3.89	3.63	3.41	3.33	3.38	3.55	3.80
④地域活動等への参加	2.82	2.88	2.77	2.77	2.38	2.43	2.57	2.80	3.02	3.07

※5段階評価の平均値。県平均より高い数値に網掛けをしている。

ソーシャル・キャピタル⑥（主観的幸福感との関係）

ソーシャル・キャピタル構成要素の実感は、主観的幸福感及び領域別実感との間に一定の相関がみられた。

（参考1　表7参照）

表12　ソーシャル・キャピタルの実感と主観的幸福感等の相関

	主観的幸福感	領域別実感													
		仕事のやりがい	必要な収入や所得	心身の健康	家族関係	子育て	地域の安全	地域社会とのつながり	自身の学習	子どもの教育	歴史・文化への誇り	自然のゆたかさ	自然環境の保護	住まいの快適さ	余暇の充実
地域への愛着	0.30	0.29	0.21	0.22	0.21	0.25	0.27	0.43	0.31	0.30	0.44	0.31	0.25	0.32	0.28
ご近所つきあいのよさ	0.25	0.21	0.16	0.24	0.22	0.25	0.26	0.49	0.28	0.28	0.31	0.26	0.21	0.28	0.24
信頼できる人がいる	0.31	0.25	0.18	0.26	0.26	0.25	0.24	0.40	0.26	0.25	0.33	0.25	0.17	0.24	0.29
地域活動等への参加	0.25	0.26	0.18	0.25	0.18	0.25	0.16	0.46	0.33	0.27	0.34	0.20	0.16	0.21	0.28

ソーシャル･キャピタルは、健康増進を導く可能性があり、結合型のソーシャル･キャピタルが重要な役割を果たすと考えられる。
教育面での成果の可能性として、親が学校に関与することが子供の学習意欲に影響を与えると考えられている。また、社会的なつながりが幅広く、多様であるほど、子供達の学習体験の機会が広がるなど、好影響がもたらされるとみられている。
犯罪発生率を低下させる可能性がある。社会的なネットワークやきずなが人々に罪を犯すことを抑制するという考え方がある。

【内閣府（2003）ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて】

結束型ソーシャル・キャピタルを保有することは、有意に主観的幸福感を向上させる。
橋渡し型ソーシャル・キャピタルにも、主観的幸福感を向上させる効果が有意に存在する。

【辻　竜平他(2014)ソーシャル・キャピタルと格差社会　幸福の計量社会学】

1 主観的幸福感等に関する県民意識調査の分析結果（まとめ）

①主観的幸福感と領域別実感

H29年調査結果に、前年調査から大きな変化はみられなかった。

〇主観的幸福感は生活満足度に比べて高い傾向にある。

〇主観的幸福感は属性によって違いがみられる。

〇幸福を判断する際に重視した項目は、前年調査と同様の傾向にある。

〇領域別実感と主観的幸福感及び生活満足度の相関は、前年調査と同様の傾向にある。

②協調的幸福感

・主観的幸福感との間でかなりの相関が、また、領域別実感との間でも一定の相関がみられた。

・属性によって協調的幸福感に違いがみられた。

③ソーシャル・キャピタル

・本県は、全国と比較してソーシャル・キャピタルが高いと考えられる。

・主観的幸福感及び領域別実感との間に一定の相関がみられた。

・属性によって、ソーシャル・キャピタルに違いがみられた。

2(1)第5回研究会で示された主な御意見への対応

課題への対応方針

研究会の御議論を踏まえ、客観的指標の加除や、いわて県民計画で採用している指標にはその旨を表示するなどをしてはどうか。

中間報告での位置づけ	第5回研究会の主な御意見	対応方針（案）
●幸福は主観的な面が大きく影響することから、主観的指標を中心とした上で、主観のみではとらえにくい点等を客観的指標で補足する構成とする。	①大震災津波後の特殊要因がデータに影響している場合がある。	①‘「客観的指標の見方①」のとおり。
	②マクロの視点だけでなくミクロの視点も必要。	②‘「客観的指標の見方②」のとおり。また、報告書に政策推進上の留意点として記載する。
●客観的指標は、行政として直接関与できるものもあり、現状を的確に把握するため、全国との比較ができる指標を設定する。（p10）	③婚姻率や三世代同居など価値判断の分かれる指標がある。政策的に関与する指標か整理が必要。	③‘客観的指標は現状を把握するための補完指標として整理するもの。指標に対する政策的な関与方向性については、いわて県民計画で採用している指標についてその旨表示する。
●客観的指標の項目は次の観点から選択する。（p11） ①県民意識調査から主観的幸福感と関係が認められたもの ②先行研究で主観的幸福感と関係があるとされているもの ③先行事例で採用頻度が高いもの ④岩手の目指すゆたかさを示すもの	④都市的指標が多く、岩手の優れた環境をみることも重要。	④‘新たに指標を追加する。
	⑤変動のない指標もある。	⑤‘森林面積割合など変動のない指標であっても本県の特徴を表すものは指標として残し、領域別に変動のある指標と合わせてみていく。

2(2)第5回研究会で示された主な御意見への対応

客観的指標の加除等

①指標の追加

客観的指標の項目区分	名　　称
交通の利便性関係	生鮮食品販売店舗まで500m以上であり、自動車を持たない人口の割合
火災関係	消防団員数
医療・保健関係	特定健康診査受診率
世帯構成関係	65歳以上の独居世帯数
温泉関係	温泉地数

②指標の削除

客観的指標の項目区分	名　　称
NPO・ボランティア関係	NPO法人認証数（人口10万人当たり）
多文化共生関係	出国者数（人口千人当たり）

③指標の変更

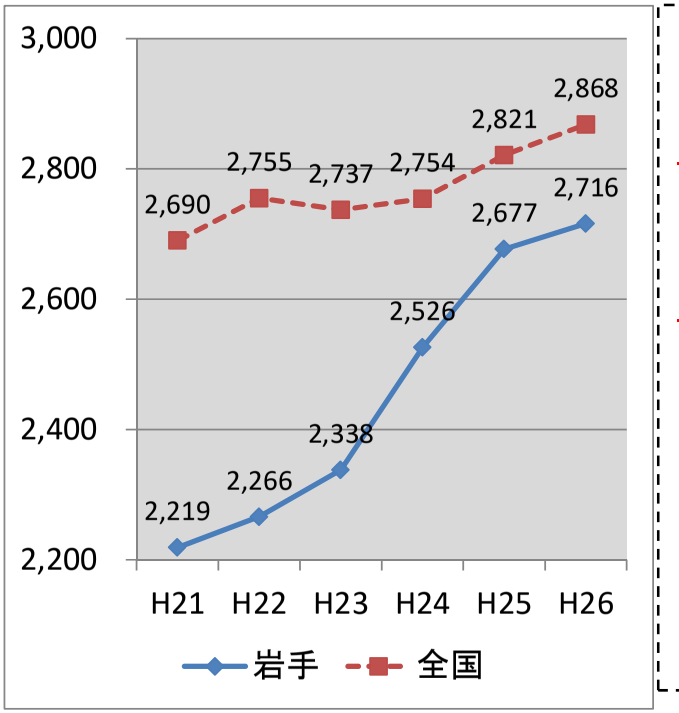
客観的指標の項目区分	名　　称
婚姻関係	婚姻率（人口千人当たり） ↓ 結婚サポートセンターの会員成婚数、生涯未婚率
相談相手関係	民生委員（児童委員）数（人口10万人当たり） ↓ 隣近所との面識・交流がある人の率

2(2)第5回研究会で示された主な御意見への対応

客観的指標の見方

第5回研究会での御意見を踏まえ、客観的指標を見る際には、次の事項に留意することとし、最終報告に留意事項を記載してはどうか。
① 震災前を含むデータをグラフ化すること等により、適切に経年を把握するよう努める（図11参照）。
② 属性ごとにばらつきが大きいと考えられるデータについては、平均値のみではなく、属性別にデータを把握するよう努める。

図11　一人当たり県民所得　　単位：千円



・震災の影響で一時的に上がっているが、今後下がっていくと思われるデータが含まれている。通常時と比べて異なる動きをしているデータの見方について考える必要がある。

・経済関係のデータについては、集計したり、平均したりすることによって見えなくなる部分がある。例えば、有効求人倍率は業種別のばらつきが非常に大きい。データを見る際には、ミクロな視点を持つこと。

【第5回研究会での御意見】

３指標体系案①

H28及びH29年県民意識調査の結果を踏まえ、次の考え方により、指標体系を整理してはどうか。

１　12領域の設定
中間報告書で示した12の領域とする。

２　領域別実感指標の修正
①「自身の学習」は主観的幸福感と一定の相関が確認できたことから、【教育】の領域に追加する。
②「自然環境の保護」は、主観的幸福感と相関が確認できなかった。一方、「自然のゆたかさ」は確認できたこと。
以上から、【自然環境】の領域実感指標は「自然のゆたかさ」とする。

３指標体系案②

３　協調的幸福感の位置付け

協調的幸福感は、主観的幸福感とかなりの相関が確認できたことから、主観的幸福感に直接関連するものとして位置付ける。

政策展開への活用が難しい概念であるが、岩手ならではの生き方といった観点から重要な視点と考えられることから、参考指標とする。

なお、参考指標であるため、客観的指標は設定しない。

４　ソーシャルキャピタルの位置付け

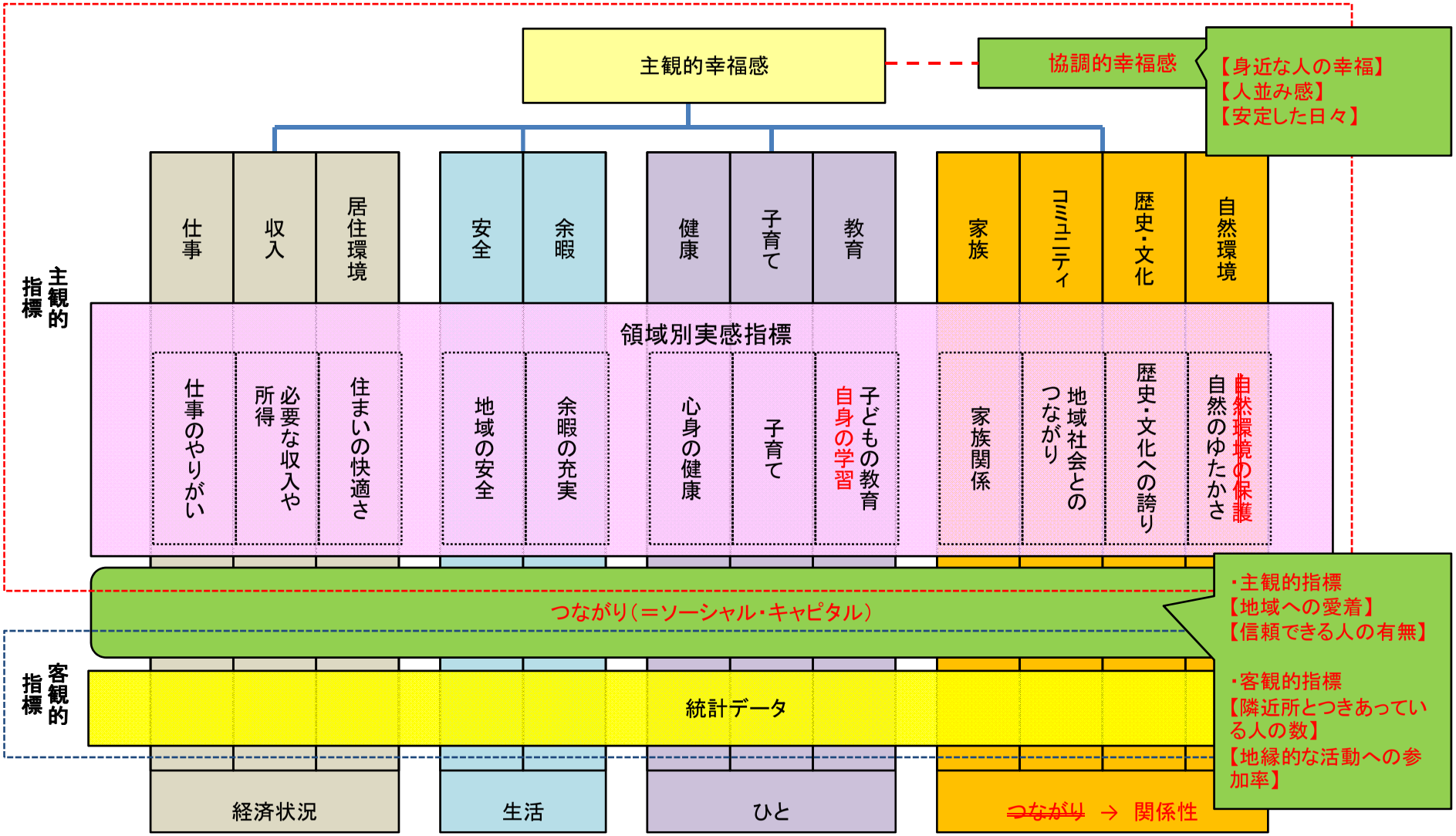
本県のソーシャル・キャピタルは全国に比べ高いと考えられ、その実感と全ての領域別実感に一定の相関が確認できたことから、岩手が目指すゆたかさである「つながり」を示すものとして、全領域に関係する横断的な主観的指標として位置付ける。

また、客観的指標として継続的に把握できるよう、県民意識調査での継続的な調査を検討する。

５　領域名の変更

領域名【つながり】は、４の「つながり」との混同を避けるため、【関係性】に変更する。

3指標体系案③


主観的幸福感
協調的幸福感
【身近な人の幸福】
【人並み感】
【安定した日々】
主観的指標
仕事
収入
居住環境
安全
余暇
健康
子育て
教育
家族
コミュニティ
歴史・文化
自然環境
領域別実感指標
仕事のやりがい
必要な収入や所得
住まいの快適さ
地域の安全
余暇の充実
心身の健康
子育て
子どもの教育
自身の学習
家族関係
地域社会とのつながり
歴史・文化への誇り
自然のゆたかさ
自然環境の保護
つながり（＝ソーシャル・キャピタル）
・主観的指標
【地域への愛着】
【信頼できる人の有無】
・客観的指標
【隣近所とつきあっている人の数】
【地縁的な活動への参加率】
客観的指標
統計データ
経済状況
生活
ひと
つながり → 関係性

参考１

主観的幸福感等に関する県民意識調査の分析結果について

平成 29 年 6 月

岩手県政策地域部政策推進室

目次

はじめに・・3

第１章　主観的幸福感について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
　１　設問
　２　集計結果
（１）県全体
（２）性別集計
（３）世代別集計
（４）居住地別集計
（５）職業別集計
（６）世帯構成別集計
（７）子どもの有無別集計

第２章　幸福を判断する際に重視した項目について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
　１　設問
　２　集計結果
（１）県全体
（２）属性別順位
（３）性別集計
（４）世代別集計
（５）主観的幸福感の評価結果別集計
（６）その他重視した項目として挙げられたもの

第３章　領域別実感について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
　１　設問
　２　集計結果
（１）県全体
（２）属性別集計
（３）主観的幸福感との相関

第４章　協調的幸福感について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
　１　設問
　２　集計結果
（１）県全体
（２）男女別集計
（３）世代別集計
（４）主観的幸福感等との相関

第５章　ソーシャル・キャピタルについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
　１　設問
（１）ソーシャル・キャピタルに関する行動等の調査
（２）ソーシャル・キャピタル構成要素に関する実感の調査
　２　集計結果
（１）ソーシャル・キャピタル指数
（２）各設問の集計結果
　①　県全体
　②　属性別結果
（３）ソーシャル・キャピタル構成要素の実感
（４）主観的幸福感等との相関

はじめに

1　調査の目的

県では、「いわて県民計画」の政策に関連する項目について、県民の皆様がどの程度の重要性を感じ、現在の状況にどの程度満足しているか等を定期的に把握するため、県の施策に関する県民意識調査（以下、県民意識調査という）を実施している。

平成 28 年及び平成 29 年の県民意識調査において、岩手の幸福に関する指標の検討に活用するため、県民の主観的幸福感等に関する調査を実施した。

2　調査の概要

	平成 28 年県民意識調査	平成 29 年県民意識調査
(1)調査対象	県内に居住する 20 歳以上の男女	県内に居住する 18 歳以上の男女
(2)調査対象数	5,000 人	〃
(3)抽出方法	選挙人名簿からの層化二段無作為抽出	〃
(4)調査方法	設問票によるアンケート調査（郵送法）	〃
(5)調査時期	平成 28 年１～２月	平成 29 年１～２月
(6)調査項目	ア　生活全般の満足度 イ　いわて県民計画の７つの政策に関連する 46 項目に係る重要度、満足度 ウ　幸福感等に関する調査	ア　生活全般の満足度 イ　いわて県民計画の７つの政策に関連する 46 項目に係る重要度、満足度 ウ　県民の普段の行動について エ　幸福感等に関する調査 オ　つながりに関する調査
(7)有効回収率	71.5%（3,576 人/5,000 人）	68.4%（3,422 人/5,000 人）

(8)回答者属性

（　）内は%

男女別	回答者数		割合	
	(H28)	(H29)	(H28)	(H29)
男性	1,480	1,450	(41.4)	(42.4)
女性	1,929	1,907	(53.9)	(55.7)
無回答	167	65	(4.7)	(1.9)

年齢別	回答者数		割合	
	(H28)	(H29)	(H28)	(H29)
18～19 歳	－	47	－	(1.4)
20～29 歳	209	203	(5.8)	(5.9)
30～39 歳	372	330	(10.4)	(9.7)
40～49 歳	497	506	(13.9)	(14.8)
50～59 歳	617	617	(17.3)	(18.0)
60～69 歳	811	838	(22.7)	(24.5)
70 歳以上	904	822	(25.3)	(24.0)
無回答	166	59	(4.6)	(1.7)

居住地別	回答者数		割合	
	(H28)	(H29)	(H28)	(H29)
県央広域振興圏	1,014	976	(28.3)	(28.5)
県南広域振興圏	1,065	1,039	(29.8)	(30.4)
沿岸広域振興圏	890	821	(24.9)	(24.0)
県北広域振興圏	607	586	(17.0)	(17.1)

職業別	回答者数		割合	
	(H28)	(H29)	(H28)	(H29)
自営業主	295	276	(8.2)	(8.1)
家族従業者	147	149	(4.1)	(4.4)
会社･団体役員	198	190	(5.5)	(5.5)
常用雇用者	938	965	(26.2)	(28.2)
臨時雇用者	403	421	(11.3)	(12.3)
学生	24	67	(0.7)	(2.0)
専業主婦(主夫)	435	449	(12.2)	(13.1)
無職(60 代未満)	91	61	(2.5)	(1.8)
無職(60 代以上)	731	651	(20.4)	(19.0)
その他	125	117	(3.5)	(3.4)
無回答	189	76	(5.3)	(2.2)

３　用語の解説

（１）生活満足度…調査対象者の生活全般の満足度について、５段階評価で調査したもの。

（２）主観的幸福感…「あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。」という設問に対し、５段階で評価したもの。

（３）領域別実感…幸福に関係するとされている領域毎に、その実感を５段階で評価したもの。

４　その他

・　県民意識調査の集計の際には、実際の回答数に広域振興圏別の人口構成比を考慮することによって、県全体の調査結果を実勢に近づける集計（母集団拡大集計）を行っているが、本分析においては、広域振興別以外の複数の属性（性別、年代別、世帯構成別等）による分析を行うため、広域振興圏別の母集団拡大集計は実施していない。そのため、数値が「県の施策に関する県民意識調査結果報告書」に示された値と異なる部分がある。

・　各属性別の集計結果については、属性不明の回答を除いたものとなっている。

・　生活満足度、主観的幸福感、領域別実感の平均値は、調査で得られた５段階評価に１から５点を配点し算出している。なお、「わからない」の回答は含めていない。

・　四捨五入の関係で合計と内訳の計とが一致しない場合がある。

第１章　主観的幸福感について

【結果概要】

- 平成 28 年及び 29 年の調査結果で、大きく傾向が異なる項目はなかった。
- 主観的幸福感は、同じ県民意識調査で把握した生活満足度と異なる結果であったことから、生活満足度と別に主観的幸福感を測定する意義がある。
- 多くの属性別集計結果において、先行研究と同様の傾向であった

１　設問

先行研究等における事例を参考に、次の設問により調査対象者の主観的幸福感を調査した。

選択肢については、県民意識調査の既存の項目と合わせ、５段階評価とした。

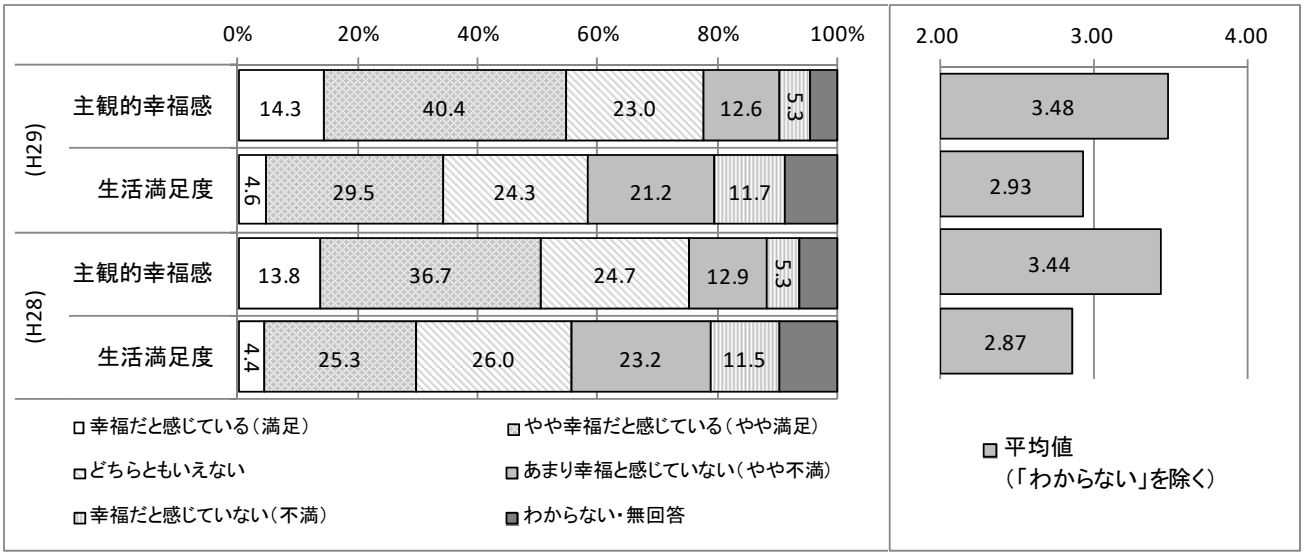
設問	あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。
選択肢	５　幸福だと感じている ４　やや幸福だと感じている ３　どちらともいえない ２　あまり幸福だと感じていない １　幸福だと感じていない ０　わからない

２　集計結果

（１）県全体

半数以上が「幸福」、「やや幸福」と回答し、生活満足度とは異なる結果を示した。
（平成 28 年の調査結果との大きな違いはなかった。）

図１　主観的幸福感と生活満足度の結果（県全体）

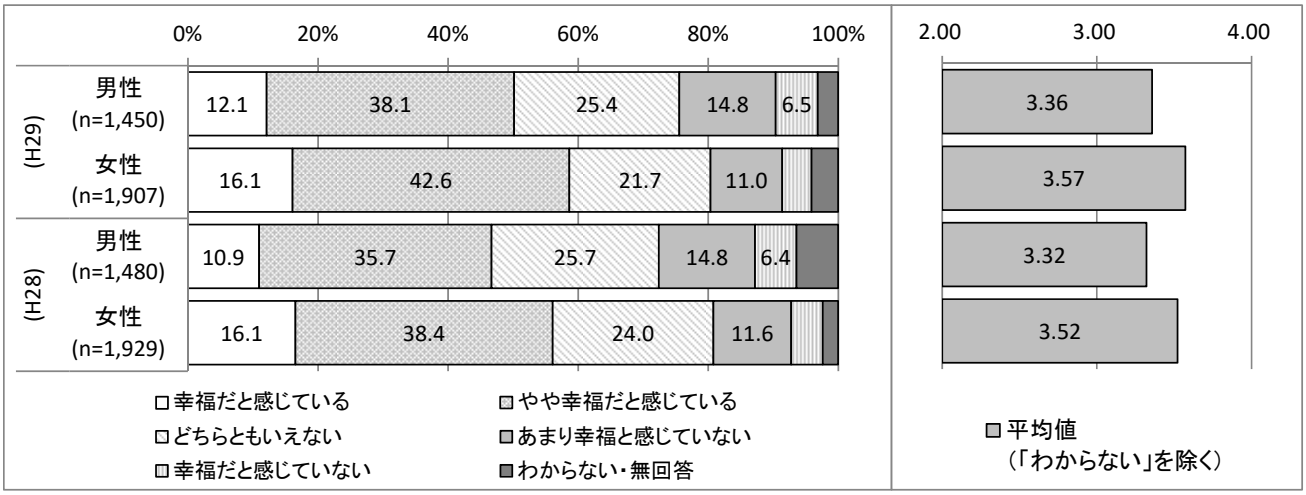


※選択肢の(　)内は、生活満足度の設問における選択肢を表す

（２）性別集計

男性よりも女性の主観的幸福感が高かった。（平成 28 年の調査結果との大きな違いはなかった。）

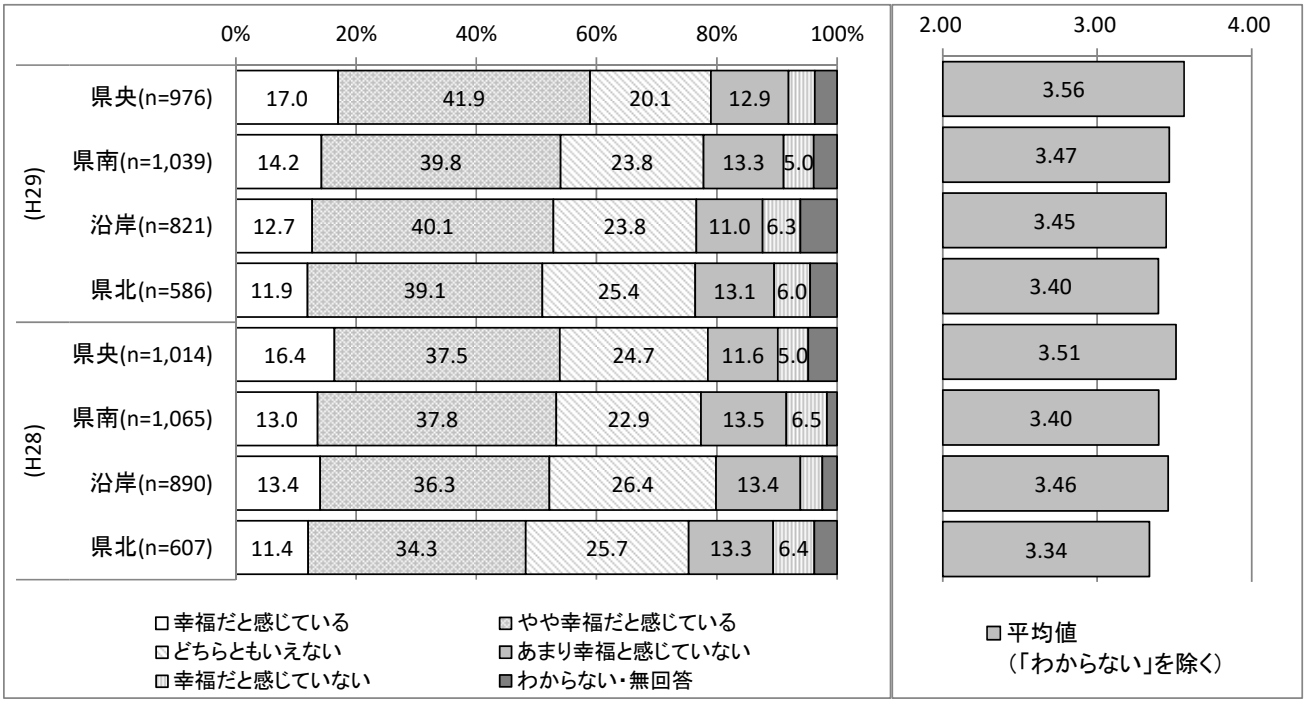
図２　主観的幸福感（男女別）



（３）居住地別集計

県央地域の主観的幸福感は高く、県北地域の主観的幸福感は低かった。（平成 28 年の調査結果との大きな違いはなかった。）

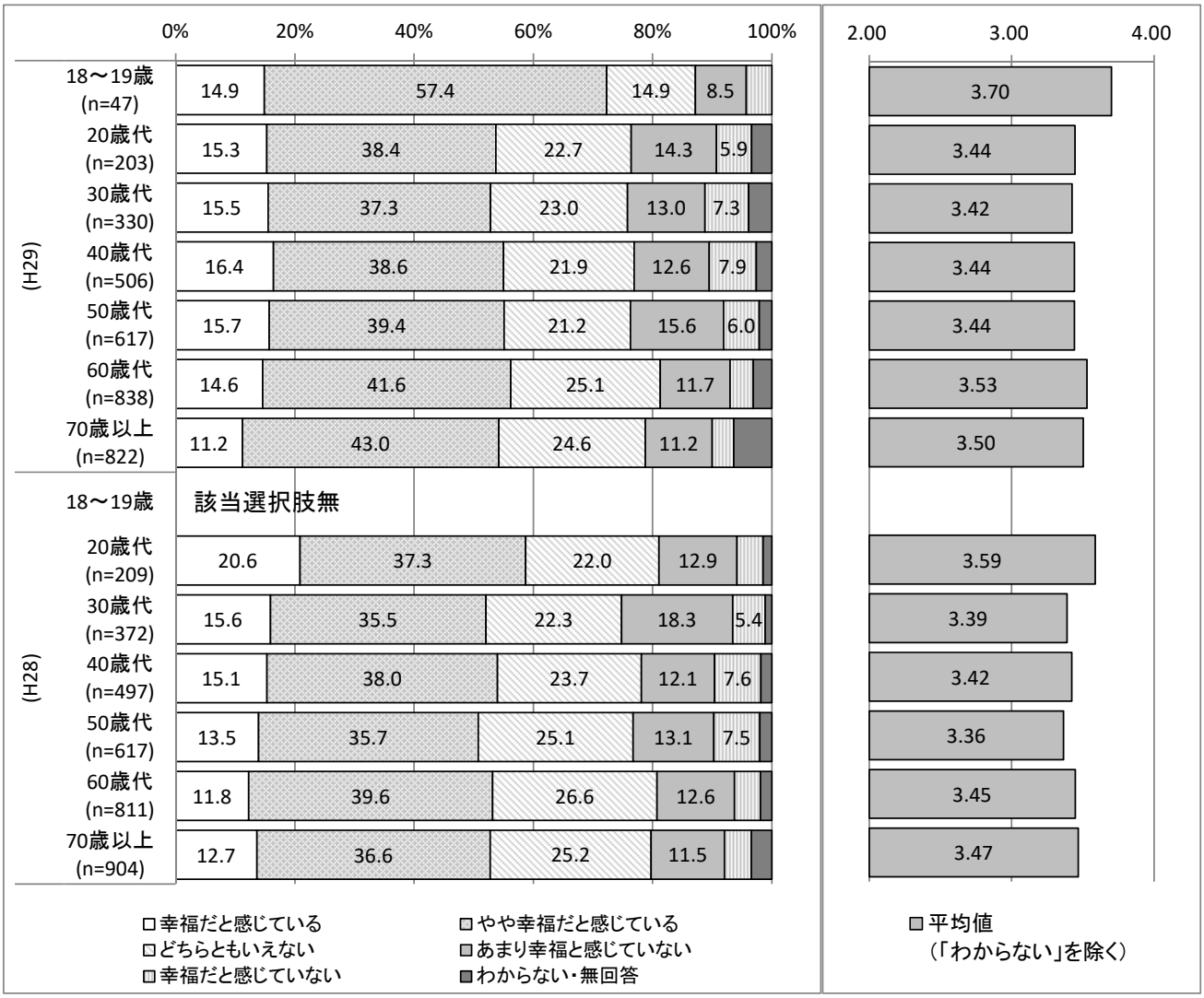
図３　主観的幸福感（居住地別）



（４）　世代別集計

30～50 代の主観的幸福感が低い傾向があった。（平成 28 年の調査結果との大きな違いはなかった。）

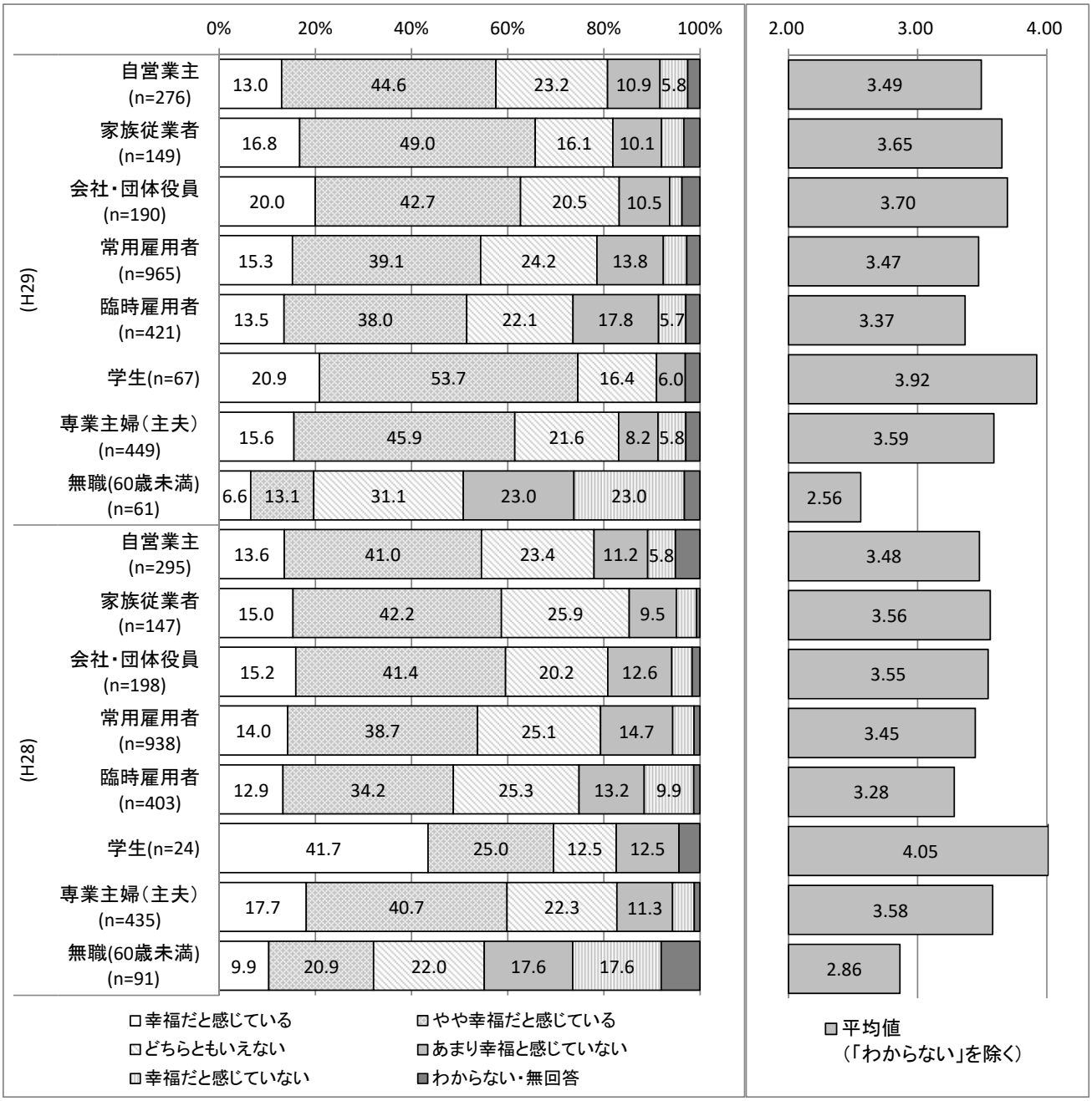
図４　主観的幸福感（世代別）



（５）職業別集計

学生の主観的幸福感は高く、臨時雇用者及び無職の主観的幸福感は低かった。（平成 28 年の調査結果との大きな違いはなかった。）

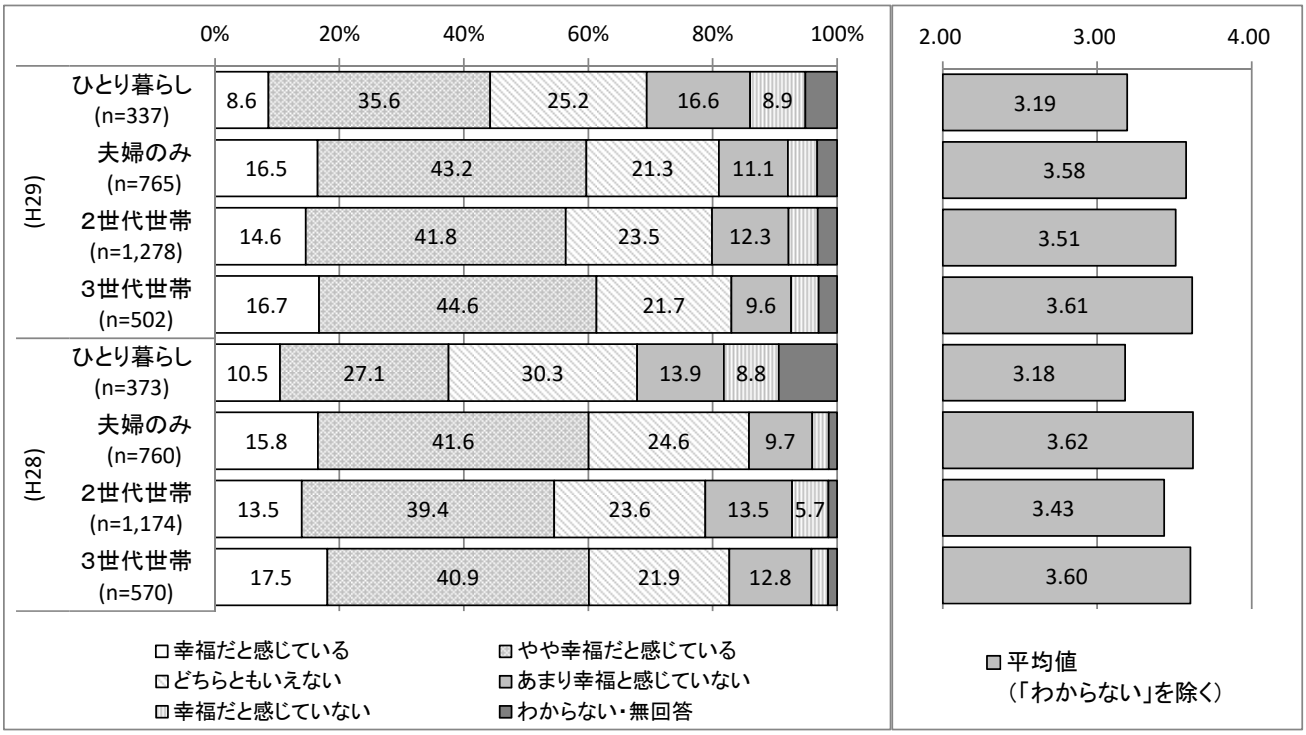
図５　主観的幸福感（職業別）



（６）世帯構成別集計

夫婦のみ及び三世代の主観的幸福感は高く、一人暮らしの主観的幸福感は低かった。（平成 28 年の調査結果との大きな違いはなかった。）

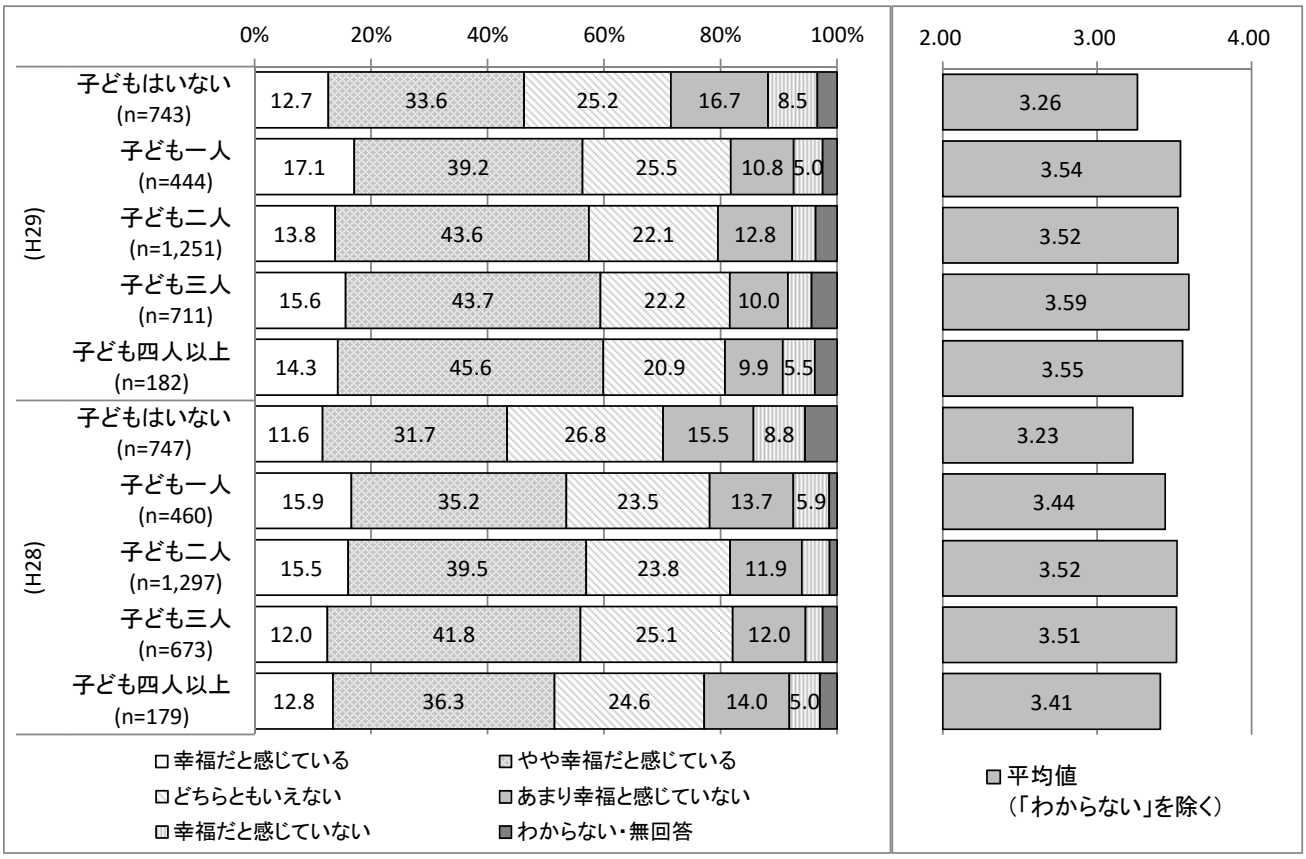
図６　主観的幸福感（世帯構成別）



（７）子どもの人数別集計

子どもがいないよりも、子どもがいる方が主観的幸福感が高かった。　（平成 28 年の調査結果との大きな違いはなかった。）

図７　主観的幸福感（子どもの有無別）



第２章　幸福を判断する際に重視した項目について

【結果概要】

- 平成 28 年及び 29 年の調査結果で、大きく傾向が異なる項目はなかった。
- 内閣府（2013）の調査結果と大きな差はみられなかった。
- 性別や年代によって重視する項目が異なっていた。
- 幸福感が高い層※1 は関係性を重視し、幸福感が低い層※2 は家計の状況を重視する傾向があった。

※1：幸福感が高い層：主観的幸福感の設問で、「幸福」「やや幸福」を選択した回答者

※2：幸福感が低い層：主観的幸福感の設問で、「あまり幸福でない」「幸福でない」を選択した回答者

１　設問

先行研究等における事例を参考に、調査対象者が幸福かどうか判断する際に重視した項目を調査した。

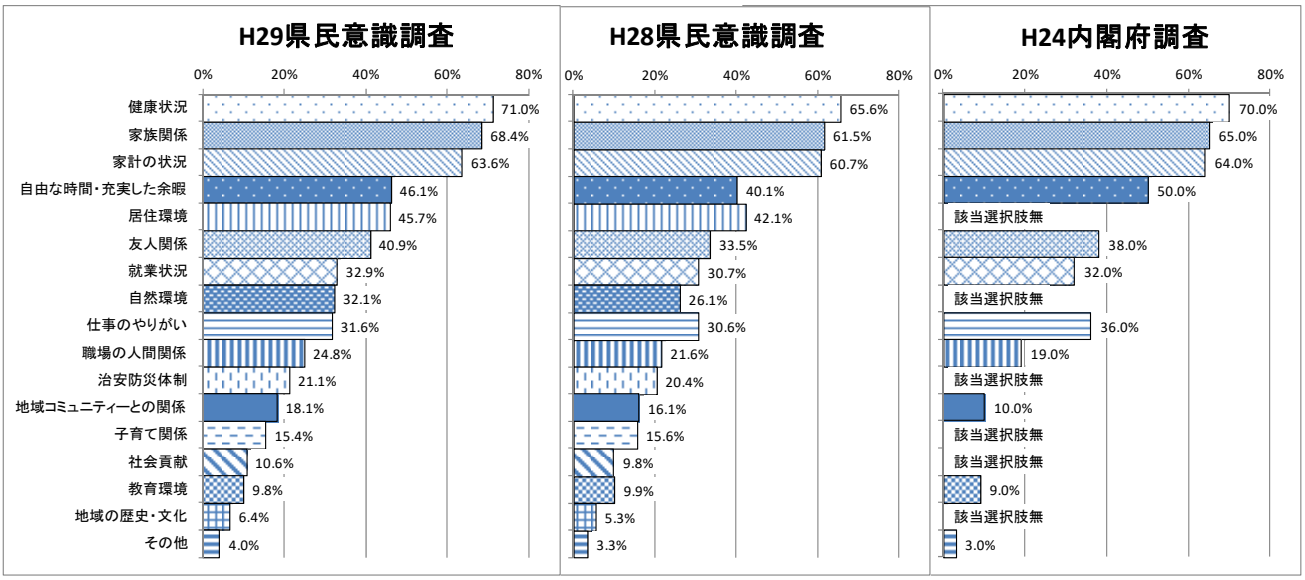
設問	あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。（複数回答可）	
選択肢	1　家計の状況 2　就業状況 3　健康状況 4　自由な時間・充実した余暇 5　仕事のやりがい 6　社会貢献 7　家族関係 8　友人関係 9　職場の人間関係	10　地域コミュニティーとの関係 11　子育て環境 12　治安・防災体制 13　教育環境 14　地域の歴史・文化 15　自然環境 16　居住環境 17　その他（具体的に：　　）

２　集計結果

（１）県全体

全国と同様に、健康状況、家族関係及び家計の状況が重視される傾向があった。（平成 28 年の調査結果との大きな違いはなかった。）

図８　幸福かどうか判断する際に重視する項目（県全体）



出典：内閣府経済社会総合研究所(2013)「生活の質に関する調査」

（２）属性別順位

性別、年代別に重視した項目の順位を見ると、性別では大きな差がなかったのに対して、世代別では比較的大きな差があった。

表１　幸福かどうか判断する際に重視する項目の順位（性別、世代別）

平成29年

	全体	男性	女性	18～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代
1位	健康状況	健康状況	健康状況	友人関係	自由な時間・充実した余暇	家計の状況	家族関係	健康状況	健康状況	健康状況
2位	家族関係	家計の状況	家族関係	自由な時間・充実した余暇	健康状況	家族関係	家計の状況	家族関係	家族関係	家族関係
3位	家計の状況	家族関係	家計の状況	健康状況	家族関係	健康状況	健康状況	家計の状況	家計の状況	家計の状況
4位	自由な時間・充実した余暇	居住環境	自由な時間・充実した余暇	家族関係	友人関係	自由な時間・充実した余暇	就業状況	居住環境	居住環境	居住環境
5位	居住環境	自由な時間・充実した余暇	居住環境	家計の状況	家計の状況	就業状況	自由な時間・充実した余暇	就業状況	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇
6位	友人関係	友人関係	友人関係	居住環境	就業状況	居住環境	居住環境	自由な時間・充実した余暇	自然環境	友人関係
7位	就業状況	仕事のやりがい	就業状況	就業状況	仕事のやりがい	友人関係	仕事のやりがい	仕事のやりがい	友人関係	自然環境
8位	自然環境	就業状況	自然環境	教育環境	職場の人間関係	仕事のやりがい	職場の人間関係	友人関係	仕事のやりがい	治安防災体制
9位	仕事のやりがい	自然環境	仕事のやりがい	自然環境	居住環境	職場の人間関係	友人関係	職場の人間関係	就業状況	地域コミュニティーとの関係
10位	職場の人間関係	職場の人間関係	職場の人間関係	仕事のやりがい	自然環境	子育て関係	子育て関係	自然環境	治安防災体制	仕事のやりがい
11位	治安防災体制	治安防災体制	治安防災体制	職場の人間関係	子育て関係	自然環境	自然環境	治安防災体制	地域コミュニティーとの関係	就業状況
12位	地域コミュニティーとの関係	地域コミュニティーとの関係	地域コミュニティーとの関係	治安防災体制	治安防災体制	治安防災体制	治安防災体制	地域コミュニティーとの関係	職場の人間関係	社会貢献
13位	子育て関係	子育て関係	子育て関係	地域の歴史・文化	地域コミュニティーとの関係	教育環境	教育環境	子育て関係	社会貢献	地域の歴史・文化
14位	社会貢献	社会貢献	教育環境	その他	社会貢献	地域コミュニティーとの関係	地域コミュニティーとの関係	社会貢献	子育て関係	教育環境
15位	教育環境	教育環境	社会貢献	社会貢献	教育環境	社会貢献	社会貢献	教育環境	地域の歴史・文化	子育て関係
16位	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	子育て関係	その他	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	教育環境	職場の人間関係
17位	その他	その他	その他	地域コミュニティーとの関係	地域の歴史・文化	その他	その他	その他	その他	その他

平成28年

	全体	男性	女性	18～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1位	健康状況	健康状況	健康状況	–	自由な時間・充実した余暇	家計の状況	家計の状況	健康状況	健康状況	健康状況
2位	家族関係	家計の状況	家族関係	–	家族関係	家族関係	健康状況	家計の状況	家族関係	家族関係
3位	家計の状況	家族関係	家計の状況	–	健康状況	健康状況	家族関係	家族関係	家計の状況	家計の状況
4位	居住環境	居住環境	居住環境	–	家計の状況	就業状況	就業状況	居住環境	居住環境	居住環境
5位	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇	–	友人関係	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇	就業状況	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇
6位	友人関係	仕事のやりがい	友人関係	–	就業状況	仕事のやりがい	仕事のやりがい	自由な時間・充実した余暇	友人関係	友人関係
7位	就業状況	就業状況	就業状況	–	仕事のやりがい	居住環境	居住環境	仕事のやりがい	自然環境	自然環境
8位	仕事のやりがい	友人関係	仕事のやりがい	–	職場の人間関係	職場の人間関係	職場の人間関係	友人関係	仕事のやりがい	治安防災体制
9位	自然環境	自然環境	自然環境	–	居住環境	友人関係	友人関係	自然環境	就業状況	地域コミュニティーとの関係
10位	職場の人間関係	職場の人間関係	職場の人間関係	–	子育て関係	子育て関係	子育て関係	職場の人間関係	治安防災体制	仕事のやりがい
11位	治安防災体制	治安防災体制	治安防災体制	–	自然環境	治安防災体制	自然環境	治安防災体制	地域コミュニティーとの関係	社会貢献
12位	地域コミュニティーとの関係	地域コミュニティーとの関係	子育て関係	–	治安防災体制	自然環境	治安防災体制	地域コミュニティーとの関係	職場の人間関係	教育環境
13位	子育て関係	子育て関係	地域コミュニティーとの関係	–	社会貢献	教育環境	教育環境	子育て関係	社会貢献	就業状況
14位	教育環境	社会貢献	教育環境	–	教育環境	地域コミュニティーとの関係	地域コミュニティーとの関係	教育環境	子育て関係	地域の歴史・文化
15位	社会貢献	教育環境	社会貢献	–	地域コミュニティーとの関係	社会貢献	社会貢献	社会貢献	地域の歴史・文化	子育て関係
16位	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	–	地域の歴史・文化	地域の歴史・文化	その他	地域の歴史・文化	教育環境	職場の人間関係
17位	その他	その他	その他	–	その他	その他	地域の歴史・文化	その他	その他	その他

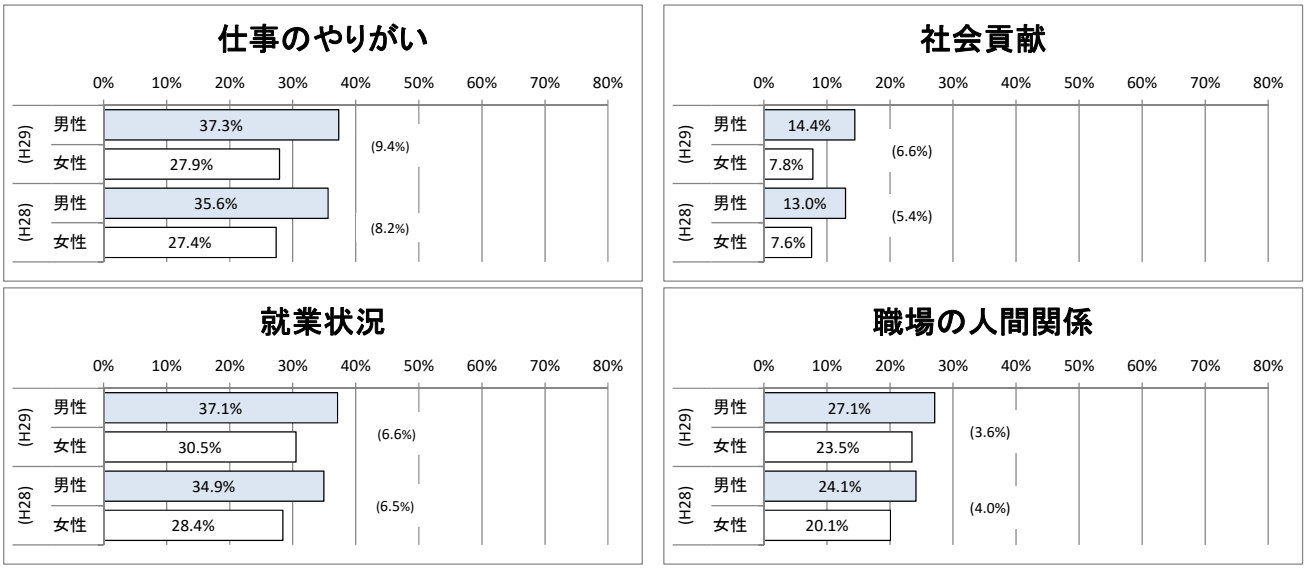
（３）性別集計

男性と女性の重視した項目について、平成 28 年及び 29 年を通して見られた特徴は次のとおりであった。

男性が重視していた項目：仕事のやりがい、就業状況、社会貢献、職場の人間関係

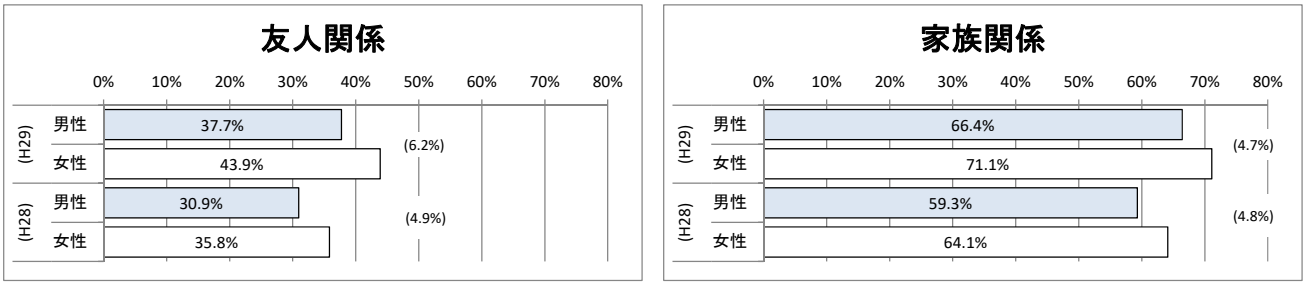
女性が重視していた項目：友人関係、家族関係

図９　男性が重視していた項目



※カッコ内に差を示す。

図 10　女性が重視していた項目



※カッコ内に差を示す。

（４）世代別集計

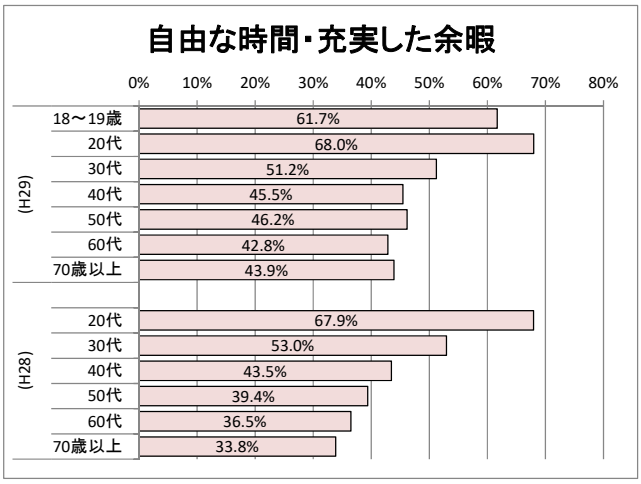
世代別で重視した項目について、平成 28 年及び 29 年を通して見られた特徴は次のとおりであった。

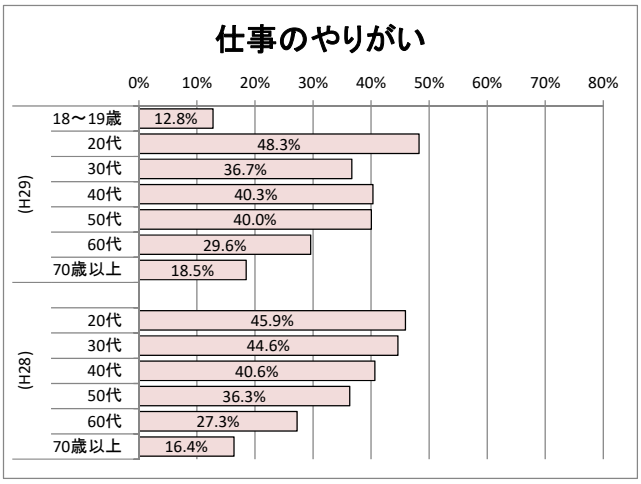
年齢が低い程重視される項目：自由な時間・充実した余暇、就業状況、仕事のやりがい、職場の人間関係

年齢が高い程重視される項目：自然環境、地域コミュニティーとの関係

30～50 代に重視される項目：家族関係、家計の状況、子育て関係、教育環境

図 11　年齢が低い程重視される項目





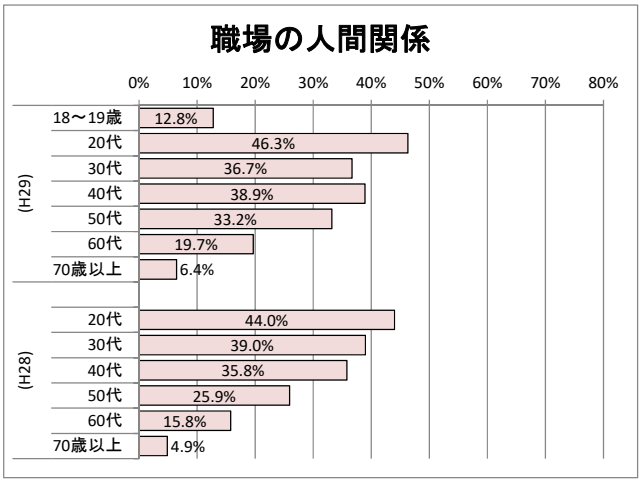
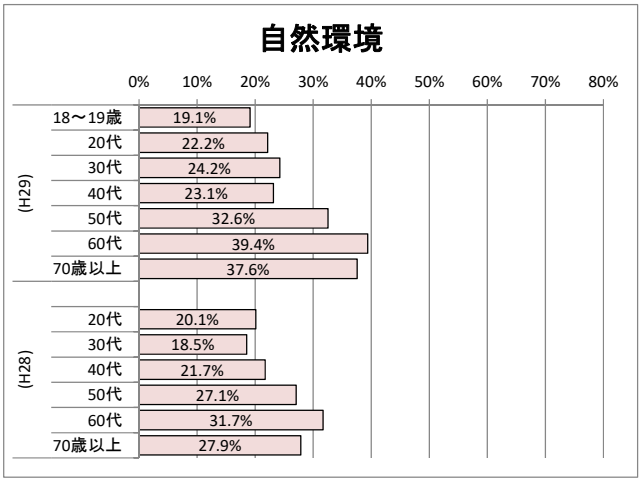


図 12　年齢が高い程重視される項目



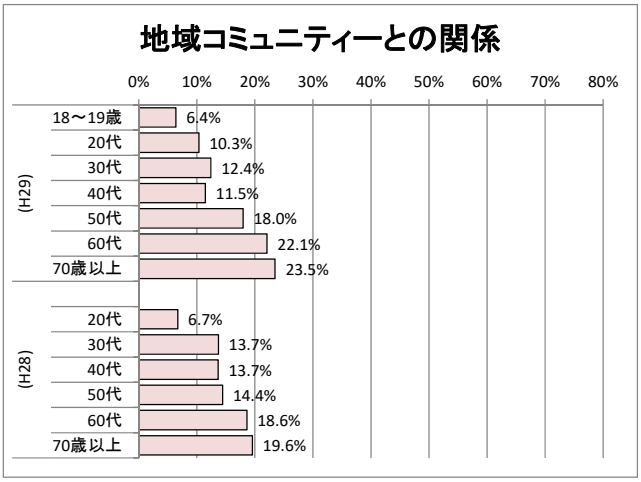
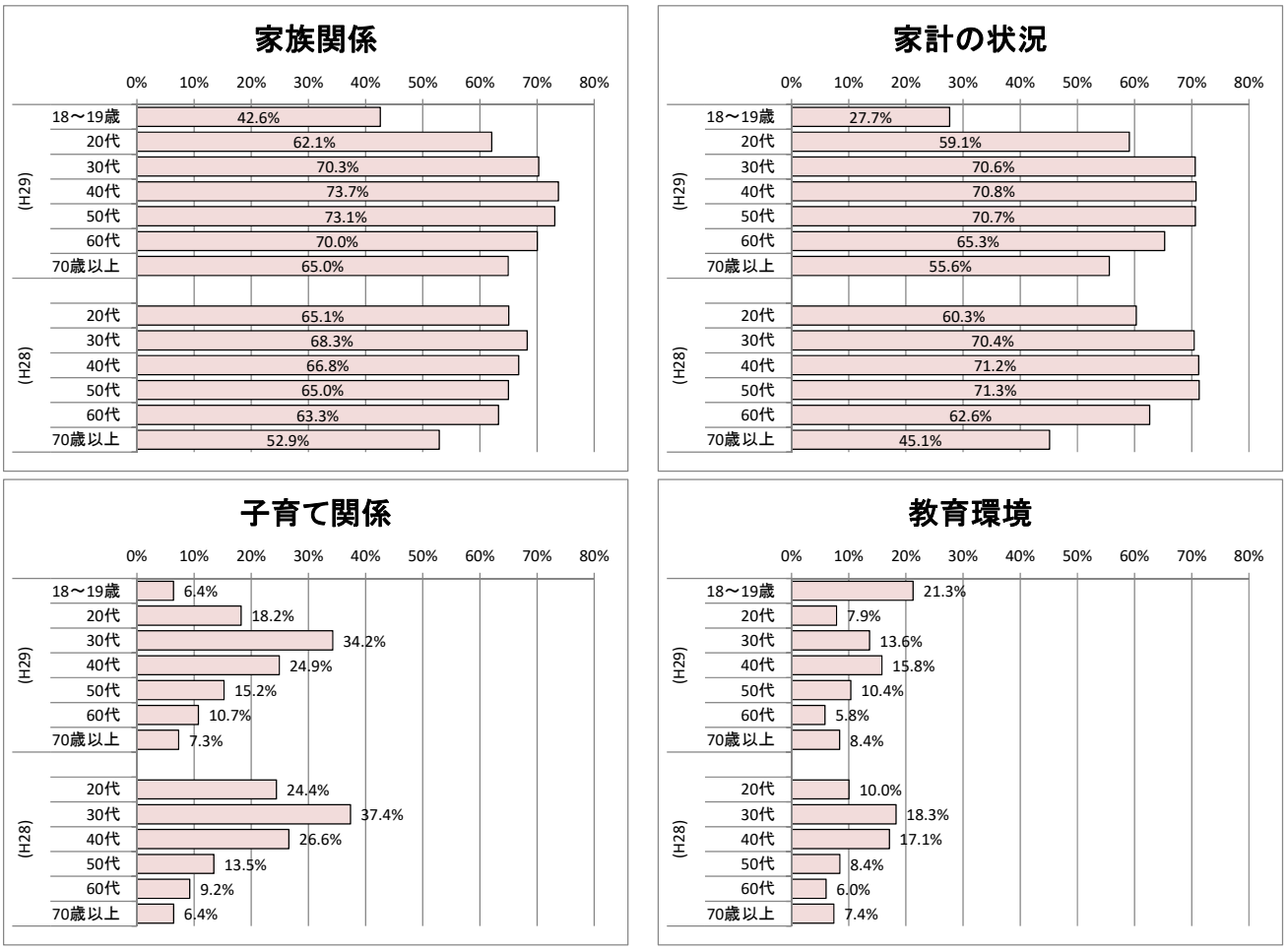


図 13　30～50 代に重視される項目



（５）主観的幸福感の評価結果別集計

幸福感が高い層※1 は関係性を重視し、幸福感が低い層※2 は家計の状況を重視する傾向がみられた。

※1 幸福感が高い層：主観的幸福感の設問で、「幸福」「やや幸福」を選択した回答者

※2 幸福感が低い層：主観的幸福感の設問で、「あまり幸福でない」「幸福でない」を選択した回答者

図 14　主観的幸福感が高い層が重視する項目

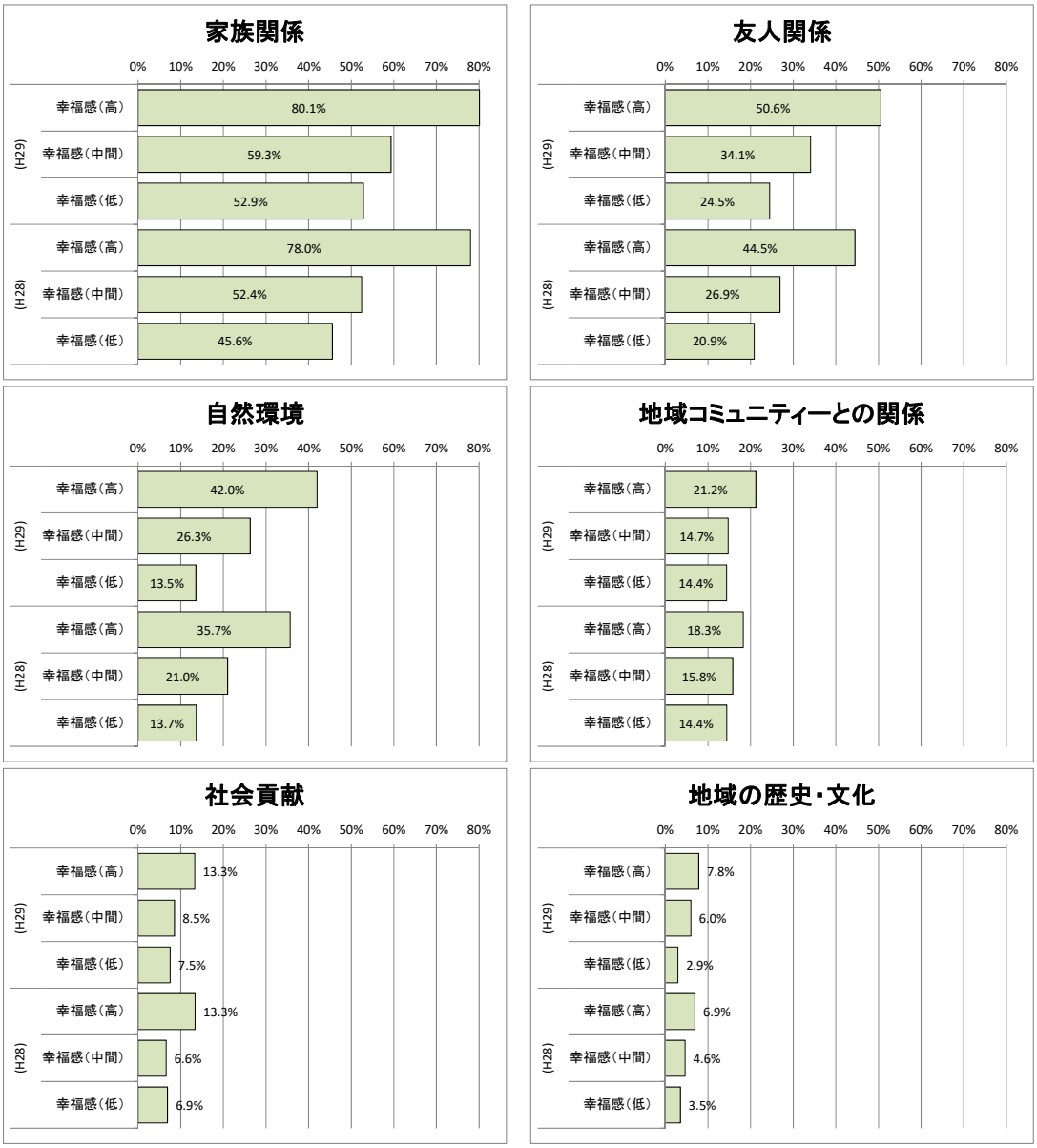
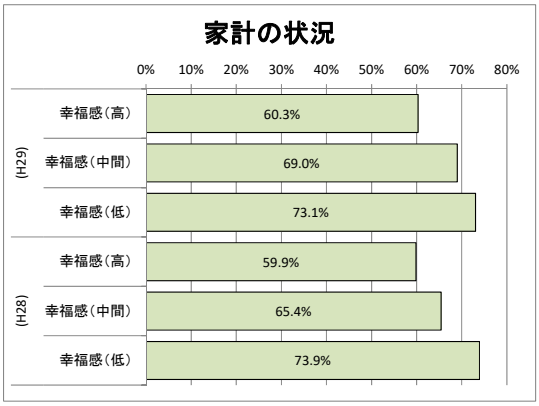


図 15　主観的幸福感が低い層が重視する項目



（６）その他重視した項目として挙げられたもの

平成 28 年調査では 101 件、平成 29 年調査で 142 件の回答があり、主に次のような内容があった。

	平成 28 年調査	平成 29 年調査
①東日本大震災津波の幸福への影響に関する意見	・仮設住宅生活のため心がいつも晴れない。 ・震災により、たくさんのものを失ったが、家族全員の命が助かった。 ・震災を経験し、現在は電気や水道が使えることを判断材料とした。	・家を流されて仮設住宅に住んでいるので幸福感を感じない。 ・被災により居住地が変わり、まだ環境に慣れずにいる。
②職場環境に関する意見	・職場での理不尽な扱い。 ・会社のコンプライアンスに疑問がある。	
③介護等に関する意見	・介護中心の生活で自分を見失いがち。	・高齢者のケアは大変である。
④障がい者福祉に関する意見	・障がい者施設に通所できなくなり、家族の生活も変わってしまった。	・障がい児、障がい者がすごしやすい環境。
⑤世帯構成に関する意見		・３人の子供がいたのに今１人暮らしであること。 ・子ども２家族が近くに住み、時折見守ってくれる事。
⑥安定した生活等に関する意見		・その日が何事もなく生きられれば幸せ。 ・全ての項目において、人並みに生活できていることが幸福である、と思う。
⑦内面や宗教に関する意見	・なりたい自分に近づいているか。 ・自分はクリスチャンであり、自分が死んでから天に行くことが最高の幸せ。	・己の存在理由があるかどうか。
⑧ガバナンスに関する意見	・市民、県民の訴え、お願い事項について、速やかに対処する県であること。	・国が良い方へ向っているか。
⑨その他	・農家の後継ぎがいない。 ・出会い。 ・犬と猫がいる。 ・世界平和。	・農業の担い手関係について ・好きな人がいない。 ・動物が守られている社会環境にあるか。

※自由記述欄の回答に基づき記載

第３章　領域別実感について

【結果概要】

- 平成 28 年及び 29 年の調査結果で、大きく傾向が異なる項目はなかった。
- 自然のゆたかさ、家族関係、地域の安全に関する実感が高く、心身の健康、自身の学習、収入や所得に関する実感が低かった。
- 12 の領域別実感は、強弱の差はあるものの、主観的幸福感と一定の相関が見られた。

１　設問

既存の調査において幸福に関連するとされている 12 領域の実感と、主観的幸福感との相関等を調べるため、先行研究等における事例を参考に、次の設問により調査対象者の領域別実感を調査した。

選択肢については、県民意識調査の既存の項目と合わせ、５段階評価とした。

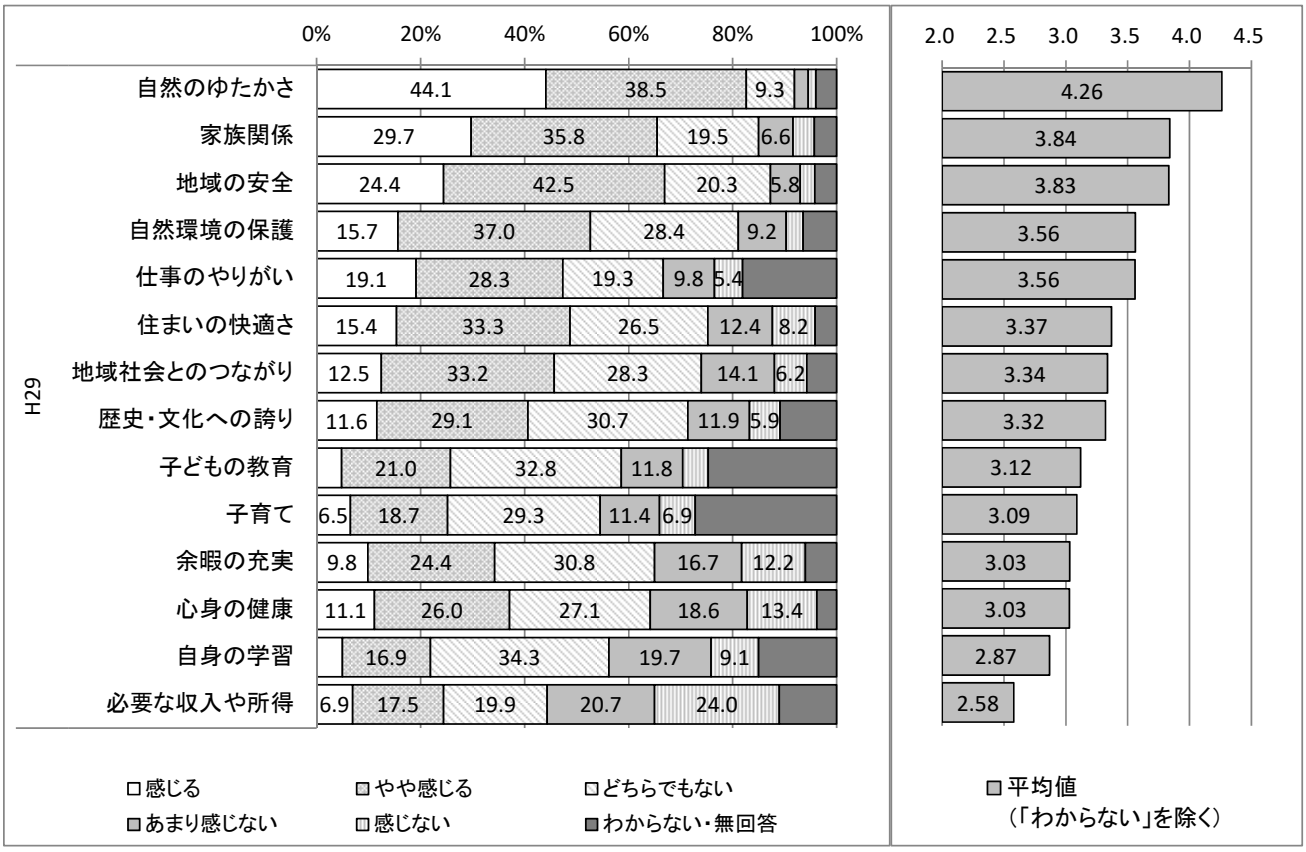
設問	【仕事】　仕事にやりがいを感じますか 【収入】　必要な収入や所得が得られていると感じますか 【健康】　こころやからだが健康だと感じますか 【家庭】　家族と良い関係がとれていると感じますか 【子育て】子育てがしやすいと感じますか 【安全】　お住まいの地域は安全だと感じますか 【地域】　地域社会とのつながりを感じますか 【教育】　子どものためになる教育が行われていると感じますか あなた自身が学習する環境が充実していると感じますか（平成 29 年新規設問） 【歴史･文化】地域の歴史や文化に誇りを感じますか 【自然環境】地域の自然環境が守られていると感じますか 自然に恵まれていると感じますか（平成 29 年新規設問） 【居住環境】住まいに快適さを感じますか 【余暇】　余暇が充実していると感じますか
選択肢	５　感じる ４　やや感じる ３　どちらともいえない ２　あまり感じない １　感じない ０　わからない

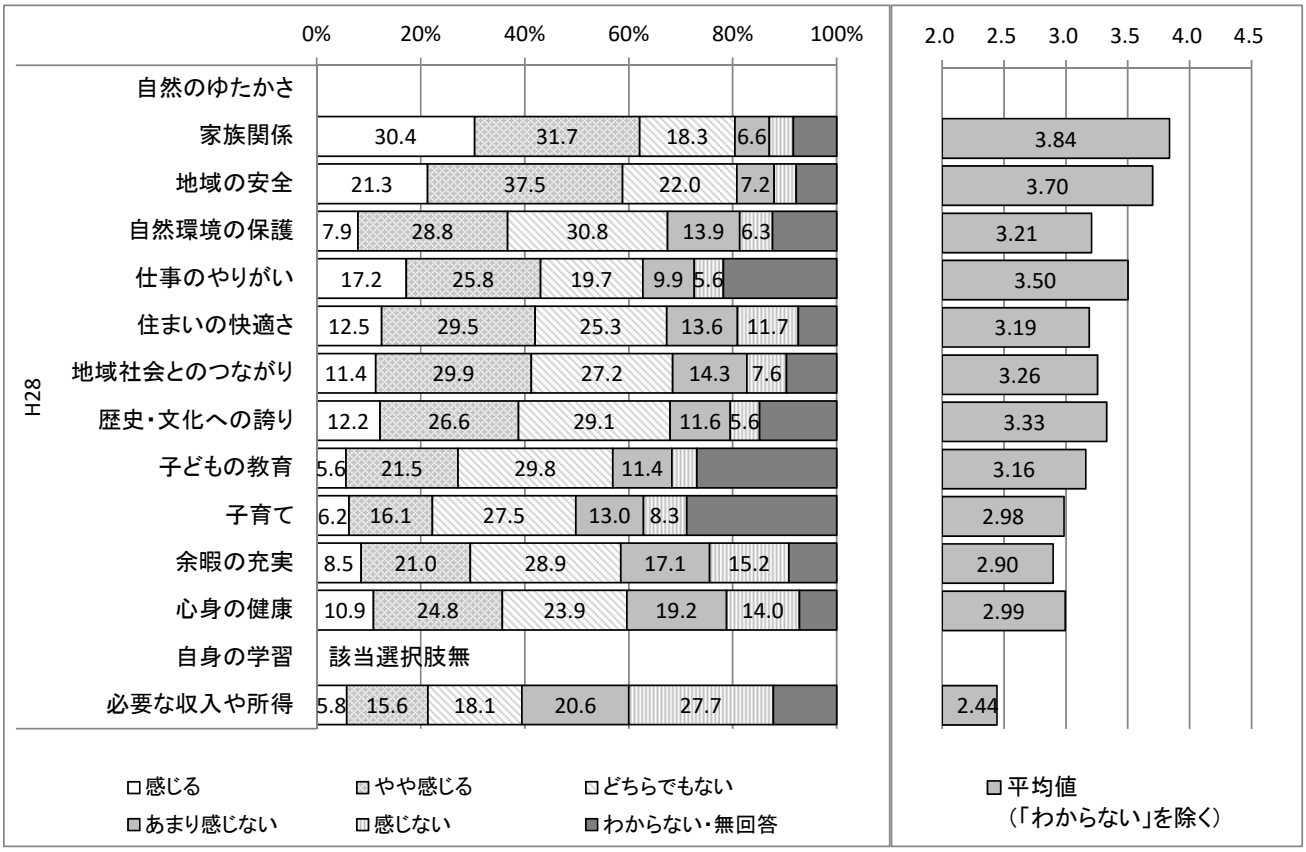
２　集計結果

（１）県全体

自然の豊かさ、家族関係、地域の安全に関する実感が高く、心身の健康、自身の学習、収入や所得に関する実感は低かった。

図 16　領域別実感





（２）属性別集計

男性よりも女性の実感が高く、年代では 70 歳以上の実感が高い傾向がみられた。

表２　属性別（性別、年代別）の領域別実感の平均値

設問項目	県平均	男性	女性	18～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
①自然のゆたかさ	4.26	4.23	4.29	4.35	4.37	4.28	4.30	4.30	4.24	4.20
②家族関係	3.84	3.82	3.86	3.80	4.06	3.85	3.79	3.76	3.81	3.93
③地域の安全	3.83	3.86	3.82	3.91	3.80	3.75	3.79	3.81	3.83	3.94
④自然環境の保護	3.56	3.51	3.60	3.83	3.61	3.43	3.61	3.53	3.52	3.63
⑤仕事のやりがい	3.56	3.57	3.55	3.27	3.35	3.47	3.54	3.53	3.64	3.63
⑥住まいの快適さ	3.37	3.32	3.40	3.41	3.33	3.28	3.33	3.18	3.40	3.55
⑦地域社会とのつながり	3.34	3.32	3.35	3.27	3.05	2.96	3.27	3.25	3.39	3.62
⑧歴史・文化への誇り	3.32	3.27	3.36	3.40	3.29	3.16	3.28	3.23	3.30	3.52
⑨子どもの教育	3.12	3.08	3.14	3.27	2.91	3.04	3.08	3.02	3.10	3.34
⑩子育て	3.09	3.02	3.14	3.00	2.84	2.94	3.07	3.04	3.13	3.25
⑪余暇の充実	3.03	2.96	3.08	3.44	2.99	2.88	2.82	2.85	3.09	3.30
⑫心身の健康	3.03	3.03	3.04	3.15	3.06	2.88	2.88	2.96	3.11	3.15
⑬自身の学習	2.87	2.87	2.86	3.64	2.84	2.64	2.73	2.77	2.91	3.10
⑭必要な収入や所得	2.58	2.60	2.56	2.81	2.52	2.47	2.56	2.52	2.57	2.70

（３）主観的幸福感との相関

主観的幸福感と 12 領域毎の実感には、一定の相関が見られ、領域ごとに、相関の強弱があった。（平成 28 年の調査結果との大きな違いはなかった。）

表３　主観的幸福感と領域別実感の相関

平成29年調査		主観的幸福感	領域別実感															生活満足度
			仕事のやりがい	必要な収入や所得	心身の健康	家族関係	子育て	地域の安全	地域社会とのつながり	自身の学習	子どもの教育	歴史・文化への誇り	自然のゆたかさ	自然環境の保護	住まいの快適さ	余暇の充実		
主観的幸福感		1.00																
領域別実感	仕事のやりがい	0.38	1.00															
	必要な収入や所得	0.40	0.45	1.00														
	心身の健康	0.47	0.41	0.40	1.00													
	家族関係	0.51	0.23	0.23	0.39	1.00												
	子育て	0.42	0.26	0.32	0.35	0.41	1.00											
	地域の安全	0.29	0.21	0.21	0.27	0.27	0.36	1.00										
	地域社会とのつながり	0.33	0.29	0.27	0.30	0.30	0.39	0.45	1.00									
	自身の学習	0.33	0.28	0.29	0.34	0.24	0.40	0.33	0.49	1.00								
	子どもの教育	0.26	0.23	0.23	0.24	0.23	0.44	0.27	0.39	0.46	1.00							
	歴史・文化への誇り	0.30	0.30	0.21	0.19	0.22	0.26	0.28	0.40	0.41	0.40	1.00						
	自然のゆたかさ	0.20	0.17	0.08	0.16	0.17	0.15	0.36	0.31	0.18	0.22	0.41	1.00					
	自然環境の保護	0.18	0.16	0.13	0.17	0.14	0.22	0.32	0.33	0.22	0.30	0.33	0.47	1.00				
	住まいの快適さ	0.47	0.29	0.35	0.33	0.34	0.38	0.32	0.31	0.36	0.28	0.33	0.25	0.29	1.00			
	余暇の充実	0.49	0.31	0.36	0.41	0.34	0.40	0.28	0.33	0.43	0.30	0.30	0.17	0.22	0.54	1.00		
生活満足度		0.57	0.30	0.50	0.39	0.33	0.36	0.28	0.28	0.32	0.27	0.27	0.14	0.19	0.44	0.45	1.00	

平成28年調査		主観的幸福感	領域別実感															生活満足度
			仕事のやりがい	必要な収入や所得	心身の健康	家族関係	子育て	地域の安全	地域社会とのつながり	自身の学習	子どもの教育	歴史・文化への誇り	自然のゆたかさ	自然環境の保護	住まいの快適さ	余暇の充実		
主観的幸福感		1.00																
領域別実感	仕事のやりがい	0.42	1.00															
	必要な収入や所得	0.41	0.42	1.00														
	心身の健康	0.50	0.42	0.36	1.00													
	家族関係	0.52	0.28	0.23	0.42	1.00												
	子育て	0.40	0.24	0.31	0.36	0.37	1.00											
	地域の安全	0.34	0.24	0.27	0.33	0.29	0.43	1.00										
	地域社会とのつながり	0.33	0.26	0.22	0.32	0.28	0.38	0.49	1.00									
	自身の学習	–	–	–	–	–	–	–	–	–								
	子どもの教育	0.28	0.25	0.22	0.30	0.25	0.46	0.37	0.50	–	1.00							
	歴史・文化への誇り	0.24	0.24	0.19	0.21	0.22	0.25	0.23	0.38	–	0.40	1.00						
	自然のゆたかさ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–					
	自然環境の保護	0.24	0.18	0.23	0.27	0.21	0.33	0.40	0.40	–	0.43	0.44	–	1.00				
	住まいの快適さ	0.50	0.31	0.34	0.41	0.35	0.42	0.40	0.36	–	0.36	0.33	–	0.38	1.00			
	余暇の充実	0.53	0.32	0.35	0.48	0.38	0.40	0.33	0.38	–	0.33	0.28	–	0.33	0.58	1.00		
生活満足度		0.55	0.30	0.46	0.40	0.31	0.34	0.30	0.28	–	0.23	0.18	–	0.23	0.44	0.44	1.00	

0≦r≦0.2　　0.2＜r≦0.4　　0.4＜r≦0.7

相関係数の大きさの記述	
0.7＜|r|≦1.0	高い相関がある
0.4＜|r|≦0.7	かなり相関がある
0.2＜|r|≦0.4	相関はあるが低い
0.0≦|r|≦0.2	ほとんど相関はない

出典　山上暁他「要説　心理統計法」

第４章　協調的幸福感について

【結果概要】

主観的幸福感との間でかなりの相関が、領域別実感とも一定の相関がみられた。
また、属性によって協調的幸福感に違いがみられた。

１　設問

先行研究等における事例を参考に、次の設問により調査対象者の協調的幸福感を調査した。

選択肢については、県民意識調査の既存の項目と合わせ、５段階評価とした。

設問	①身近な周りの人が幸福であると感じますか。[身近な人の幸福] ②周りの人に認められていると感じますか。　[周囲からの承認] ③大切な人を幸福にしていると感じますか。　[大切な人の幸福への寄与] ④安定した日々を過ごしていると感じますか。[安定した日々] ⑤人に迷惑をかけずに自分のやりたいことができていると感じますか。[他者に迷惑をかけない自己実現] ⑥周りの人たちと同じくらい幸福だと感じますか。[人並み感]
選択肢	５　感じる ４　やや感じる ３　どちらともいえない ２　あまり感じない １　感じない

※協調的幸福感とは

北米に比べて日本では、幸福かどうか考える際に、人との関係性を重視し、他者との協調性や他者の幸福、平穏な感情状態に焦点を置く傾向があり、これらを踏まえた幸福感の考え方として協調的幸福感という概念が示されている。

ゆたかさを示す新しい考え方の一つの可能性として、協調的幸福感とされている表２の項目を新たに調査し、主観的幸福感、領域別実感との関連について分析を行った。

	日本	北米
幸福感情	低覚醒感情「おだやかさ」 関与的感情「親しみ」	高覚醒感情「うきうき」 脱関与的感情「誇り」
幸福の捉え方	バランス志向的幸福像	増大的幸福像
東アジア	関係志向 協調的幸福、人並み感 関係性調和 ソーシャルサポート	個人達成志向 自己価値・自尊心

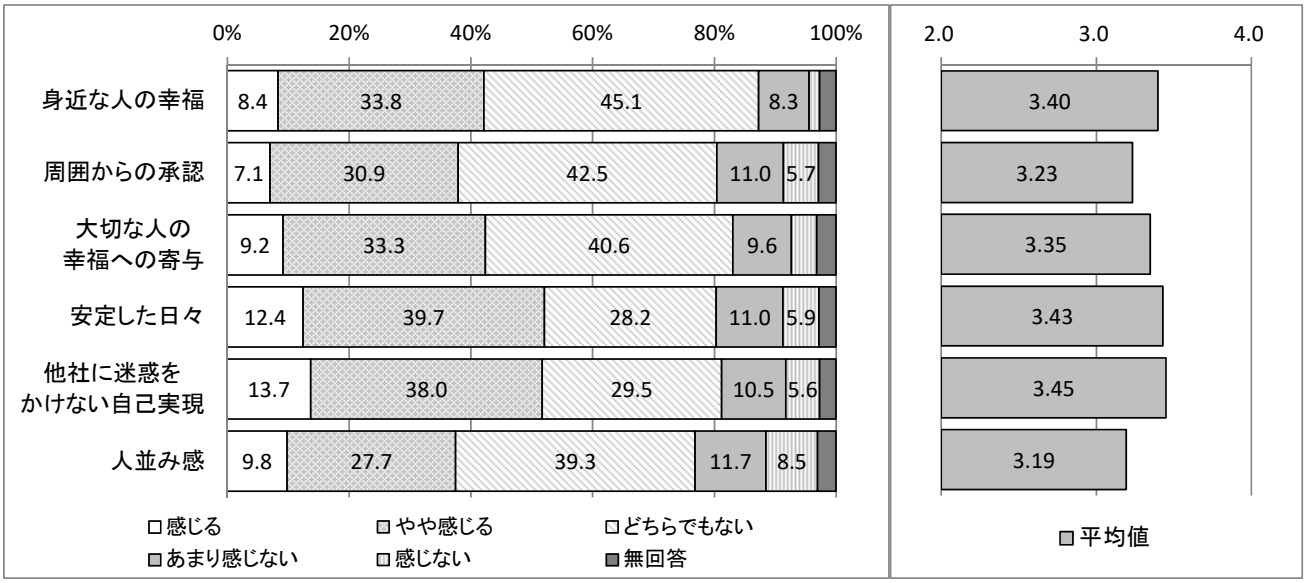
（参考）内田由紀子（2013）「日本人の幸福感と幸福度指標」、『心理学ワールド 60 号』: 5-8、日本心理学会。

２　集計結果

（１）県全体

「安定した日々を過ごしている」、「人に迷惑をかけずに自分のやりたいことができている」という設問に対し、半数以上が「感じる」、「やや感じる」と回答している。

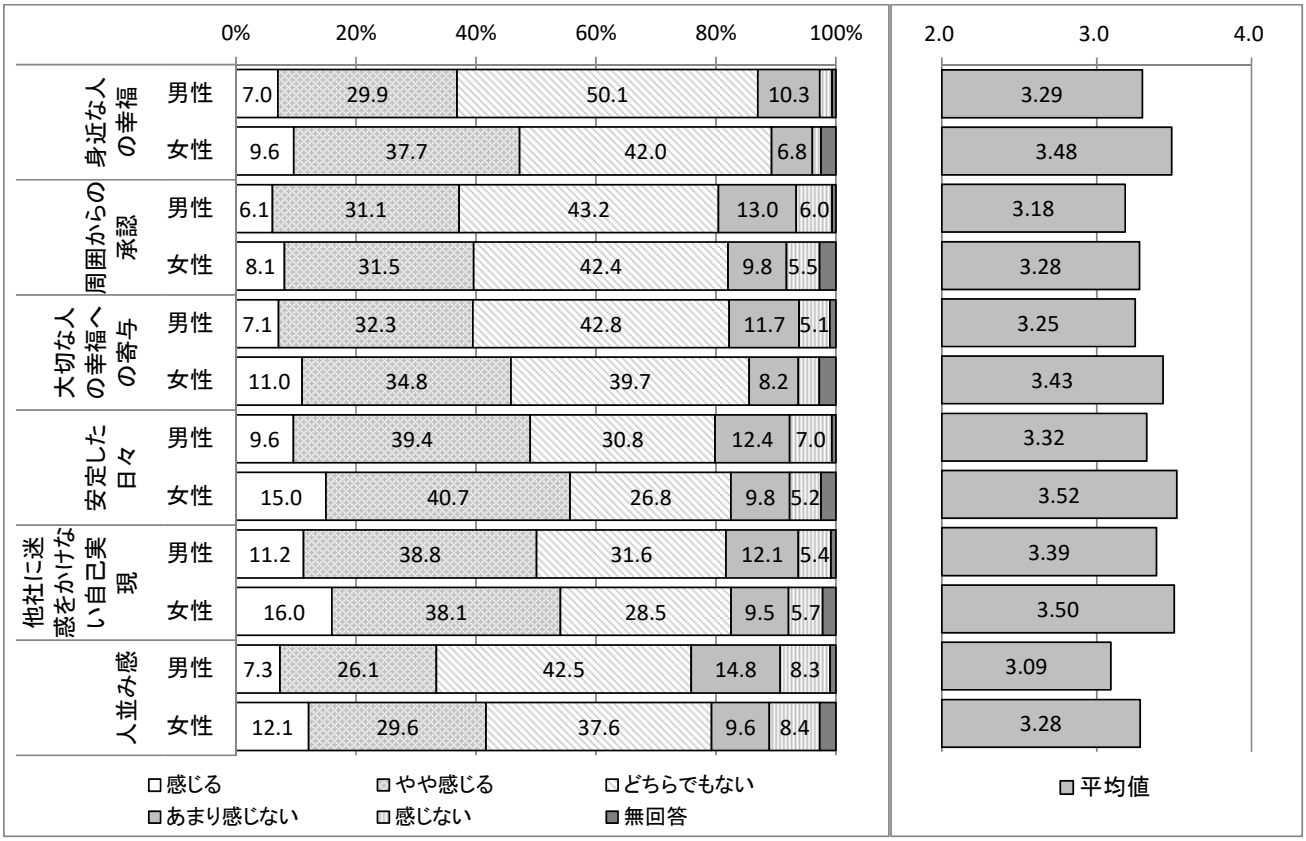
図 17　協調的幸福感



（２）男女別集計

調査項目の全てにおいて、女性の値が高かった。

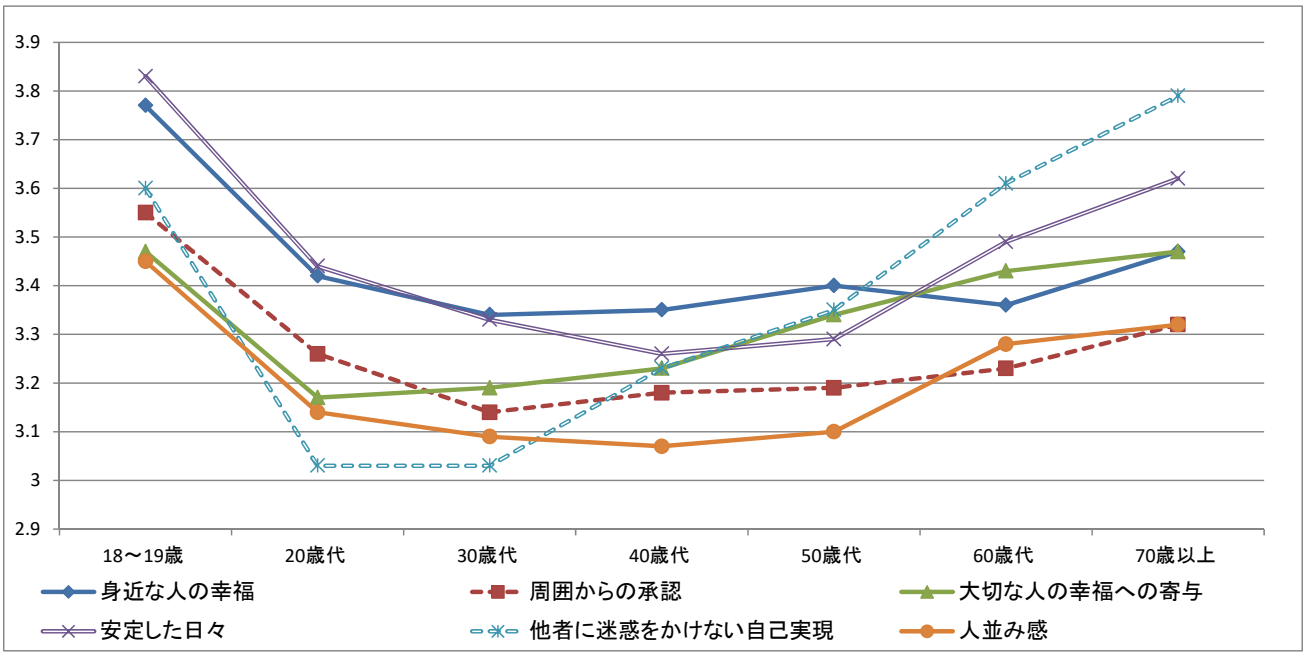
図 18　協調的幸福感（男女別）



（３）世代別集計

Ｕ字カーブを描く傾向がみられた。

図 19　協調的幸福感の平均値（世代別）



（４）主観的幸福感との相関

協調的幸福感は、主観的幸福感との間にかなりの相関がみられた。
また、領域別実感には、一定の相関がみられた。

表４　主観的幸福感等と協調的幸福感の相関

		主観的幸福感	領域別実感														生活満足度	協調的幸福感					
			仕事のやりがい	必要な収入や所得	心身の健康	家族関係	子育て	地域の安全	地域社会とのつながり	自身の学習	子どもの教育	歴史・文化への誇り	自然のゆたかさ	自然環境の保護	住まいの快適さ	余暇の充実		周囲の幸福感	周囲からの承認	大切な人の幸福感への寄与	安定した日々	自己実現	人並み感
協調的幸福感	周囲の幸福感	0.32	0.19	0.20	0.24	0.23	0.27	0.23	0.23	0.23	0.28	0.24	0.18	0.21	0.24	0.29	0.27	1.00					
	周囲からの承認	0.42	0.36	0.30	0.39	0.34	0.32	0.25	0.35	0.30	0.26	0.32	0.23	0.25	0.32	0.33	0.34	0.41	1.00				
	大切な人の幸福感への寄与	0.51	0.26	0.27	0.40	0.46	0.37	0.23	0.26	0.29	0.28	0.25	0.15	0.20	0.34	0.37	0.38	0.39	0.52	1.00			
	安定した日々	0.60	0.34	0.41	0.48	0.45	0.41	0.31	0.31	0.31	0.28	0.28	0.18	0.21	0.43	0.47	0.52	0.40	0.51	0.62	1.00		
	他者に迷惑をかけない自己実現	0.49	0.29	0.34	0.43	0.36	0.33	0.28	0.30	0.33	0.25	0.20	0.16	0.20	0.35	0.45	0.42	0.31	0.47	0.55	0.62	1.00	
	人並み感	0.67	0.32	0.40	0.48	0.45	0.41	0.31	0.35	0.35	0.27	0.30	0.20	0.20	0.44	0.46	0.53	0.36	0.55	0.56	0.70	0.59	1.00

第５章　ソーシャル・キャピタルについて

【結果概要】

- **本県は、全国と比較してソーシャル・キャピタルが高いと考えられた。**
- **主観的幸福感及び領域別実感との間に一定の相関がみられた。**
- **属性によって、ソーシャル・キャピタルに違いがみられた。**

１　設問

（１）ソーシャル・キャピタルに関する行動等の調査

先行研究等における事例を参考に、次の設問によりソーシャル・キャピタルを調査した。設問については、全国との比較を行うため、滋賀大学・内閣府経済社会総合研究所の調査[1]を参考にした。

構成要素	設問	選択肢
つきあい・交流（ネットワーク）	①あなたは、ご近所の方とどのようなおつきあいをされていますか。	１　互いに相談したり日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力しあっている人もいる【４点】 ２　日常的に立ち話をする程度のつきあいはしている【３点】 ３　あいさつ程度の最小限のつきあいしかしていない【２点】 ４　つきあいは全くしていない【１点】
	②つきあっているご近所の方の数について、次のうちから当てはまるものを１つだけ選び、番号に〇をつけてください。	１　近所のかなり多くの人と面識・交流がある（概ね 20 人以上）【４点】 ２　ある程度の人との面識・交流がある（概ね５～19 人）【３点】 ３　近所のごく少数の人とだけと面識・交流がある（概ね４人以下）【２点】 ４　隣の人がだれかも知らない【１点】
	③あなたは、友人・知人とどのようなおつきあい（学校や職場以外で）をされていますか。	５　日常的にある（毎日から週に数回程度）【５点】 ４　ある程度頻繁にある（週に１回～月に数回程度）【４点】 ３　ときどきある（月に１回～年に数回程度）【３点】 ２　めったにない（年に１回～数年に１回程度）【２点】 １　全くない【１点】 ０　該当する人がいない
	④あなたは、親戚・親類（同居している方を除く）とどのようなおつきあいをされていますか。	
	⑤あなたは現在、スポーツ・趣味・娯楽活動（各種スポーツ、芸術文化活動、生涯学習など）をされていますか。	２　活動している【２点】 １　活動していない【１点】
社会的信頼	⑥あなたは、一般的に人は信頼できると思いますか。	３　ほとんどの人は信頼できる【３点】 ２　両者の中間【２点】 １　注意するに越したことはない【１点】 ０　わからない
	⑦「旅先」や「見知らぬ土地」で出会う人に対して、信頼できると思いますか。	
社会参加（互酬性の規範）	⑧あなたは現在、地縁的な活動（自治会、町内会、婦人会、老人会、青年団、子ども会など）をされていますか。	２　活動している【２点】 １　活動していない【１点】
	⑨あなたは現在、ボランティア・NPO・市民活動（まちづくり、高齢者・障がい者福祉や子育て、スポーツ指導、美化、防犯・防災、環境、国際協力活動など）をされていますか。	

各設問ごとの平均値は、各選択肢ごとに、【　】内の点数を配点し算出した。

[1] 滋賀大学・内閣府経済社会総合研究所（2016）『ソーシャル・キャピタルの豊かさを生かした地域活性化』

（２）ソーシャル・キャピタル構成要素に関する実感の調査

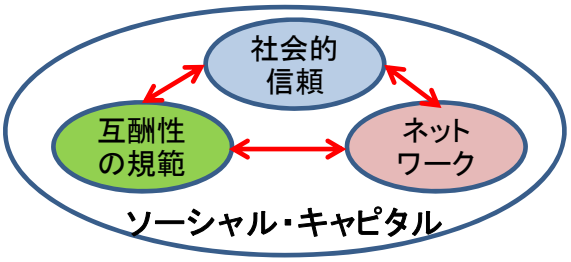
ソーシャル・キャピタルと主観的幸福感等の相関を調べるため、次の設問によりソーシャル・キャピタル構成要素に関する実感を調査した。また、併せて選択肢については、県民意識調査の既存の項目と合わせ、５段階評価とした。

設問	①地域への愛着を感じていますか。[地域への愛着] ②ご近所とのつきあいはよいと感じますか。[ご近所付き合いのよさ] ③信頼できる人が身近にいると感じますか。　[信頼できる人の有無] ④地域での活動や社会貢献活動に参加できていると感じますか。[地域活動等への参加]
選択肢	５　感じる ４　やや感じる ３　どちらともいえない ２　あまり感じない １　感じない

※　ソーシャル・キャピタルとは

人々の協調行動が活発化することで社会の効率性を高めることができる、社会の「信頼関係」、「規範」、「ネットワーク」（つきあい、交流）といった社会組織のこと。

ゆたかさを示す新たな指標の一つの可能性として、ソーシャルキャピタルの構成要素とされている、項目について新たに調査を行い、先行事例との比較を行うとともに、主観的幸福感、領域別実感との関連について分析を行った。



出所：　内閣府（2003）『ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて』
　　滋賀大学・内閣府経済社会総合研究所（2016）『ソーシャル・キャピタルの豊かさを生かした地域活性化』

２　集計結果

集計結果については、全国の結果として、滋賀大学・内閣府経済社会総合研究所での調査結果を示している。

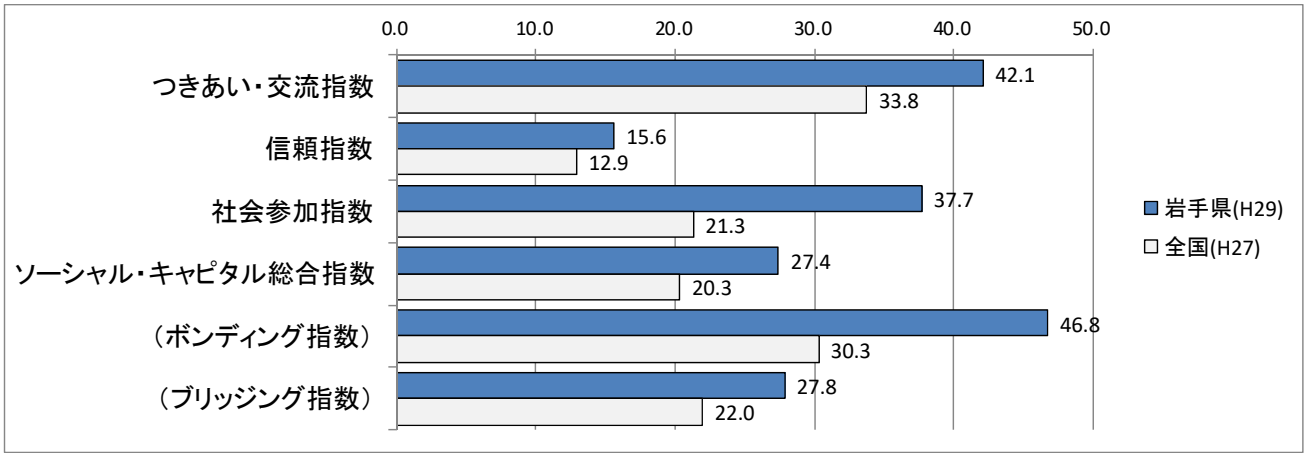
なお、当該調査とは抽出方法等が異なるため、調査結果を直接比較することはできないが、参考に記載しているものであること。

（１）ソーシャル・キャピタル指数

滋賀大学・内閣府経済社会総合研究所の調査の手法にならい、各種指数を算出した。

本県は、全国と比較してソーシャル・キャピタルが高いと考えられた。

図 20　ソーシャル・キャピタル指数



・ボンディング指数とは

結合型（bonding）ソーシャル・キャピタルを指数化したもの。結合型ソーシャル・キャピタルとは、組織の内部における人と人との同質的な結びつきで、内部で信頼や協力、結束を生むものであり、例えば、家族内や民族グループ内のメンバー間の関係を指す。

一般的には、結合型ソーシャル・キャピタルは、社会の接着剤とも言うべき強いきずな、結束によって特徴づけられ、内部志向的であると考えられる。このため、この性格が強すぎると、「排他性」につながる場合もあり得る。

・ブリッジング指数とは

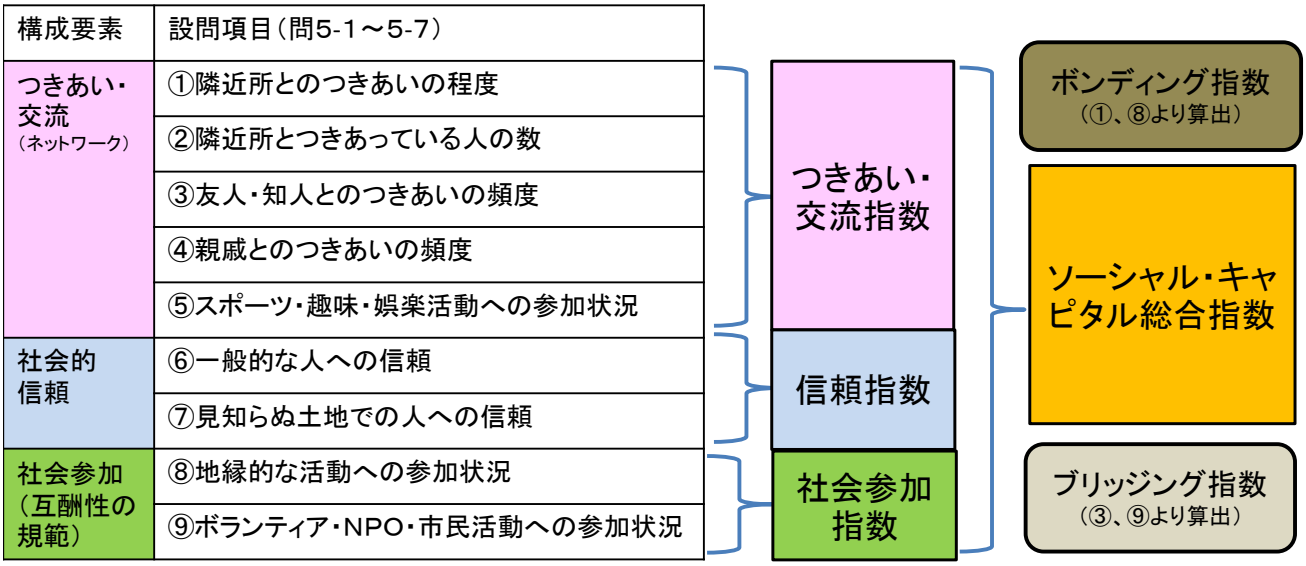
橋渡し型（bridging）ソーシャル・キャピタルを指数化したもの。橋渡し型ソーシャル・キャピタルとは、異なる組織間における異質な人や組織を結び付けるネットワークであるとされ、例えば、民族グループを越えた間の関係とか、知人、友人の友人などとのつながりを指す。

橋渡し型のソーシャル・キャピタルは、より弱く、より薄いが、より横断的なつながりとして特徴付けられ、社会の潤滑油とも言うべき役割を果たすとみられている。

出典：内閣府（2003）『ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて』

※各指数の算出方法

つきあい・交流指数	下記の数値の平均値で算出した。 ・「①近所とのつきあい」において「１　生活面で協力」「２　立ち話程度」と回答した割合 ・「②近所つきあいの人数」において、概ね５人以上と回答した割合. ・「③友人・知人とのつきあい」において、「５　日常的にある」「４　ある程度頻繁にある」と回答した割合 ・「④親戚・親類とのつきあい」において、「５　日常的にある」「４　ある程度頻繁にある」と回答した割合 ・「⑤スポーツ・趣味・娯楽活動」において、「２　活動している」と回答した割合
信頼指数	下記の数値の平均値で算出した。 ・「⑥一般的な人への信頼」において「３　ほとんどの人は信頼できる」と回答した割合 ・「⑦見知らぬ人への信頼」において「３　ほとんどの人は信頼できる」と回答した割合
社会参加指数	下記の数値の平均値で算出した。 ・「⑧地縁的な活動」において、「２　活動している」と回答した割合 ・「⑨ボランティア・ＮＰＯ・市民活動」において、「２　活動している」と回答した割合
ソーシャル・キャピタル総合指数	つきあい・交流指数、信頼指数、社会参加指数の平均値で算出した。
ボンディング指数	下記の数値の平均値で算出した。 ・「①近所とのつきあい」において「１　生活面で協力」「２　立ち話程度」と回答した割合 ・「⑧地縁的な活動」において、「２　活動している」と回答した割合
ブリッジング指数	下記の数値の平均値で算出した。 ・「③友人・知人とのつきあい」において、「５　日常的にある」「４　ある程度頻繁にある」と回答した割合 ・「⑨ボランティア・ＮＰＯ・市民活動」において、「２　活動している」と回答した割合



（２）各設問の集計結果

①　県全体

ア　つきあい・交流関連

「スポーツ・趣味・娯楽活動への参加」以外については、全国よりも平均値が高かった。

図 21　隣近所とのつきあいの程度

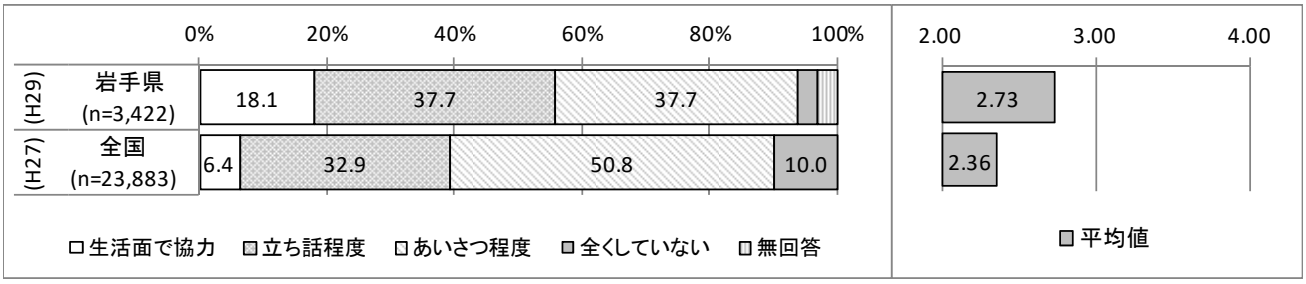


図 22　隣近所とつきあっている人の数

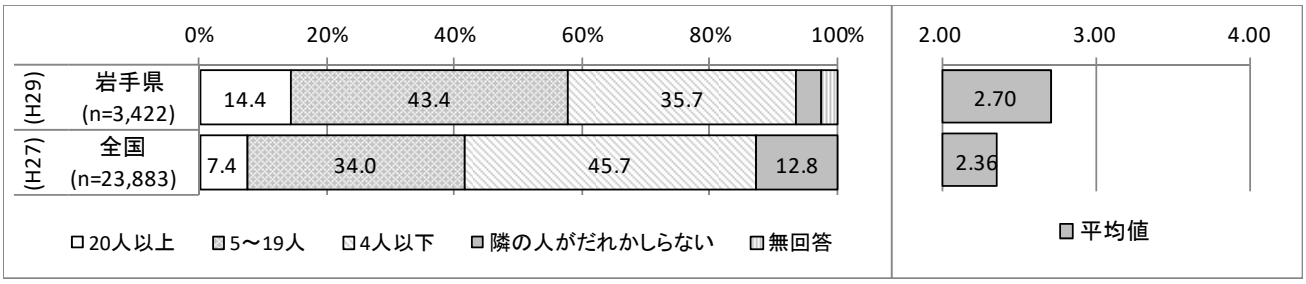


図 23　友人・知人とのつきあいの頻度

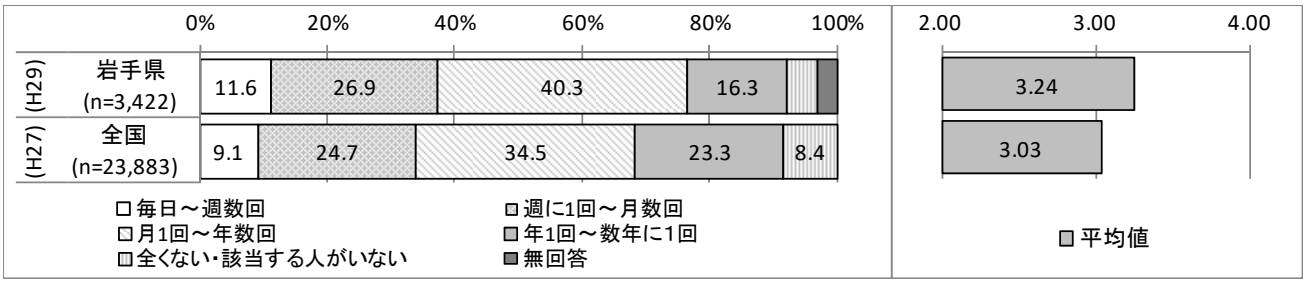


図 24　親戚・親類とのつきあいの頻度

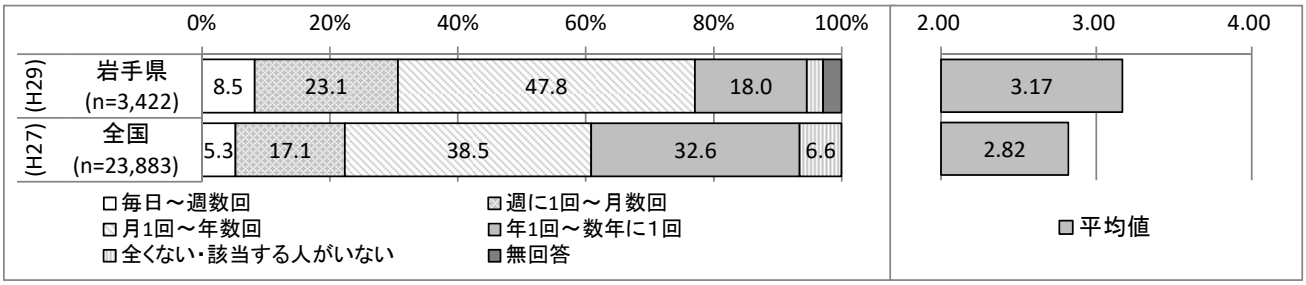
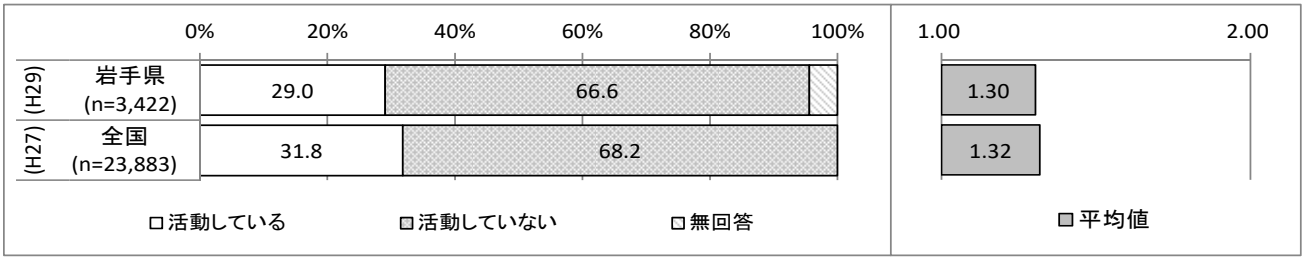


図 25　スポーツ・趣味・娯楽活動への参加



イ　信頼関連

いずれの設問においても、全国よりも平均値が高かった。

図 26　一般的な人への信頼

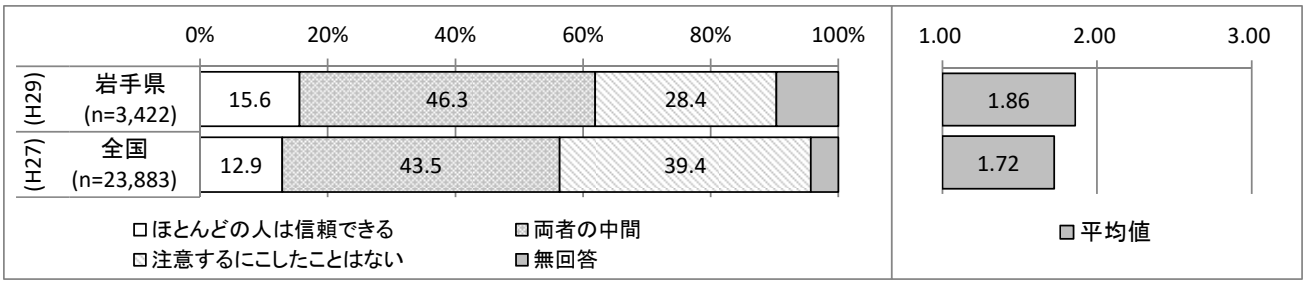
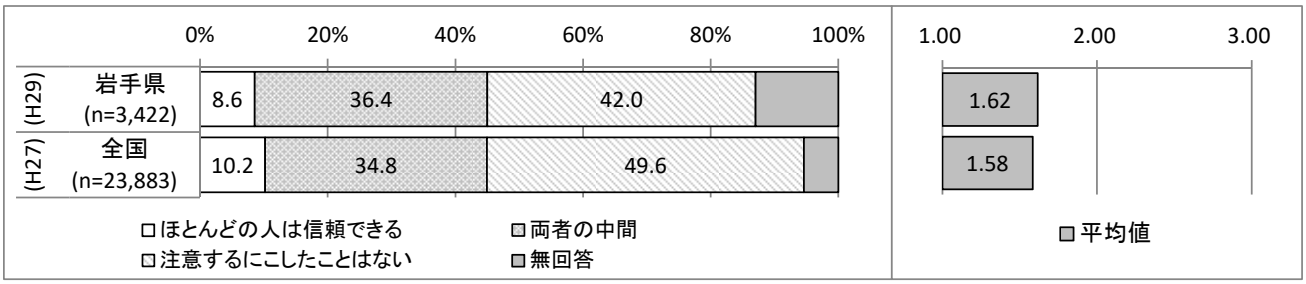


図 27　見知らぬ土地での人への信頼



ウ　社会参加指数関連

いずれの設問においても、全国よりも平均値が高かった。

図 28　地縁的な活動への参加

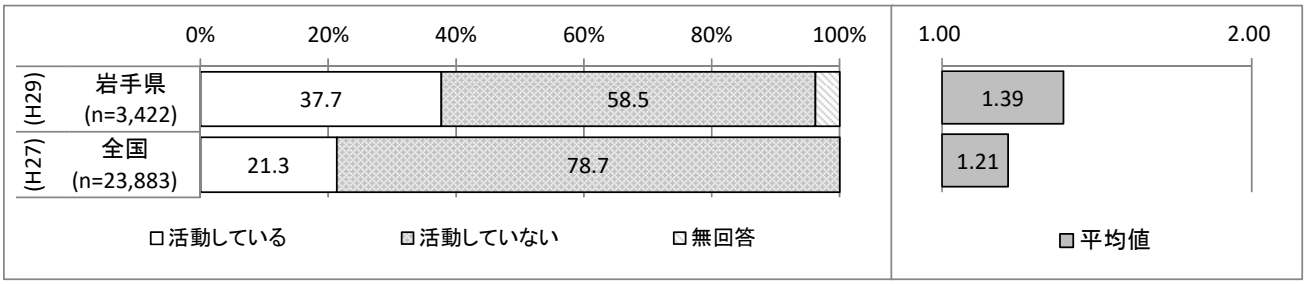
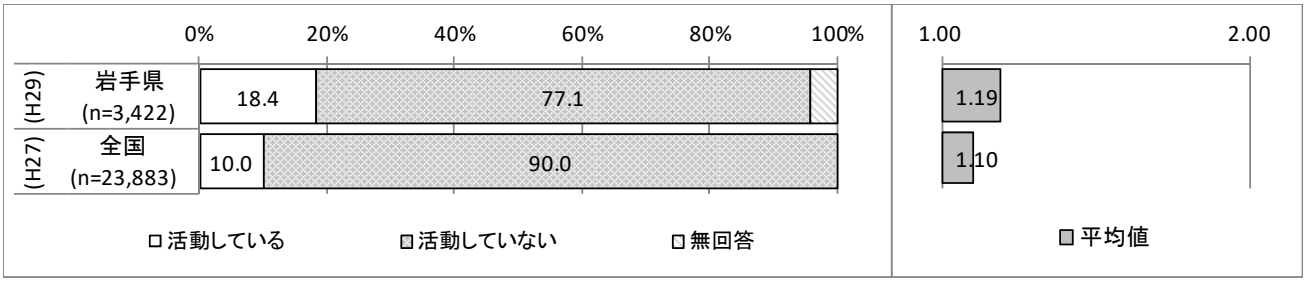


図 29　ボランティア・ＮＰＯ・市民活動への参加



② 属性別結果

ア 性別、世代別

各設問の平均値は、60 歳代及び 70 歳以上で高い傾向がみられた。

表５　ソーシャル・キャピタルの属性別の平均値

	項　目	県平均値	国平均値	男性	女性	18～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	備　考
つきあい・交流	①隣近所とのつきあいの程度	2.73	2.36	2.67	2.78	2.30	2.14	2.30	2.43	2.67	2.92	3.13	生活面で協力（4点） 立ち話程度（3点） あいさつ程度（2点） 全くしていない（1点）
	②隣近所とつきあっている人の数	2.70	2.36	2.74	2.67	2.49	2.28	2.38	2.50	2.72	2.87	2.89	20人以上（4点） 5～19人（3点） 4人以下（2点） 隣の人が誰か知らない（1点）
	③友人・知人とのつきあいの頻度	3.24	3.03	3.19	3.28	3.81	3.46	3.03	2.89	3.00	3.31	3.57	毎日～週数回（5点） 週に1回～月数回（4点） 月1回～年数回（3点） 年1回～数年に1回（2点） 全くない（1点）
	④親戚とのつきあいの頻度	3.17	2.82	3.10	3.22	3.15	3.03	3.05	2.97	3.04	3.25	3.39	
	⑤スポーツ・趣味・娯楽活動への参加状況	1.30	1.32	1.34	1.27	1.28	1.34	1.26	1.22	1.30	1.30	1.37	活動している（2点） 活動していない（1点）
信頼	⑥一般的な人への信頼	1.86	1.72	1.87	1.85	1.84	1.74	1.73	1.83	1.89	1.90	1.89	ほとんどの人は信頼できる（3点） 両者の中間（2点） 注意するにこしたことはない（1点）
	⑦見知らぬ土地での人への信頼	1.62	1.58	1.68	1.57	1.70	1.49	1.53	1.66	1.70	1.65	1.55	
社会参加	⑧地縁的な活動への参加状況	1.39	1.21	1.40	1.38	1.13	1.10	1.32	1.40	1.42	1.45	1.42	活動している（2点）、活動していない（1点）
	⑨ボランティア・NPO・市民活動への参加状況	1.19	1.10	1.23	1.16	1.15	1.10	1.13	1.14	1.18	1.23	1.25	

※県平均値より高い数値に網掛けをしている。

イ 幸福感別

主観的幸福感の高い層は、ソーシャル・キャピタルも高い傾向がみられた。

図 30　隣近所とのつきあいの程度

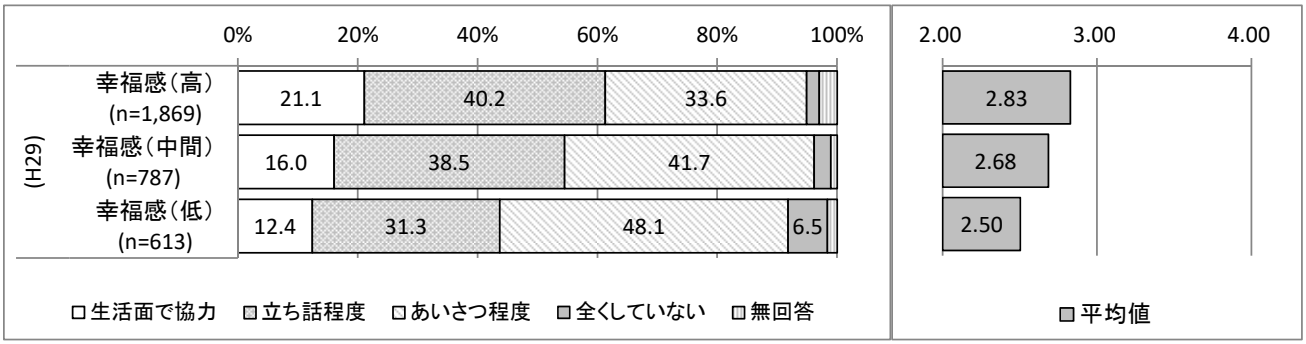


図 31　隣近所とつきあっている人の数

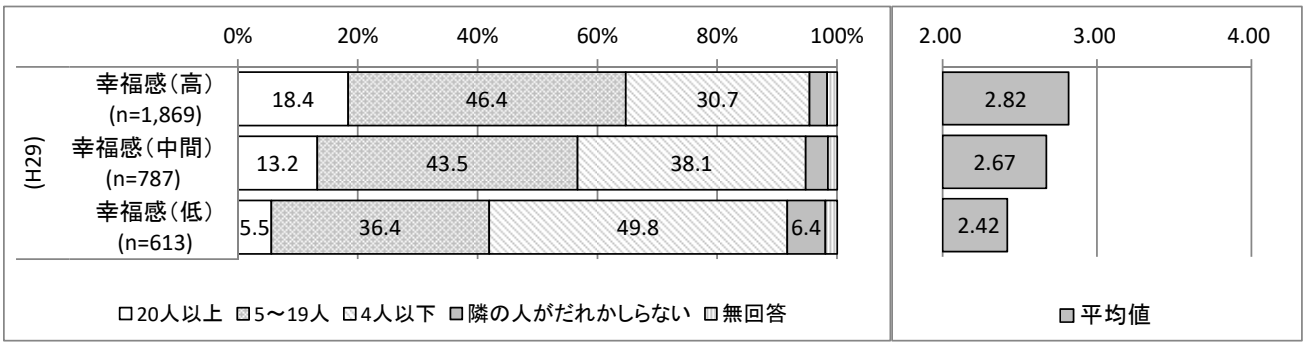


図 32　友人・知人とのつきあいの頻度

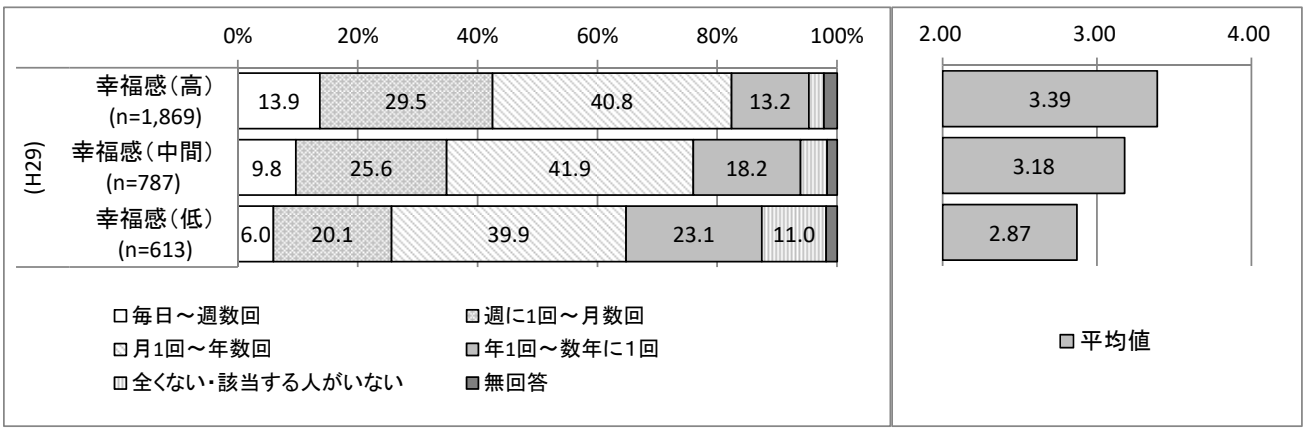


図 33　親戚・親類とのつきあいの頻度

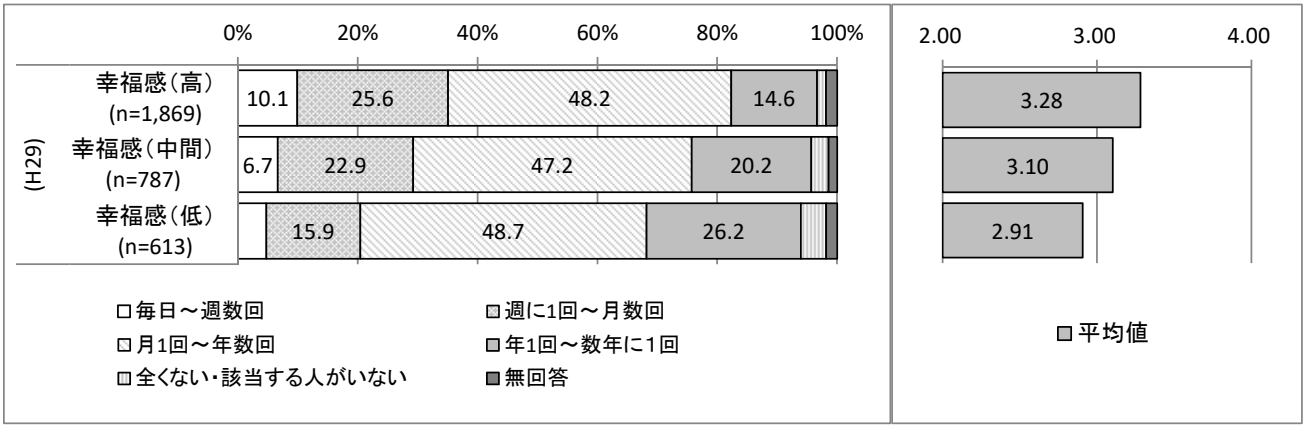


図 34　スポーツ・趣味・娯楽活動への参加

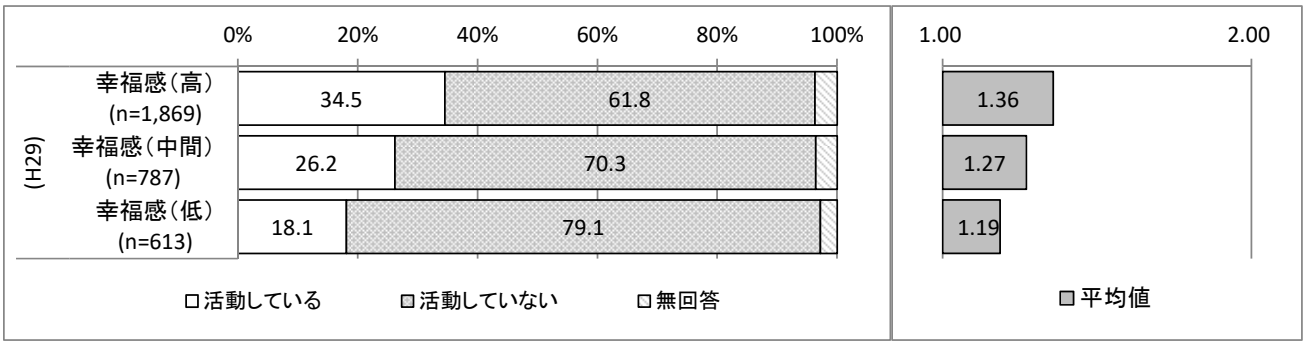


図 35　一般的な人への信頼

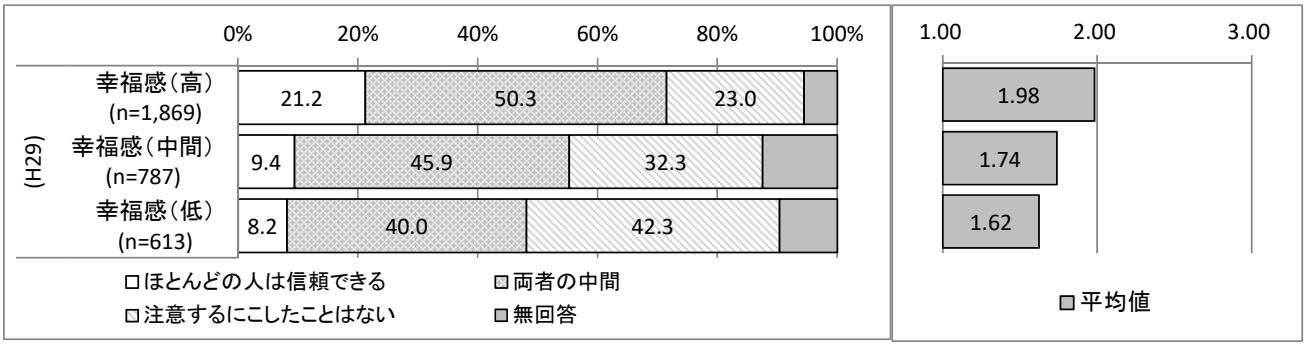


図 36　見知らぬ人への信頼

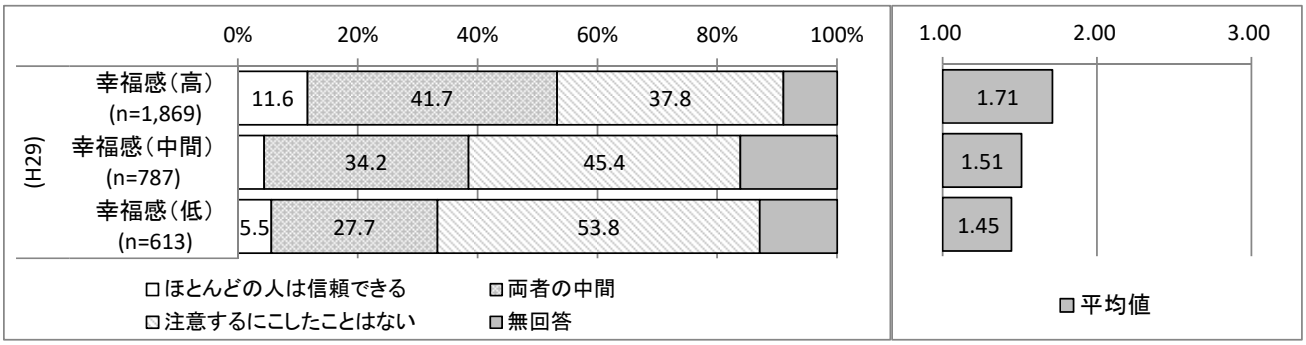


図 37　地縁的な活動への参加

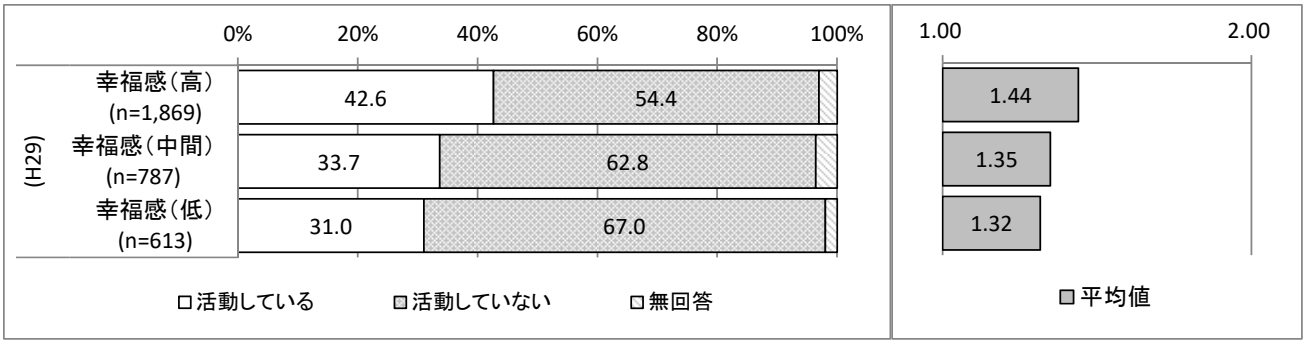
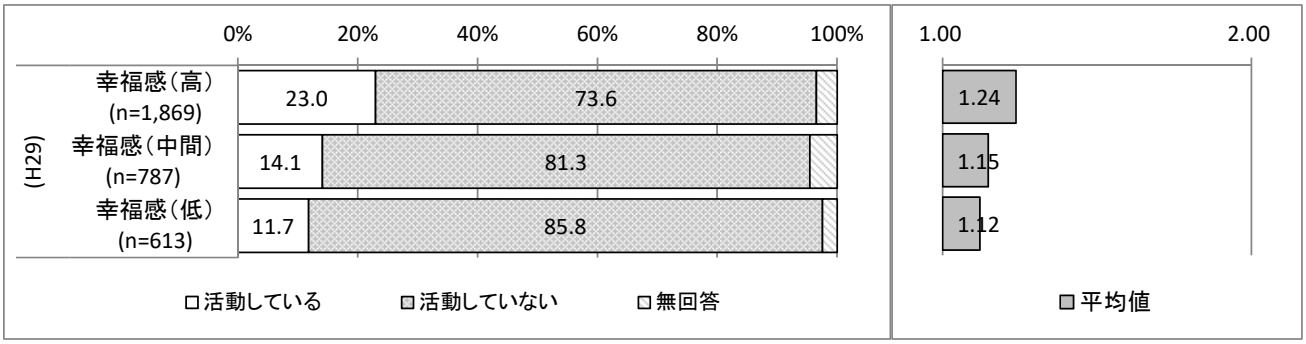


図 38　ボランティア・ＮＰＯ・市民活動への参加



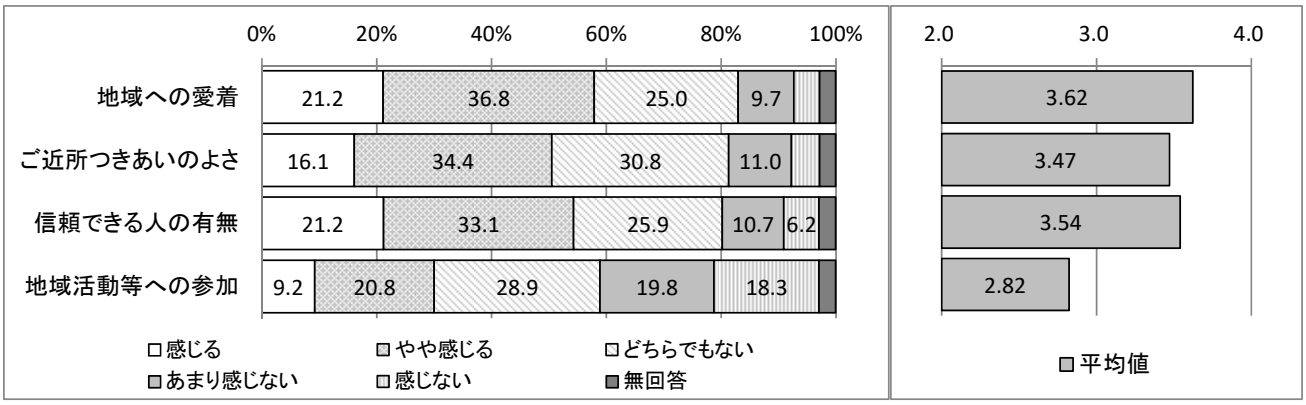
（３）ソーシャル・キャピタル構成要素の実感

①　県全体

「ご近所つきあいのよさ」、「信頼できる人がいるかどうか」、という設問に対し、半数以上が「感じる」、「やや感じる」と回答している。

参考に、「地域への愛着感」を確認したところ、半数以上が「感じる」、「やや感じる」と回答している。

図 39　ソーシャル・キャピタル構成要素の実感及び地域への愛着感



②　属性別結果

60 歳代、70 歳以上で高い傾向がみられた。

表 6　ソーシャル・キャピタル構成要素の実感（属性別）

項　目	県平均値	男性	女性	18～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
①地域への愛着	3.62	3.66	3.59	3.70	3.50	3.41	3.44	3.49	3.69	3.88
②ご近所つきあいのよさ	3.47	3.44	3.49	3.34	3.12	3.12	3.17	3.36	3.59	3.86
③信頼できる人の有無	3.54	3.49	3.58	3.89	3.63	3.41	3.33	3.38	3.55	3.80
④地域活動等への参加	2.82	2.88	2.77	2.77	2.38	2.43	2.57	2.80	3.02	3.07

※5段階評価の平均値。県平均より高い数値に網掛けをしている。

（４）主観的幸福感等との相関

ソーシャル・キャピタル構成要素ごとの実感と、主観的幸福感及び領域別実感との間に一定の相関がみられた。

表７　主観的幸福感等とソーシャル・キャピタル構成要素の実感の相関

	主観的幸福感	領域別実感														生活満足度	地域への愛着	ご近所つきあいのよさ	信頼できる人がいる	地域活動等への参加
		仕事のやりがい	必要な収入や所得	心身の健康	家族関係	子育て	地域の安全	地域社会とのつながり	自身の学習	子どもの教育	歴史・文化への誇り	自然のゆたかさ	自然環境の保護	住まいの快適さ	余暇の充実					
地域への愛着	0.30	0.29	0.21	0.22	0.21	0.25	0.27	0.43	0.31	0.30	0.44	0.31	0.25	0.32	0.28	0.26	1.00			
ご近所つきあいのよさ	0.25	0.21	0.16	0.24	0.22	0.25	0.26	0.49	0.28	0.28	0.31	0.26	0.21	0.28	0.24	0.19	0.57	1.00		
信頼できる人がいる	0.31	0.25	0.18	0.26	0.26	0.25	0.24	0.40	0.26	0.25	0.33	0.25	0.17	0.24	0.29	0.21	0.51	0.60	1.00	
地域活動等への参加	0.25	0.26	0.18	0.25	0.18	0.25	0.16	0.46	0.33	0.27	0.34	0.20	0.16	0.21	0.28	0.20	0.46	0.55	0.52	1.00

参考２

第５回研究会で示された主な御意見について

１　県民参画（幸福について考えるワークショップ）について

意見	対応案
ワークショップに参加しない（できない）方にどのようにアプローチをするか。 一人でも多くの方に幸福について考えてもらうために、どのようにしていくか。	「ワークショップの手引」や「幸福カルテ」をホームページで公表することで広く普及を図り、いつでも、誰でも活用できるようにする。

２　客観的幸福度指標について

意見	対応案
合計値、平均値などマクロな視点だけだとミクロの課題が隠れてしまう場合があるので、注意が必要である。 例えば、有効求人倍率は、合計値は 1.0 倍を超えているが、正規、非正規別や業種別でみると 1.0 倍を超えていないものも多い。	客観的幸福度指標を活用する際は、合計値、平均値だけでなく、属性等の分類別の状況に留意する。 ※最終報告書に、留意事項としての記載を検討する【第７、８回研究会で検討】。
東日本大震災の影響を受けているため、単純な経年比較が困難な指標もある。	震災の影響で経年比較が困難と思われる指標については、備考として震災前の数値を掲載する（例：一人当たり県民所得）。
高い値が望ましいのか、低い値が望ましいのか、価値判断が分かれるものについては、指標として設定するのは難しいのではないか（例：三世代同居率等）。	客観的指標は現状を把握するための補完指標として整理する。 指標に対する政策的な関与方向性については、いわて県民計画で採用している指標についてその旨表示する。
政策の影響が及ばないものは、指標としてではなく参考データとして掲載するなどしてはどうか（例：映画館数等）。	
都市的な指標が多いことから、岩手の優れた環境、岩手ならではの現状を示すものを加えてもよいのではないか。	

３　県民意識調査の結果について

意見	対応案
調査に回答しなかった約３割の方は、違う回答パターンを持っていると考えられる。 特に、貧困状況にある方の回答率は悪いと考えられることから、回答していない方がいるということに留意すること。	調査結果を活用する際は、調査に回答しない層がいることに留意する。 ※最終報告書に、留意事項としての記載を検討する【第７、８回研究会で検討】。
年齢別回収率では、60 歳以上の高齢者が約半数を占めており、調査結果に若者の意見が反映されない可能性がある。 集計、分析にあたっては、性別、年齢別等の属性別に実施すること。	性別、年齢、居住地別に集計、分析した。
地域別の回収率はどうなっているのか。	広域振興圏別の回収率は以下のとおり。 ・県央広域振興局　69.3% ・県南広域振興局　71.8% ・沿岸広域振興局　64.5% ・県北広域振興局　67.3% ※地域別以外の属性別回収率は算出できない。

参考３

客観的指標の具体例

中間報告書で示した客観的指標の項目例ごとに、先行研究、先行事例及びいわて県民計画第３期アクションプラン等から、次の視点により指標の具体例を選定した。
(1) アウトカムを測定できるデータであること（会議参加者数のような指標はできるだけ選定しない）
(2) 調査頻度が高く、経年変化を見ることができるデータであること
(3) 全国比較が可能であり、岩手の強みや弱みを的確に把握することができるデータであること

これらは一例であり、本案で客観指標の項目例を全て網羅しているわけではなく、次期総合計画の検討過程等において、さらに良い指標があれば変更する余地があるもの。

※1　若者：概ね20歳未満、成人：概ね20～65歳、高齢者：概ね65歳以上
※2　いわて県民計画第3期アクションプランの各種指標として設定されているデータに○印を、同一ではないが類似のデータに△印を付した。

凡例	・変更する箇所に下線を記載している。 ・削除する箇所に取り消し線を記載している。 ・実績は直近のものを示しており、カッコ内にいつ時点のデータか記載した。

平成29年6月9日時点

領域	客観的指標の項目例	対象※1	指標の具体例									APでの設定※2
				指標名	単位	直近の実績	全国平均	調査頻度	出典	備考	
仕事	失業関係	成人	1	完全失業率	%	2.4 (H28)	3.1 (H28)	毎年	労働力調査（基本集計）都道府県別結果（総務省統計局）		
	正規雇用関係 求人関係	成人	2	正社員の有効求人倍率	倍	0.72 (H28)	0.89 (H28)	毎年	一般職業紹介状況（岩手労働局）		○
	女性の雇用関係	**女性**	3	労働者総数に占める女性の割合	%	38.5 (H28)	34.4 (H28)	毎年	賃金構造基本統計調査（厚生労働省）		
	高齢者の雇用関係	高齢者	4	希望者全員が65歳以上まで働ける企業割合	%	86.5 (H28)	74.1 (H28)	毎年	高年齢者雇用状況報告の集計結果（岩手労働局）		
	障がい者の雇用関係	**障がい者**	5	障がい者の雇用率	%	2.07 (H28)	1.92 (H28)	毎年	障害者雇用状況報告の集計結果（岩手労働局）		
	生産活動関係		6	一人当たり県民所得**（経済規模）**	千円	2,716 (H26)	2,868 (H26)	毎年	県民経済計算年報（内閣府経済社会総合研究所）	**平成22年度 県：2,266千円 国：2,755千円**	○
			7	製造品出荷額等（従業者一人当たり）	百万円	27.5 (H26)	41.3 (H26)	毎年	工業統計情報（経済産業省）	**従業員4人以上の事業所が対象**	△
			8	農業産出額	億円	2,494 (H27)	88,631 (H27合計)	毎年	生産農業所得統計（農林水産省）		○
			9	林業産出額	千万円	2,297 (H27)	43,281 (H27合計)	毎年	生産林業所得統計（農林水産省）		○
			10	漁業産出額	億円	384 (H27)	14,878 (H27合計)	毎年	漁業産出額（農林水産省）	**海面漁業・海面養殖業**	○

領域	客観的指標の項目例	対象 ※1	指標の具体例								APでの設定 ※2
				指標名	単位	直近の実績	全国平均	調査頻度	出典	備考	
収入	収入・所得関係		11	現金給与額	千円	235.9 (H28)	304.0 (H28)	毎年	賃金構造基本統計調査（厚生労働省）		
	生活保護関係		12	生活保護率（人口千人当たり）	人	11.1 (H26)	17.0 (H26)	毎年	いわて統計白書（岩手県調査統計課）		

領域	客観的指標の項目例	対象 ※1	指標の具体例								APでの設定 ※2
				指標名	単位	直近の実績	全国平均	調査頻度	出典	備考	
居住環境	住宅面積関係		13	1住宅当たりの敷地面積	m2	404 (H25)	263 (H25)	5年に1回	住宅・土地統計調査（総務省統計局）		
			14	持ち家住宅の延べ面積（1住宅当たり）	m2	154.6 (H25)	122.3 (H25)	5年に1回	住宅・土地統計調査（総務省統計局）		
	都市の緑化関係		15	都市公園面積（人口1人当たり）	m2	10.96 (H26)	9.56 (H26)	毎年	都市公園整備水準調書（国土交通省都市局）		
	交通の利便性関係		16	道路舗装率	%	62.5 (H27)	81.6 (H27)	毎年	道路統計年報（国土交通省）		
			17	最寄りの駅まで2km以上かつバス停まで1km以上の距離がある住宅の割合	%	7.8 (H25)	4.2 (H25)	5年に1回	住宅・土地統計調査（総務省統計局）		
			18	生鮮食品販売店舗まで500m以上であり、自動車を持たない人口の割合【追加】	%	8.7 (H22)	6.7 (H22)	不定期	生鮮品販売店舗まで500m以上の人口・世帯数推計（農林水産省農林水産政策研究所）		
	情報関係		19	インターネットの利用率（1年間に利用したことがある人の割合）	%	72.8 (H27)	83.0 (H27)	毎年	通信利用動向調査（総務省）		○

領域	客観的指標の項目例	対象※1	指標の具体例									APでの設定※2
				指標名	単位	直近の実績	全国平均	調査頻度	出典	備考	
安全	犯罪数関係		20	刑法犯認知件数（人口千人当たり）	件	3.8（H27）	8.6（H27）	毎年	いわて統計白書（岩手県調査統計課）		○
	交通事故関係		21	交通事故発生件数（人口10万人当たり）	件	200.1（H27）	422.4（H27）	毎年	いわて統計白書（岩手県調査統計課）		○
	防災組織関係		22	自主防災組織の組織率	%	84.6（H28）	81.7（H28）	毎年	いわて統計白書（岩手県調査統計課）		○
	火災関係		23	**消防団員数（人口千人当たり）【追加】**	**人**	**17.4（H28）**	**6.7（H28）**	**毎年**	**消防白書（総務省消防庁）、人口推計（総務省統計局）**		○
			24	火災出火**件数**（人口1万人当たり）	**件**	3.70（H27）	3.05（H27）	毎年	いわて統計白書（岩手県調査統計課）		
	消費者相談関係		25	消費者生活相談解決割合	%	96.5（H27）	―	毎年	県民生活センター調べ		○

領域	客観的指標の項目例	対象※1	指標の具体例									APでの設定※2
				指標名	単位	直近の実績	全国平均	調査頻度	出典	備考	
余暇	趣味・娯楽活動関係		26	趣味・娯楽の平均時間（1日当たり　有業者　男性）	分	33（H23）	43（H23）	5年に1回	社会生活基本調査結果（総務省統計局）		
			27	趣味・娯楽の平均時間（1日当たり　有業者　女性）	分	23（H23）	29（H23）	5年に1回	社会生活基本調査結果（総務省統計局）		
	労働時間関係		28	総実労働時間（年間、事業所規模30人以上）	時間	1,885（H28）	1,783（H28）	毎年	毎月勤労統計調査地方調査（厚生労働省）		
	自由時間関係		29	3次活動時間（自由時間）（週全体）	分	371（H23）	387（H23）	5年に1回	社会生活基本調査結果（総務省統計局）		

領域	客観的指標の項目例	対象 ※1	指標の具体例									APでの設定 ※2
				指標名	単位	直近の実績	全国平均	調査頻度	出典	備考	
健康	寿命関係	~~高齢者~~	30	健康寿命（男性）	年	70.68 （H25）	71.19 （H25）	不定期	健康寿命の指標化に関する研究（健康日本21（第二次）等の健康寿命の検討）（厚生労働科学研究費補助金）	日常生活に制限のない期間の平均（年）	
			31	健康寿命（女性）	年	74.46 （H25）	74.21 （H25）	不定期			
	自殺関係		32	自殺者数（人口10万人当たり）	人	23.3 （H27）	18.5 （H27）	毎年	いわて統計白書（岩手県調査統計課）		○
	食事・栄養関係		33	朝食を毎日食べている生徒の率（中学生）	%	95.7 （H28）	93.3 （H28）	毎年	全国学力・学習状況調査（文部科学省）		
	運動関係		34	スポーツ実施率（週1回以上）	%	59.3 （H28）	58.7 （H24）	県：毎年 国：5年に1回	県：県民のスポーツ実施状況に関する調査（岩手県スポーツ健康課）、国：体力・スポーツに関する世論調査（文部科学省）		○
	医療・保健関係		35	医師数（人口10万人当たり）	人	192.0 （H26）	233.6 （H26）	2年に1回	いわて統計白書（岩手県調査統計課）		○
			36	**特定健康診査受診率**	**%**	**50.0 （H26）**	**48.6 （H26）**	**毎年**	**特定健康診査・特定保健指導に関するデータ（厚生労働省）**		○
	介護関係	高齢者	37	要介護認定を受けていない人の割合(65歳以上)	%	80.8 （H26）	82.1 （H26）	毎年	介護保険事業状況報告（厚生労働省）		△
	老人福祉施設関係	高齢者	38	介護老人福祉施設定員数（65歳人口千人当たり）	人	16.4 （H27）	14.3 （H27）	毎年	介護サービス施設・事業所調査（厚生労働省）、人口推計（総務省統計局）		
	障がい者福祉関係	**障がい者**	39	障がい者支援施設等定員数（人口千人当たり）	人	2.51 （H27）	1.54 （H27）	毎年	社会福祉施設等調査報告（厚生労働省）、人口推計（総務省統計局）		

領域	客観的指標の項目例	対象 ※1	指標の具体例									APでの設定 ※2
				指標名	単位	直近の実績	全国平均	調査頻度	出典	備考	
子育て	出生率関係	**成人**	40	合計特殊出生率		1.49 （H27）	1.45 （H27）	毎年	人口動態統計（厚生労働省）		○
	乳児医療関係	若者	41	乳児死亡率（出生数千人当たり）	**人**	3.1 （H27）	1.9 （H27）	毎年	人口動態統計（厚生労働省）		
	待機児童関係	~~成人~~	42	待機児童数	人	194 （H28）	501 （H28）	毎年	保育所等関連状況調査（厚生労働省）		
	児童虐待関係	若者	43	児童虐待相談対応件数（20歳未満人口千人当たり）	件	280.5 （H27）	469.5 （H27）	毎年	福祉行政報告例（厚生労働省）、人口推計（総務省統計局）		

領域	客観的指標の項目例	対象※1	指標の具体例									APでの設定※2
				指標名	単位	直近の実績	全国平均	調査頻度	出典	備考	
教育	学歴関係		44	大学等進学率	%	42.7 (H27)	54.5 (H27)	毎年	いわて統計白書（岩手県調査統計課）		
	いじめ・不登校関係	若者	45	不登校児童生徒数（小中学校児童生徒千人当たり）	人	10.4 (H27)	12.6 (H27)	毎年	児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査		○
	学力関係	**若者**	46	全国学力テストの正答率（中学生　国語）	%	71.0 (H28)	71.1 (H28)	毎年	全国学力・学習状況調査（文部科学省）		
			47	全国学力テストの正答率（中学生　数学）	%	49.1 (H28)	53.2 (H28)	毎年	全国学力・学習状況調査（文部科学省）		
	思いやり関係	若者	48	人が困っているときは、進んで助けている率（中学生）	%	86.6 (H28)	83.8 (H28)	毎年	全国学力・学習状況調査（文部科学省）		
	子どもの体力関係	若者	49	体力・運動能力調査の総合評価がA～C段階（平均以上）の児童生徒の割合	%	79.9 (H27)	75.6 (H27)	毎年	全国体力・運動能力、運動習慣等調査（文部科学省）		○
	生涯学習関係	成人・高齢者	50	生涯学習センターの利用状況（人口千人当たり）	人	87.7 (H26)	206.3 (H26)	3年に1回	社会教育調査（文部科学省）、人口推計（総務省統計局）		

領域	客観的指標の項目例	対象※1	指標の具体例									APでの設定※2
				指標名	単位	直近の実績	全国平均	調査頻度	出典	備考	
家族	婚姻関係	成人・**高齢者**	**51**	**結婚サポートセンターの会員成婚数【変更】**	**組**	**10 (H28)**	**－**	**毎年**	**子ども子育て支援課調べ**		○
			52	**生涯未婚率（男性）【変更】**	**%**	**26.16 (H27)**	**23.37 (H27)**	**5年に1回**	**人口統計資料集（国立社会保障・人口問題研究所）**		
			53	**生涯未婚率（女性）【変更】**	**%**	**13.07 (H27)**	**14.06 (H27)**	**5年に1回**	**人口統計資料集（国立社会保障・人口問題研究所）**		
	世帯構成関係	**高齢者**	**54**	**65歳以上の独居世帯割合【追加】**	**%**	**14.3 (H25)**	**17.7 (H25)**	**5年に1回**	**人口統計資料集（国立社会保障・人口問題研究所）**		
			55	三世代同居率	%	12.2 (H27)	5.7 (H27)	5年に1回	国勢調査（総務省統計局）		
	男性の家事時間関係	成人	56	6歳未満の子供がいる夫の家事時間（週全体）	分	31 (H23)	12 (H23)	5年に1回	社会生活基本調査結果（総務省統計局）		
	親子の会話関係		57	家の人と学校での出来事について話をする率（中学生）	%	76.1 (H28)	74.1 (H28)	毎年	全国学力・学習状況調査（文部科学省）		

領域	客観的指標の項目例	対象※1	指標の具体例									APでの設定※2
				指標名	単位	直近の実績	全国平均	調査頻度	出典	備考		
コミュニティ	NPO・ボランティア活動関係		58	ボランティア活動の年間行動者率	%	33.7 (H23)	26.3 (H23)	5年に1回	社会生活基本調査結果(総務省統計局)			
			~~-~~	~~NPO法人認証数(人口10万人当たり)~~【削除】	~~法人~~	~~36.4~~ ~~(H27)~~	~~39.7~~ ~~(H27)~~	~~毎年~~	~~内閣府調査、人口推計(総務省統計局)~~		△	
	地域行事への参加関係		59	今住んでいる地域の行事に参加している率(中学生)	%	65.6 (H28)	45.2 (H28)	毎年	全国学力・学習状況調査(文部科学省)			
			60	地縁的な活動への参加率【追加】	%			今後検討	今後県民意識調査等での調査を検討する。			
	募金活動関係		61	赤い羽根共同募金平均寄付額(一人当たり)	円	290 (H27)	144 (H27)	毎年	赤い羽根共同募金ホームページ			
	高齢者の社会活動関係	高齢者	62	老人クラブ会員数(65歳以上人口千人当たり)	人	196.5 (H27)	174.4 (H27)	毎年	福祉行政報告例(厚生労働省)、人口推計(総務省統計局)			
	相談相手関係		63	隣近所との面識・交流がある人の率【変更】	%			今後検討	今後県民意識調査等での調査を検討する。			
	定住関係		64	県外からの移住・定住者数	人	1,387 (H27)	－	毎年	岩手県政策地域部調査		○	

領域	客観的指標の項目例	対象※1	指標の具体例									APでの設定※2
				指標名	単位	直近の実績	全国平均	調査頻度	出典	備考		
歴史・文化	多文化共生関係		~~-~~	~~出国者数(人口千人当たり)~~【削除】	~~人~~	~~32.5~~ ~~(H27)~~	~~127.6~~ ~~(H27)~~	~~毎年~~	~~出入国管理統計(法務省)、人口推計(総務省統計局)~~			
			65	留学生数(人口10万人当たり)	人	25.2 (H27)	164.0 (H27)	毎年	外国人留学生在籍状況調査((独)日本学生支援機構)、人口推計(総務省統計局)			
	文化財関係		66	民俗文化財指定件数(累計)	件	16 (H28)	10.9 (H28)	毎年	いわて統計白書(岩手県調査統計課)			
	文化関連施設関係		67	常設映画館数(人口100万人当たり)	館	14.1 (H27)	11.7 (H27)	毎年	いわて統計白書(岩手県調査統計課)			
			68	劇場・音楽館数(人口100万人当たり)	館	21.1 (H27)	14.6 (H27)	3年に1回	社会教育調査(文部科学省)、人口推計(総務省統計局)			

領域	客観的指標の項目例	対象 ※1	指標の具体例									APでの設定 ※2
				指標名	単位	直近の実績	全国平均	調査頻度	出典	備考	
自然環境	環境基準関係		69	大気の二酸化窒素等環境基準達成率	%	100 (H26)	99.8 (H26)	毎年	大気汚染状況(環境省)		○
			70	公共用水域のBOD(生物化学的酸素要求量)等環境基準達成率	%	97.3 (H27)	91.1 (H27)	毎年	公共用水域測定結果(岩手県)		○
	リサイクル関係		71	ごみのリサイクル率	%	18.0 (H27)	18.8 (H27)	毎年	一般廃棄物処理実態調査(環境省)		△
	ごみの排出量関係		72	一人一日当たりごみ排出量	グラム	933 (H27)	939 (H27)	毎年	一般廃棄物処理実態調査(環境省)		○
	森林関係		73	森林面積割合	%	74.9 (H26)	65.5 (H26)	5年に1回	農林業センサス〔農山村地域調査〕(農林水産省)		
	エネルギー関係		74	再生可能エネルギー自給率	%	15.5 (H27)	8.0 (H27)	毎年	永続地帯報告書(千葉大学、認定NPO 法人環境エネルギー政策研究所)		△
	温泉関係		**75**	**温泉地数【追加】**	**箇所**	**79 (H27)**	**67 (H27)**	**毎年**	**温泉利用状況(環境省)**		